

令和元年度指定

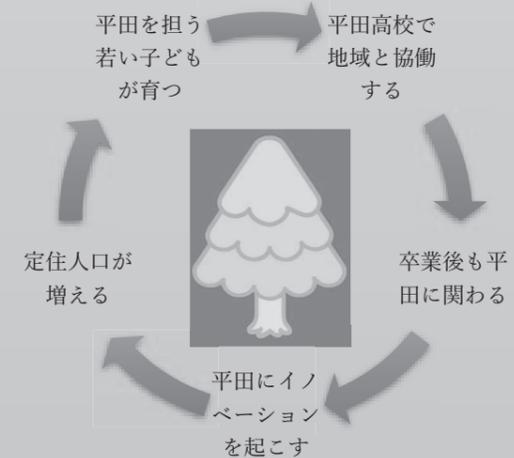
地域との協働による高等学校教育改革推進事業

～地域魅力化型～

研究開発実施報告書・第1年次



地域人材育成循環システム 平田プラタナスプラン



令和2年3月

島根県立平田高等学校

地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の推進

～文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」へのチャレンジ～

島根県立平田高等学校

校長 坂根 昌宏

本校は出雲市北東部に位置する平田地域にあります。平田地域は2005（平成17）年3月に出雲市と合併する前の旧「平田市」であった地域です。合併後、出雲市全体としては企業誘致が進み、人口も増えていますが、平田地域は人口が約3,000人減少しています。また、地域の産業も後継者不足などから衰退する傾向にあり、地域の商店街には空き家が目立ちます。

この平田地域にある唯一の高等学校である本校は、今年度、創立103年目を迎えました。現在は普通科のみの1学年4学級の規模であり、462名の生徒が在籍しています。生徒の約4割が平田地域に住んでおり、それ以外の生徒もほとんどが出雲市内または松江市内の自宅から通学しています。部活動では、野球部の子ども野球教室、JRC部の防災啓発活動、吹奏楽部・放送部・美術部の文化活動への参加など、地域に根ざした活動を行っています。しかし、平田地域の人口の減少は今後も続き、15年後の高校1年生である0才の人口はわずか107人であり、学級減どころか学校の存続も危ぶまれる状況です。

2018（平成30）年、平田商工会議所から創立70周年の記念事業として本校と共に地域の活性化に取り組みたいという要請がありました。それを受けて2年生の総合的な学習の時間に「地域課題解決学習」を計画し、生徒が「平田まつり」や「平田まちあそび」などの地域イベントの企画・運営に関わったり、地元産のあずきを使ったスイーツを開発し、地元の菓子店の協力を得て商品化して地元や東京で販売したりする活動を行いました。地域の方々は、高校生が地域の活性化に関わることを大変喜んでくださり、本校の教育活動に関わり、支援したいという地域諸団体からの声がたくさん寄せられるようになりました。また、生徒たちにとっても、地域の方々との意見交換をしながら一緒に活動した体験的・探究的な学習は、地域に対する肯定感や貢献意識を高めるとともに、島根が目指す学力である「主体的に課題を見つけ、さまざまな他者と協働しながら、答えのない課題に粘り強く向かっていく力」を身につけることにつながる、貴重な学びの機会となりました。

こうした地域と関わる取組を継続し、さらに充実させるために、文部科学省の新規事業である「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」にチャレンジすることにしました。本校が申請した「地域魅力化型」の募集枠は全国でわずか20校でしたが、本校の事業計画である「地域人材育成循環システム 平田プラタナスプラン」は難関を突破し、採択されました。プラタナスは平田地域のシンボルツリーであり、大きな葉の下は夏には格好の木陰となり、街路樹にも多く見られる生命力の強い木です。本校の取組は、このプラタナスの木のように、本校の生徒たちを地域にある様々な人的・物的資源を栄養として深緑の葉のごとく地域を包み込む地域人材として育成し、その人材が高校卒業後も地域で学びの土壌を育み、次世代を担う子どもたちを育てるという循環システムの構築を目指しています。昨年度、平田商工会議所と連携して取り組んだ「地域課題解決学習」を基盤に、これまで取り組んできたキャリア教育を組み合わせ、3年間の総合的な学習（探究）の時間の学びが系統的なものとなるよう学習計画を再編成しました。

この報告書は、今年度の「平田プラタナスプラン」の実践をまとめたものです。1年間の取組の成果と課題を踏まえて、次年度はさらに質の高い学びを目指して改善したいと考えています。地域には生きた課題が数多く存在するため、地域への興味や関心を深め、地域の課題を探究する機会を提供することができます。本校は、普通科のみの学校であるため特色を出しにくい面がありますが、これまで重点を置いてきた学業と部活動の両立に加えて、地域と連携した人材育成を新たな魅力として位置づけ、生きる力が身につく学校づくりを推進したいと考えています。平田高校のチャレンジは、これからも続きます。

目 次

研究開発実施計画書	1
研究開発実施状況報告書	4
1年 職業人講演会	14
地元企業ガイダンス	15
学問分野別ガイダンス	16
名古屋研修旅行（事前学習）	17
名古屋研修旅行	18
名古屋研修旅行（事後学習、新聞作り）	19
平田のお店調べ	20
平田ウイングバスツアー	
・実施計画	22
・打ち合わせ、当日の様子 1年1組	24
・打ち合わせ、当日の様子 1年2組	26
・打ち合わせ、当日の様子 1年3組	28
・打ち合わせ、当日の様子 1年4組	29
2年 地域協働学習	
・ガイダンス	30
・フィールドワーク	31
・大学教員の講演会	32
・班別探究活動 指導案作成関係	33
・イベント参加・課外活動関係	39
・班別探究活動 2年1組	45
・班別探究活動 2年2組	47
・班別探究活動 2年3組	49
・班別探究活動 2年4組	51
鳥根県立大学 学生ゼミナール	53
しまね大交流会	55
埼玉県WinWinプロジェクトフォーラム	56
しまね探究フェスタ、マイプロ	58

1・2年 大学生向け平田まちづくりワークショップ	60
地域と高校生の未来を語る会	62
1年 個人探究活動 1年生	65
2年 個人探究活動 2年生	66
1・2・3年 地域協働フォーラム2019秋	67
1・2年 地域協働フォーラム2020春	72
3年 志望理由書の作成	75
地元中学校でのキャリア学習成果発表会	77
特別講座 地域探究	79
1・2・3年 図書館活用、学習支援など	80
各教科での取り組み	
・教科主任会	85
・国語	87
・地歴公民	89
・数学	91
・理科	92
・保健体育	94
・芸術	96
・英語	97
・家庭	99
・情報	101
コンソーシアム会議、運営指導委員会	102
編集後記	104
ビジュアル資料	105
生徒発表資料（抜粋）	106
地域協働フォーラム2019・秋 ポスター	107
地域協働フォーラム2020・春 ポスター	108
写真集	109

(別紙様式1)

平成31年4月1日

研究開発実施計画書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	島根県松江市殿町1番地
管理機関名	島根県教育委員会
代表者名	教育長 新田 英夫 印

1 指定校名・類型

学校名	島根県立平田高等学校
学校長名	坂根 昌宏
類型	地域魅力化型

2 研究開発名 地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の構築

3 研究開発の概要

食物において「旬」が最も栄養価が高く味も良いのと同様に、「旬」のテーマをカリキュラムに取り入れることで、生徒も大人も意欲的に取り組むことができる。また、成果が数値等で「見える化」できる取組にすることで、生徒が地域での成功体験を積み上げ、将来的に地域で活躍したいという思いを育むことができるであろう。

具体的には、以下の3つのテーマに基づき、その時々旬に合わせた題材を設定し地域協働学習を行う。

この3つのテーマは地域における普遍性・汎用性を持ち、その題材は「旬」により様々に代わっても、継続的に取り組むことのできる、また継続の価値の高いテーマである。

① 地域ブランドの創出

- ・地域資源の活用により、今ある資源の価値を再発見し、新しい価値を創造する
- ・地域ブランドの創出のノウハウとそのためのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・生徒が将来地域ブランドの創出に関わる仕事がしたい、または、地元で起業して新しい産業を生み出したいという意欲を育てる。
- ・地域ブランドを次々と創出していくことができる地域人材を育成する。

② 多文化共生社会の推進

- ・多文化共生社会の推進に関わるノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・同じような手法によって、多様な文化を持つ人々が住みやすい街づくりを進める。

③ ファン人口・交流人口の増加策

- ・観光振興のノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・観光客向けの飲食店が増えるなど、産業が活性化する方法を考える。
- ・地域の資源を活かした街づくりに積極的に関わる人材を育成する。

4 教育課程の特例の活用の有無 特になし

5 事業の実施期間 契約日～令和2年3月31日

6 2019年度の研究開発実施計画

(1) 総合的な学習（探究）の時間の学習計画

総合的な学習（探究）の時間 各学年1単位			
月	1年	2年	3年
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・職業人講演会 ・学部学科研究 ・地元企業ガイダンス ・研修旅行調べ学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・フィールドワーク ・大学教員の講演会 ・地元企業ガイダンス ◆班別探究活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●個人探究活動 ・志望理由書の作成 ・志望理由プレゼン ・3年間のまとめ ●中学校で成果発表
5月			
6月			
7月			
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業調べ ・研修旅行直前学習 ・名古屋研修旅行 ・研修旅行の振り返り ・研修旅行のまとめ ・平田バスツアー ・2年成果発表を聴講 ・地域活性化講演会 ●個人探究活動 	<ul style="list-style-type: none"> ～大学生向けワーク ショップ～ ～島根県立大学での 学生ゼミナール参加～ ◆班別探究成果発表 ・地域活性化講演会 ●個人探究活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●進路に応じた自己PRのプレゼン
9月			
10月			
11月			
12月			
1月	<ul style="list-style-type: none"> ●成果発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ●成果発表会 	<ul style="list-style-type: none"> ●3年間の学びの振り返り
2月			
3月			

(2) カリキュラム開発の流れ

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
カリキュラムドクターとの協働研究												→
ポートフォリオ作成（キャリア・パスポート）												→
教科会等での題材開発	各教科年間2回の研究授業											
地域協働学習ワーキングチーム会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域協働学習授業担当者会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キャリア教育推進委員会		○					○				○	
発表会（学園祭、県内・県外発表）					○		○	○			○	

(3) 研究開発の視点

- ・表の太枠にある2年生の活動を「地域協働学習の主軸」とし、1年生の活動は「地域協働学習」をすすめるために必要な素養を身につける活動、3年生は「地域協働学習」の成果を次世代の高校生や地域社会に伝えていく活動と位置づけ、実施内容の改善を行う。
- ・各教科・科目では、上記内容に関連したカリキュラムを開発し実施する。

- (例)
- ・科学と人間生活, 生物基礎, 生物・・・あずきの成分分析など
 - ・地理A・B, 世界史A・B・・・ブラジルの文化や生活習慣についての調査
 - ・数学I・・・観光客数, 売上金額などのデータの処理や分析
 - ・社会と情報・・・成果発表資料作成能力の獲得 (Word, Excel, PowerPoint)

- ・各教科で年間2回の研究授業を行い、研究開発実施計画と関連する教科横断型の題材開発を行う。その際、カリキュラムドクターや指導主事等による指導助言を受ける。
- ・各教科の取り組みをキャリア教育推進委員会で共有・分析し、以降の取り組み内容の改善と深化を図る。
- ・キャリア学習用のファイルと、クラウド型学習支援システム「Classi」のポートフォリオ機能を用いてキャリアパスポートを作成することで、生徒自身の振り返りを深化させて学習の質を上げていく。また、学校を含めたコンソーシアムは、生徒の振り返り内容から取り組み内容を改善点を見つけ、次年度以降の計画に活かす。

<添付資料>

- ・目標設定シート
- ・2019年度教育課程表

7 事業実施体制

全体統括 平田高校 : 教頭、地域協働事業担当
 平田商工会議所 : 事務局長

課題項目	実施場所	事業担当責任者
① 地域ブランドの創出	平田高校 地元菓子店 あずき栽培圃場	平田高校：2年1組副担任 平田商工会議所：職員
② 多文化共生社会の推進	平田高校 幼稚園、保育所 小・中学校	平田高校：2年2組副担任 平田商工会議所：職員
③ ファン人口・交流人口の増加策	平田高校 平田・木綿街道 平田・本町商店街	平田高校：2年3・4組副担任 平田商工会議所：職員2名

8 課題項目別実施期間

- ①地域ブランドの創出 [あずきを用いた商品開発、あずきについての基礎研究]
- ②多文化共生社会の推進 [外国人との交流会企画、異文化理解活動]
- ③ファン人口・交流人口の増加策 [地域イベントの企画、木綿街道・商店街の活性化活動]

業務項目	実施期間（契約日～令和2年3月31日）							
	4～11月				12月～3月			
①地域ブランドの創出 ②多文化共生社会の推進 ③ファン人口・交流人口の増加策	ガイダンス	基調講演	調査研究	→	→	成果検証	まとめ	発表 <生徒> ・個人探究に活かす <コンソーシアム> ・活動内容の見直し ・次年度の計画立案

9 知的財産権の帰属（プロフェッショナル型のみ）

10 再委託の有無 再委託業務の有無 有 ・ 無

11 所要経費 別添のとおり

【担当者】

担当課	島根県教育庁教育指導課
氏名	立石 祥美
職名	調整監

(別紙様式2)

令和2年1月6日

研究開発実施状況報告書

住所 島根県松江市殿町1番地
管理機関名 島根県教育委員会
代表者名 教育長 新田英夫

令和元年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発の実施状況を、下記のとおり報告します。

記

1 事業の実施期間

令和1年 5月30日(契約締結日)～ 令和2年 3月31日

2 指定校名・類型

学校名 島根県立平田高等学校
学校長名 坂根 昌宏
類型 地域魅力化型

3 研究開発名 地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の構築

4 研究開発概要

生徒が地域での成功体験を積み上げ、将来的に地域で活躍したいという思いを育むことを目指している。具体的には、以下の3つのテーマに基づき地域協働学習を行う。

① 地域ブランドの創出

- ・地域資源の活用により、今ある資源の価値を再発見し、新しい価値を創造する
- ・地域ブランドの創出のノウハウとそのためのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・生徒が将来地域ブランドの創出に関わる仕事がしたい、または、地元で起業して新しい産業を生み出したいという意欲を育てる。
- ・地域ブランドを次々と創出していくことができる地域人材を育成する。

② 多文化共生社会の推進

- ・多文化共生社会の推進に関わるノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・同じような手法によって、多様な文化を持つ人々が住みやすい街づくりを進める。

③ ファン人口・交流人口の増加策

- ・観光振興のノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・観光客向けの飲食店が増えるなど、産業が活性化する方法を考える。
- ・地域の資源を活かした街づくりに積極的に関わる人材を育成する。

5 教育課程の特例の活用の有無 なし

6 管理機関の取組・支援実績

(1) コンソーシアムについて

①コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
島根県立平田高等学校（地域協働推進校）	校長 坂根 昌宏
平田商工会議所	会頭 大谷 厚郎
公立大学法人島根県立大学	理事長 清原 正義
出雲市	市長 長岡 秀人
平田ロータリークラブ	会長 持田 稔樹
平田ライオンズクラブ	会長 中濱 賢造
平田地域コミュニティセンター（11地区）	佐香コミュニティセンター長 服部 昌幸
平田青年会議所	理事長 園 敬司
雲州平田文化協会	会長 山下 壮一
ひらたCATV	代表取締役社長 石原 俊太郎
NPO法人ひらたスポーツ・文化振興機構	理事長 二瀬 武博
出雲市立平田中学校	校長 糸賀 和雄
出雲市立向陽中学校	校長 糸原 進
カリキュラムドクター	島根県非常勤職員 金築 千晴
農林水産省中国四国農政局宍道湖西岸農地整備事業所	所長 井 雄一郎
島根県教育委員会	教育長 新田 英夫

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年 5月14日（第1回）	第1回コンソーシアム全体会議（事業説明、意見交換）
令和元年 5月16日	島根県立大学 久保田教授、増原准教授による基調講演
令和元年 7月16日	3年生 地元中学校でのキャリア学習成果発表会 平田中学校3年生、向陽中学校3年生の総合の時間に実施
令和元年 7月27日	第41回平田まつり ステージイベント企画、お化け屋敷出店 平田青年会議所、平田商工会議所青年部との合同企画
令和元年 8月23日	大学生向け平田まちづくりワークショップ 島根県立大学生の動員、平田商工会議所関係者の動員
令和元年 8月30日	本校学園祭にて、平田ライオンズクラブによる献血活動実施
令和元年10月 5日	第7回くらしよっぷ平田本陣記念館 平田高校生考案のスイーツの委託販売 平田商工会議所女性部との合同企画
令和元年10月20日	第7回雲州平田まちあそび リアル版人生ゲームのストーリー作成、空き家活用イベント企画・実施、ボランティア動員 平田商工会議所との合同企画
令和元年10月21日	平田コミュニティセンター長会議にて多文化共生への提案
令和元年10月23日	「出雲市長と語る会」で多文化共生への提案
令和元年11月 2日・3日	出雲産業未来博2019 平田高校生考案のスイーツの委託販売 外国人向けのやさしい日本語による案内板の設置
令和元年11月 6日	2年生 島根県立大学浜田キャンパス学生ゼミナール参加 ゼミ学生から高校生へのアドバイス
令和元年11月 6日	1年生 平田ウィングバスツアー 平田地域の4つのコミュニティセンター（伊野、佐香、鰯淵、北浜）の関係者による地域の説明および近隣景勝地のガイド
令和元年11月13日	平田高校地域協働フォーラム秋への動員
令和元年11月13日（第2回）	第2回コンソーシアム全体会議 1. 事業中間報告 2. 意見交換

令和元年12月15日	第5回 HIRATA WINTER～ライトアップ事業 新愛宕橋イルミネーション点灯式 平田商工会議所青年部との合同企画
令和元年12月17日	平田CATV新春特番「市長と対談」撮影 放送は元日から平田高校の地域協働事業について、市長と高校生が対談
令和元年12月24日	1・2年生 地域と高校生の未来を語る会 ・平田商工会議所、平田ロータリークラブ、平田ライオンズクラブから会員35名を動員
令和2年 2月 2日 (予定)	もち街木綿街道 ボランティア動員
令和2年 3月10日 (予定)	平田高校地域協働フォーラム春への動員
令和2年 3月10日 (第3回・予定)	第3回コンソーシアム全体会議 (事業報告、次年度計画協議、意見交換)
年間を通じて	平田CATVによる平田高校の取り組みの報道 平田地域のほとんどの世帯に放送されている。

(2) カリキュラム開発等専門家について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

氏名・経歴	配置計画
ひらた在宅SOHO支援センター ポコアネット代表 金築 千晴	・呼称「カリキュラムドクター」 ・島根県非常勤職員として雇用 ・平田高校教務部に配置,原則週2日勤務

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年 6月～11月	2年生地域協働学習「班別探究活動」の指導案検討 ・高校での協議(月に2・3回実施) ・地域人材との折衝 ・授業への参加、生徒の活動の補佐
令和元年12月 ～令和2年3月(予定)	1・2年生「個人探究活動」の指導案検討 ・高校での協議(月に複数回実施) ・地域人材との折衝 ・授業への参加、生徒の活動の補佐
令和2年1月(予定)	3年生進路決定者向け 特別講座「地域探究」の指導案検討 ・高校での協議(1月当初に1回) ・生徒との対話、地域人材・団体との折衝
令和元年6月～令和2年3月(予定)	地域協働ワーキングチームへの参加(月に1～2回実施)

(3) 地域協働学習実施支援員について

①指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

氏名・経歴	配置計画
平田商工会議所 事務局長 平田商工会議所 職員 (2年1組付) (2年2組付) (2年3組付) (2年4組付)	・呼称「ミッションコーディネーター」 ・平田商工会議所職員と兼務

②実施日程・実施内容

地域協働学習実施支援員の活動実績について、具体的に記入すること。

活動日程	活動内容
令和元年 4月～11月	2年生地域協働学習「班別探究活動」の支援 ・高校での協議(月に2回程度実施、その他は電子メール) ・地域人材の紹介、授業内での補佐 ・各種地域イベントにおける生徒の活動の補佐
令和元年 4月 (役員会1) ※複数回実施	平田商工会議所と平田高校との役員打ち合わせ ・2年生班別探究活動に関する協議

	・大学生向け平田まちづくりワークショップに関する協議
令和元年 4月23日	2年生地域協働学習のフィールドワークを実施
令和元年 8月23日	大学生向け平田まちづくりワークショップを実施
令和元年10月 8日(役員会2)	平田商工会議所と平田高校との役員打ち合わせ ・一部のコンソーシアム構成団体の関わり方を検討し、12月に新規事業を実施することにした。
令和元年10月24日	全国サミット参加
令和元年12月26日(役員会3)	平田商工会議所と平田高校との打ち合わせ ・次年度の実施体制、改善点等について検討
年間を通じて	地域資源・地域人材の紹介、授業内容の相談

(4) 運営指導委員会について

①運営指導委員会の構成員

所属団体(所属・名称等は申請時現在)	氏名
島根大学総合理工学部建築デザイン学科	教授 細田 智久
スプレッドリンク株式会社(島根県6次産業化プランナー)	代表取締役 矢野 俊人
島根県立大学人間文化学部	学部長 岩田 英作
伊野地区自治協会	会長 多久和 祥司
しまね国際センター	常務理事 高橋 泰幸
地域・教育魅力化プラットフォーム	共同代表 岩本 悠
島根県教育委員会	教育監 佐藤 睦也

②活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
令和元年 7月30日(第1回)	第1回運営指導委員会 1. 事業説明 2. 指導助言 3. 意見交換
令和元年11月13日	平田高校地域協働フォーラム秋を視察
令和元年11月13日(第2回)	第2回運営指導委員会 1. 事業中間報告 2. 指導助言 3. 意見交換
令和2年 3月10日(予定)	平田高校地域協働フォーラム春を視察
令和2年 3月10日(第3回・予定)	第3回運営指導委員会 1. 事業報告、次年度計画提示 2. 指導助言

(5) 管理機関における取組について

①管理機関(コンソーシアム含む)における主体的な取組について

教育魅力化推進事業	学校・家庭・地域の連携を図りながら、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校という「校種の壁」を越えた一体的・系統的な教育活動を展開し、「教育の魅力化」に取り組む市町村等を支援した。
明日のしまねを担うキャリア教育推進事業	適切に進路を選択する力を育成し、社会人・職業人として自立した島根に貢献する人材の育成を支援した。
高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業	コンソーシアム構築モデル校を指定する県事業により、実施体制構築や教育課程の開発、探究活動のノウハウなどを、合同研修会、成果発表会などを実施して成果を共有した。
高校魅力化評価システムの構築	「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握するためのシステムを構築し、生徒と地域へのアンケートを実施し、検証シートを作成した。
コンソーシアムへの伴走	県教育委員会のスタッフを中心にコンソーシアムを支援する「伴走者」を設定し、課題の解決のための支援を行った。
島根県立大学との連携	島根県立大学と包括協定を締結し教育分野での相互連携協力を行った。

②事業終了後の自走を見据えた取組について

- ・ 全県立高校のコンソーシアム構築と運営支援
コンソーシアム運営費や運営マネージャーの人件費、探究学習やキャリア形成などの学習活動経費を支援する県事業を実施
- ・ 先導モデル事業によりクラウドファンディングやふるさと納税等を活用した教育活動資金獲得について研究
- ・ 探究学習や教育課程開発を推進する教員や教育魅力化コーディネーターの養成・確保・育成
- ・ 「高校魅力化評価システム」の実施と活用研修の実施
- ・ 学校と地域の協働体制づくりのための多世代交流の場の創出
- ・ 島根県創生計画に基づいた「しまね人づくりプロジェクト」の展開

③高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

< 島根県教育委員会 >

- ・ 国立大学法人島根大学（平成31年2月28日 協定文書締結）
- ・ 島根県立大学（平成31年3月4日 協定文書締結）

< 平田高等学校 >

- ・ 平田商工会議所（平成30年11月9日 協定文書締結）
- ・ 島根県立大学（令和元年7月19日 協定文書締結）

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2年生 地域協働学習 班別探究活動			1回	8回	課外	4回	4回	2回				
1年生 研修 旅行事前学習 班別探究活動				5回	課外	2回						
1年生 研修旅行事後 学習 教科情報						1回	5回					
1・2年生 個人探究活動												
3年生 個人探究活動	2回	3回	2回	3回								

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

学年	4月～7月	8月～11月	12月～3月
1年生	職業人講演会 地元企業ガイダンス 学部学科ガイダンス	地元企業調べ 名古屋研修旅行 平田ウィングバスツアー 地域協働フォーラム秋	地域と高校生の未来を語る会 地域協働フォーラム春 (予定)
2年生	地域フィールドワーク 大学教員による講演会	島根県立大学学生ゼミナ ール参加 地域協働フォーラム秋	地域と高校生の未来を語る会 地域協働フォーラム春 (予定)
3年生	地元中学校でのキャリア 学習成果発表会 地元インターンシップ	地域協働フォーラム秋	特別講座 地域探究 (進路決定者)
卒業生		大学生向けまちづくりワ ークショップ (8月)	

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け
 ・主として、総合的な学習（探究）の時間（各学年1単位）において実施した。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

教科	内容
国語（地歴・総学）	出雲国風土記を読み、古代の郷土の様子や地勢等を知る
地歴公民（総学）	ブラジルの歴史（多文化共生社会の推進との関連） 中世・近世の雲州平田の流通（ファン人口・交流人口の増加策との関連）
数学（総学）	データの分析 観光客数や交流人口の考察 あずきの成分分析と対数グラフの活用
理科（総学）	地域で見つけた「生物基礎」
保健体育（総学）	交通事故の現状と要因（地元と全国の比較）
芸術（総学）	校歌に唱われる地域と高校との結びつきについて
英語 （美術・家庭・総学）	色の視覚的効果と心理的効果～キャッチコピーの提案～ フードマイルズ～地産地消 or 食品輸入～
家庭（総学）	食育講座 ～島根県立大学看護栄養学部との協働授業～
情報（公民・総学）	発表資料作成のための情報リテラシー能力育成（文書、表計算、プレゼン） 1年生研修旅行の振り返り N I E 講座の実施、まとめ新聞の作成 主体的な学びの質を高めるクラウド型学習支援システム「Classi」の活用指導

④ 類型毎の趣旨に応じた取組について

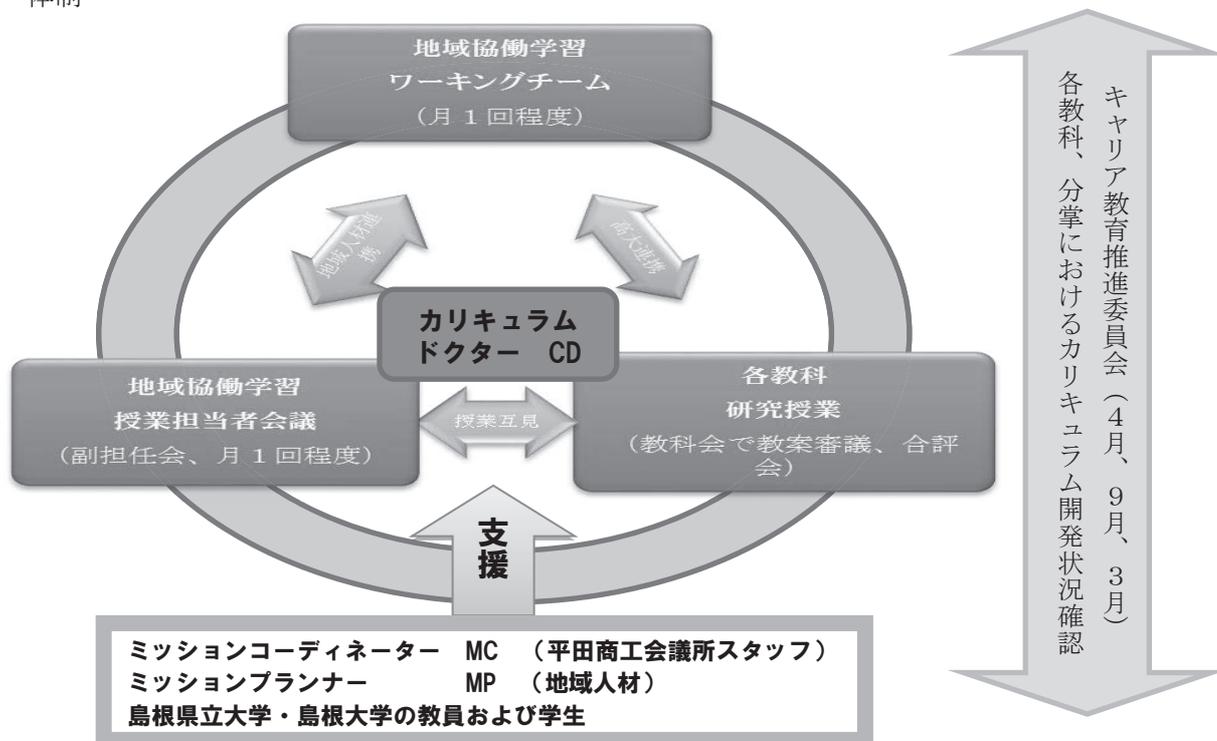
地域魅力化型の趣旨は、地域課題解決に関わるカリキュラム開発と、地域ならではの価値を創造する地域人材の育成である。今年度はこの事業に指定されたこともあり、今まで以上に地域からの協力を得ることができ、より組織的・発展的に取り組むことができた。また、地域の方から生徒の活動に関わりたいという要望をいただき、新たな企画を追加で立ち上げることになった。一方で、観光客の取り込みを図ろうとする生徒たちの考えと、定住者の日々の生活を守りたいという地域の思いとで相違点が見つかるなど、地域の魅力化というカリキュラムが奥深く多くの可能性を秘めたテーマであることを発見できた。

⑤成果の普及方法・実績について

月日	名称	実績
10/21	平田地域コミュニティセンター長会	2年生多文化共生班の成果発表 2年生7名が発表
10/23	出雲市長と語る会	2年生多文化共生班の成果発表 2年生7名が発表
11/13	平田高校・地域協働フォーラム2019秋	2年生班別探究活動の成果発表 2年生157名全員が発表
11/16	しまね大交流会（松江市）	2年生班別探究活動の成果発表 2年生の代表4班（20名）参加
1/15 （予定）	地域学校 WINWIN プロジェクトフォーラム （埼玉県）	地域協働事業全体の成果発表 2年生の代表4名が参加
1/16 （予定）	埼玉県立浦和高等学校での発表（埼玉県）	地域協働事業全体の成果発表 2年生の代表4名が参加
2/8 （予定）	しまね探究フェスタ（松江市）	地域協働事業全体の成果発表 2年生の代表4名が参加
3/10 （予定）	平田高校・地域協働フォーラム2020春	1・2年生個人探究活動の成果発表 1・2年生319名全員が発表

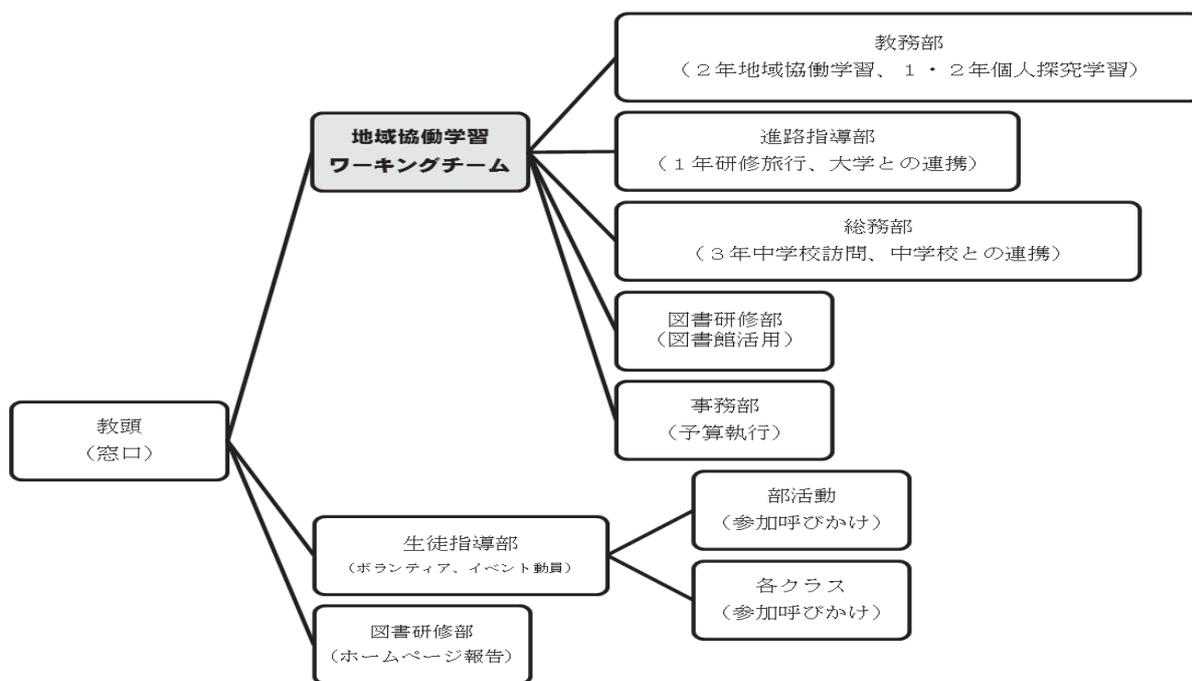
(3) 研究開発の実施体制について

①地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進体制

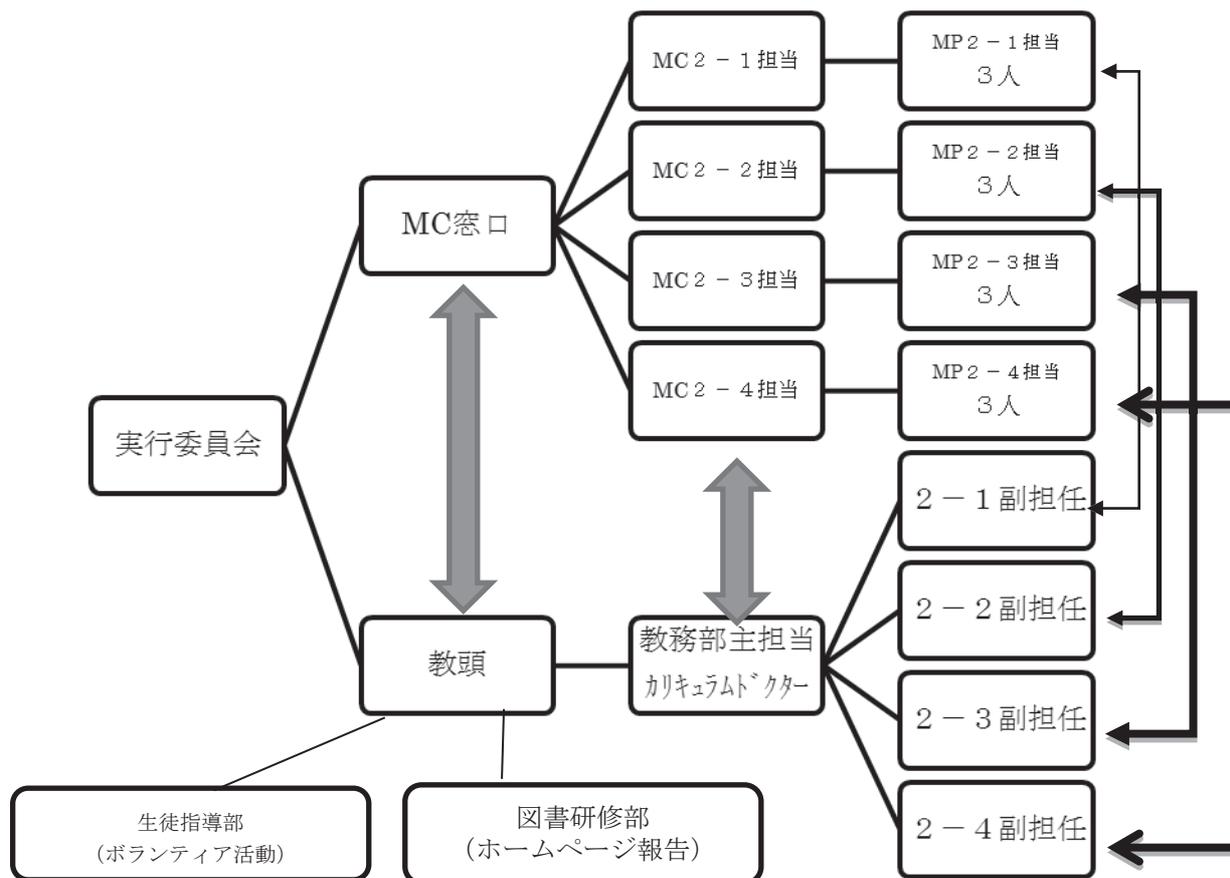


②学校全体の研究開発体制について (教師の役割、それを支援する体制について)

ア：地域協働事業全体の研究開発体制



イ：2年生地域協働学習・班別探究活動の研究開発体制



MC：ミッションコーディネーター（地域協働学習実施支援員、平田商工会議所職員）
 MP：ミッションプランナー（地域人材、大学教員など）

③学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

1. 地域協働学習 ワーキングチーム（教頭、5つの分掌の担当者で構成） 月1～2回実施。地域協働学習全体のカリキュラム開発、全体の取り組み状況確認。
2. 地域協働学習 授業担当者会議（各学年ごとに開催） 月1～2回実施。総合的な学習（探究）の時間におけるカリキュラム開発。 クラスごとの取組状況の確認。
3. 各教科の研究授業（教科ごとに開催、他教科の教員も参観する） 各教科で年2回実施。各教科・科目におけるカリキュラム開発。 教科内の取組状況の確認。
4. キャリア教育推進委員会（教頭、各分掌・教科・学年のキャリア担当で構成） 年3回実施（4月・9月・3月(予定)）。各分掌・教科・学年における取組状況の確認。

④カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

1. コンソーシアム全体会議 年3回実施（5月・11月・3月(予定)）。全体的な取り組み状況の確認、課題点の共有。
2. 平田商工会議所と平田高校との役員打ち合わせ 1、2学期に複数回実施。3学期も実施予定。課題点の共有と対応策の協議。

8 目標の進捗状況, 成果, 評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定 (アウトカム)

昨年度に本県の一部高校で実施された「高校魅力化評価システム」でのアンケート結果をもとに、本校の成果目標を設定していた。今年度初めて本校でも同アンケートを実施したが、その結果は本校の課題を明確にするもので、本校および地域の実情を的確に示唆している。これらの項目は、本事業の成果としても目標とすべき内容であると考え、来年度以降は、成果目標を変更(追加)して事業を実施し、より詳細に成果を検証したいと考える。

課題として捉え目標設定したい項目 (生徒)	今年度測定値%	全国との差
日本や世界の課題の解決方法について考える (社会に関わる機会)	35.9	-3.70
自分の考えをはっきり相手に伝えることができる (協働性・表現力)	60.3	-3.72
学習を通じて、自分がしたいことが増えている (探究性・学びの意欲)	70.0	-5.49
勉強したものを実際に応用してみる (探究性・情報活用能力)	56.9	-2.41
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ (探究性・批判的思考力)	32.8	-8.12
自分を客観的に理解することができる (探究性・省察力)	63.1	-6.08
国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい (社会性・地域貢献意識)	33.4	-6.85
私に関わることで、社会状況が変えられると思う (社会性・社会参画意識)	39.4	-2.74
将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい (社会性・グローバル意識)	59.1	-7.91
地域文化や暮らしを、自らの手で未来に伝えたい (社会性・持続可能意識)	50.4	-3.20
地域に、尊敬している・あこがれている大人がいる (挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」)	46.1	-7.38
将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる (問う・問われる「対話の土壌」)	73.3	-4.30
いま住んでいる地域の行事に参加した (社会性に関わる行動)	40.1	-4.91
地域社会などでボランティア活動に参加した (社会性に関わる行動)	31.7	-7.46
先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした (社会性に関わる行動)	54.8	-8.96
この学校に入ってよかったと思う (満足度)	80.2 1年生79.6	-1.77

この結果から、探究性・社会性・挑戦意欲が低いことが分かる。対策として次の点を挙げる。

- ・各教科・科目をはじめ、学校教育活動全体における探究的な学習を推進する。
- ・各教科・科目の学習や名古屋研修旅行などを通じて地域外・県外の視点を学び、グローバル意識の向上を目指す。
- ・主体的な学習者としての「成功体験」を積み上げて、高い目標に挑戦する意欲を高める。
- ・ボランティア活動への積極的な参加を促す。
- ・1年生1学期からの主体的な学習機会を確保する。

課題として捉え目標設定したい項目 (生徒と大人)	今年度測定値%	差
失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある (挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」)	生徒78.0 大人47.9	30.1
本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある (問う・問われる「対話の土壌」)	生徒85.8 大人36.6	49.2

大人側の方が、自分の思いを表出しにくく、挑戦意欲に欠けるということが分かる。失敗を恐れず新しいことに積極的に挑戦しようとする意識を、校内・校外で共有していく必要がある。

- ・事業を通して「育てたい生徒像」について意見を出し合い、それらの共通部分を見いだすこ

- とによって、教員同士、教員と地域の方々との敷居を下げることを目指す。
- ・定期的な教員研修を行い、さまざまな研究開発に挑戦しようとする意欲の向上を図る。

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標 (アウトプット)

項目	今年度目標値	今年度の実測値および評価
地域協働学習ワーキングチームの会議実施	12回	実績12回 計画以上に実施見込み
地域協働学習授業担当者会議の実施	12回	実績12回 計画以上に実施見込み
各教科の研究授業回数	14回	実績14回 計画通り実施
キャリア教育推進委員会の実施	3回	実績3回 計画以上に実施見込み
先進校としての研究発表回数	6回	実績9回 計画以上に実施
1クラスあたりの図書館を利用した授業数	15時間	実績19時間 目標以上に実施

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標 (アウトプット)

項目	今年度目標値	今年度の実測値および評価
授業に関わった外部人材人数	8人	実績50人 予定より大幅に多くの方の参画を得た。
発表会来場者数	のべ400人	425名(現時点) 目標達成できる見込み ・地域協働フォーラム秋 120名 ・しまね大交流会 70名 ・地域と高校生の未来を語る会 35名 ・埼玉県地域学校WINWINプロジェクトフォーラム200名 ・しまね探究フェスタ 2月実施 ・地域協働フォーラム春 3月実施 今後は、保護者や卒業生会(暁星会)員の参加を呼びかける
ワークショップへの参加者数	10人	8人 (島根県立大学生7名、島根大学生1名) 2・3回生を中心に誘ったが、思うように参加者が集まらなかった。1回生や4回生にも声をかける必要がある。

9 次年度以降の課題及び改善点

- (1) カリキュラムについては、3年間の「基本形」をつくることができた。次年度以降は、この「基本形」を元に、より生徒の主体性が発揮され、かつ地域のニーズに応じる授業を検討したい。特に「情報発信」で高校生が活躍できる場面が多くあり、地域の方からの期待も大きかった。地域の良さや強みなど「今ある地域資源」を高校生が主体的に発信していく場面を授業の中に多く取り入れ、観光客数や経済効果などとともに取り組みを検証し。本校や商工会議所のホームページも、情報発信ツールとして活用する。
- (2) 各教科における「総合的な学習(探究)の時間」との横断的な授業の研究開発について、教科によっては「内容」の連携が難しいものがある。そこで、年度途中から「学び方」や「育成したい能力」の部分での連携も含めて横断的な取り組みを研究することにした。次年度以降も、どういう形の横断連携が可能かを研究していく必要がある。また、「学び方」や「育成したい能力」について教員間での意思疎通を図るため、教員同士の授業見学や校内での教員研修を充実させていく。
- (3) 11月に行ったコミュニティデザイナー・山崎亮氏の講演会では、地元にお金を落とすことによる地域への経済効果と、資金が無くてもできる地域活性化の手法についてご教授いただいた。このように、学校および地域に新たな開発手法を取り入れていくためにも、地域活性化を最前線で行っている方々による学びの場づくりを続けていく。
- (4) 地域協働学習実施支援員(平田商工会議所の職員・ミッションコーディネーター)の業務負担が非常に大きい。支援員の負担軽減のために、教員やカリキュラム開発等専門家(カリキュラムドクター)との役割分担の明確化や、相談・連絡・報告の効率化を図る。

【担当者】

担当課	島根県教育庁教育指導課
氏名	立石 祥美
職名	調整監

1年生 職業人講演会

1. 日時 5月21日(火) 5・6限 13:20~15:10
2. 場所 プラタナス記念館2階
3. 内容
 - 13:20~14:10(50) 職業人① (株)バイタルリード 森山社長
休憩(5)
 - 14:15~15:05(50) 職業人② (株)いづも農縁 吉岡社長
実施後 Classi にて振り返りアンケート
4. 事前準備
 - (ア) 4月5日(金) 島根県雇用政策課の方との打ち合わせ・・・講師選定、実施日の検討等を行う。以降、主にメールでのやりとり。
 - (イ) 明日しま予算での旅費・謝金の申請。生徒用記録用紙準備。
 - (ウ) 会場準備。(ICT・マイク準備)
5. 次年度への申し送り
 - (ア) 年度当初早い時期の開催なので、前年度末には、日程と講師候補を決めておくとスムーズ。講師によっては講演時間の要望もあるので、学校の許容時間は伝えながら調整。
 - (イ) 島根県雇用政策課の方の異動等もあるので、人が変わっても流れがわかるような資料作りと連携が必要。
 - (ウ) 明日しま事業は、基本的には令達後に事業を実施する事が望ましい。(令達以前に実施する理由書が必要なため)

1年生 地元企業ガイダンス

1. 日時 6月11日(火) 14:20~16:00 (6・7限)

2. 場所 第1体育館

3. 内容 18企業参加

【ガイダンス】 各ブースで企業説明15分(質疑応答含む)これを4回繰り返す

13:25~14:10 会場準備(第1体育館準備 1年3組・古典を充当)

13:25~13:40 企業受付(控室:会議室、校長挨拶、担当者説明後に会場へ移動・準備)

14:20~14:25 開会式

14:30~14:45 ガイダンス1回目(質疑を含め15分)

14:50~15:05 ガイダンス2回目(質疑を含め15分)

15:05~15:15 休憩・振り返り・メモ(10分)

15:15~15:30 ガイダンス3回目(質疑を含め15分)

15:35~15:50 ガイダンス4回目(質疑を含め15分)

15:50~16:00 生徒代表挨拶、閉会 Classiでの事後アンケート

片付けは各クラスから選出した5名で(掃除公欠)

4. 事前準備

(1) 4月5日(金) 島根県雇用政策課の方との打ち合わせ・・・企業数、実施日の検討等を行う。以降、主にメールでのやりとり。

(2) 実施日約2週間前に参加企業決定→生徒への事前希望調査→調整→決定連絡(生徒への連絡と同時に、当日までにガイダンスを受ける企業の下調べをして臨ませる。)

(3) 企業ブースについて

(ア) ブース 説明者用の長机1脚と椅子を準備。(5限目から体育館使用)

(イ) 使用機材 ブースで使用するパソコン、プロジェクター、スクリーン等の機材は参加企業で準備。

(ウ) 当日配布の資料冊子は県の雇用政策課で準備。

5. 次年度への申し送り

(ア) 当日報道機関の取材あり。

(イ) この事業には最低2人の係員が必要。対応場所が複数あり、対応できない。

(ウ) 体育館のみの移動ですんだので、その分生まれた時間をガイダンスに回した。(各持ち時間15分を16分に)

(エ) 15:46に全ガイダンスが終了した。企業側としては、まだ話せたという感が否めなかったが、全員で片付けることができ、一斉に掃除・HRに臨めたので良かった。

(オ) 明日しま事業は、基本的には令達後に事業を実施する事が望ましい。(令達以前に実施する理由書が必要なため)

1年生 学問分野別ガイダンス

1. 日時 6月18日(火) 5・6限(13:20~15:10)

2. 場所 第1体育館

3. 内容

各ブースで各大学学問説明35分(質疑応答含む)これを3回繰り返す

13分野参加

時間	進学希望者
13:20~13:50	学問分野別ガイダンス 1回目
	移動時間
13:55~14:25	学問分野別ガイダンス 2回目
	移動時間
14:30~15:00	学問分野別ガイダンス 3回目

「さんぽう」作成感想用紙アンケート記入(残り時間+終礼時)

4. 事前準備

(ア)4月末に「さんぽう」と日時決定。以降5月中旬・6月11日(直前)に来校打ち合わせ等行う。

(イ)生徒に聞いてみたい学科・分野の選択肢から2つずつ選択させ、分野や学科を選定→参加可能大学や学科を絞り込み、再度生徒に希望調査→人数調整後告知。

(ウ)当日体育科には4~6限の体育館使用許可を得、4限目にさんぽうさんスタッフで会場準備。(椅子は用いず、学校名を書いた用紙をスタンドに付けて場所を指定)片付けは簡単なので7限目は体育の授業可能に。

(エ)ブースで使用するパソコン等の機材は参加大学で準備。

5. 次年度への申し送り

(ア)実施が入学後間もない時期なので、1つの分野は希望を取らずに人数調整もかねて適当に割り振ったのは良かった。文理の別で生徒の希望と大きくかけ離れなければ2つの分野を割り振っても良いかもしれない。

(イ)例年看護希望の生徒が多い。今回も医療分野、特に看護系の話を聞いたかったという生徒が多かった。ただ、看護を入れるとそのブースに集中する危惧と、看護体験等で体験機会も多いので、他の分野を見せたい(視野を広げさせたい)という進路の面でジレンマが生じる。その年度の進路希望状況との兼ね合いもあるか。

(ウ)名古屋研修に向けて、学問や学科の何を深めたい(知りたい)のかを明確に残しておく記録用紙の作成。

(エ)講師は、長時間床に座ることが厳しかったようだ。講師用椅子と机は準備必要。

1年生 名古屋研修旅行 事前学習

1. 日時 4月23日(火) 7限
2. 場所 プラタナス記念館2階
3. 内容
 - (ア) 学年主任あいさつ (3分)
 - (イ) 進路 総学・キャリア・研修旅行担当者から (25分)
1年間の総合的な学習の流れ・地域協働学習関係の流れ・研修旅行を絡め進路につなげていくという大まかなガイダンス
 - (ウ) 昨年度の研修旅行のスライド(パワポ)の視聴。簡単な説明付き (20分)
昨年度研修旅行担当者より
 - (エ) 学年主任より一言 (2分)
4. 事前準備
 - (ア) 放送・PC・プロジェクター・スライド準備
 - (イ) キャリアファイル購入、キャリアファイルに入れる背の文字印刷→当日配布
 - (ウ) 会場準備・・・4クラス入れるように講義形式に机の並び替えを前日の掃除担当者に依頼
5. 次年度への申し送り
 - (ア) 進路研修旅行担当者の説明もスライドによる説明があると良い。それをプリントして配付し、キャリアファイルに入れさせておくと、1年間の流れをいつでも見返すことができる。
 - ① ビジュアル資料の説明(研修旅行を中心とした進路学習のねらい、1年間の流れ、コンソーシアム)
 - ② 探究活動について、個別・班別探究活動の説明
 - ③ 今後の予定
 - (イ) 開催時期も早く、担当者1人では物理的にいくつもの準備をする事が難しいので、分担を決めて行うと良い。学年単位の行事も多いので、学年会で分担したい。
 - (ウ) 1年生に対して、多くのことを一度に理解してもらうことは難しいので、学年会全員の共通理解意思疎通をしておき、生徒からの質問に誰もががある程度答えられるようになっておくと良い。そのためには事前の拡大学年会開催が必要か。

1年生 名古屋研修旅行

1. 日時 10月8日(火)～10月10日(木)
2. 場所 名古屋
3. 内容
 - 10月8日(火) 5:50 平田高校集合
6:00 学校出発(バス4台)
14:00～企業研修:オークマ、日本製鉄、トヨタ自動車、
株式会社明治
19:30 全体講演会
 - 10月9日(水) 8:00～企業・科学館・博物館等の研修
サイエンスパーク、都市鉱山、MRJ、メナード総合研究所
名古屋市科学館、トヨタ産業技術記念館
13:30 班別自主研修
19:30 先輩と語る会
 - 10月10日(木) 8:45～大学研修:名古屋大学、名古屋工業大学 等
12:30 名古屋出発
19:30 平田高校到着・解散
 - 10月11日(金) 1限目 教室にてClassi振り返りアンケート、新聞作り開始
4. 事前準備
 - (ア) 4月～旅行業者との打ち合わせ(随時)
 - (イ) 7月期末試験後～夏休み・班別自主研修の班分け(クラスごと、7～8人×5班)
(担任の先生に依頼)→班ごとに自主研修先の決定、詳細(交通手段等)を調べる。
(総学の時間)・生徒それぞれの訪問先企業・博物館、大学等決定(Classi活用)。
 - (ウ) 8月～始業式後・班別自主研修の詳細(研修内容・交通手段等)を深める。
 - (エ) 9月担当者下見・「研修のしおり」の作成
 - (オ) 10月研修直前学習(企業・博物館、大学等の説明、研修のマナー等の確認)
5. 次年度への申し送り
 - (ア) 旅行業者との綿密な連携(業者の担当者にもよる)
 - (イ) 研修旅行担当主導の業務と学年会主導の業務(例:生徒指導面・部屋割り・保健面等)の分担。(研修担当者の進捗を待って学年会が動くともたつく感がある。)
 - (ウ) 研修旅行までは担当者も学年会に参加できるように、時間割を空けてもらう。
 - (エ) 引率教員に取った事後アンケートを参考に、改善できるところは改善する。

1 年生 名古屋研修旅行（事後学習・新聞作り）

【事後学習のための事前指導】

1. 日時 9月25日（水）1・2限
2. 場所 プラタナス記念館2階
3. 内容：
 - (ア) 8：40～学年主任より朝礼伝達（時間を生み出すため学年朝礼）（3分）
 - (イ) 教頭先生あいさつ（3分）
 - (ウ) 研修旅行事前全体説明（担当者）「研修のしおり」説明・「名古屋ガイドブック」配付（30分）
 - (エ) 9：35～10：35 新聞教室（60分）
山陰中央新報社 NIE 担当 水野氏
テーマ：「名古屋研修旅行を新聞にまとめることによって振り返る」ための新聞書き方講座
4. 事前準備
 - (ア) 山陰中央新報社 水野氏と事前の打ち合わせ（日程・内容等）
 - (イ) 当日の新聞受け取り（無料）→生徒配布
 - (ウ) 会場準備 放送関係・ICT関係（PC持ち込み）

【事後学習】

1. 日時 10月11日（金）1限
2. 場所 1年各教室
3. 内容 Classi による振り返りアンケート回答→新聞作り構想開始
以降情報の時間を使い（約5時間）手書きで作成。写真やデータ等を適宜使用
4. 事前準備
 - ・山陰中央新報社さんより、新聞作用の原稿用紙をいただける。
 - ・生徒に可能な箇所は、研修旅行中の写真を多く取っておくことと、取り上げたい内容をあらかじめ考えて臨むことを伝えておく。
5. 次年度への申し送り【共通】
 - (ア) 事後の振り返りツールとして新聞作りの発想自体は良かったが、発案時期が遅く、学年会や講師さんにも迷惑をかけた。次年度も同じもので行うならば、早めに学年会や関係各所に連絡する。
 - (イ) できあがった新聞を評価する機会作り。→フォーラム春で掲示予定だが、今後どうするか。
 - (ウ) 情報科との連携。
 - (エ) 講座は60分の設定だったが、少し時間が足りない気がした。可能であれば7～80分位の設定にしたい。

1年生「平田のお店調べ」～学園祭のプレゼンより～

1. 目的 (1) 平田地区にあるお店の取材を通して、地元の産業やその歴史などについての認識を深める。
(2) お店の取材やプレゼン原稿の作成などを通してコミュニケーション能力を高めるとともに、プレゼンで地元平田のお店の良さを伝える。
2. 日時 8月29日(木) 13:00～14:00 ～学園祭初日～
3. 場所 文化館プラタナスホール
4. 校内の実施体制
 - (ア) 取材可能な平田のお店は、平田商工会議所(担当:山岡忍)と生徒指導部担当者と協議する。
 - (イ) 各クラスでプレゼンを行う生徒を選出し、副担任の先生を通してお店に取材依頼を行う。
 - (ウ) 取材を元に生徒が作成したプレゼンの原稿内容を、副担任の先生がチェックする。
 - (エ) 副担任の先生の指導の下で、原稿内容に合わせてパワーポイントでプレゼン資料を作成する。
 - (オ) 生徒指導部担当者の計画に基づいて、前日に、体育館にてリハーサルを実施する。
5. 担当者の動き
 - (ア) 6月上旬に「平田のお店調べ」の実施要項を生徒指導部内で検討する。
 - (イ) 6月21日(金)の職員会議にて「平田のお店調べ」の実施要項が確定。
 - (ウ) 6月下旬、生徒指導部担当者が平田商工会議所事務局長山岡忍さんと話し合いをおこない、7月上旬に取材可能な平田のお店一覧を確定する。
 - (エ) 6月下旬に、1年生の各クラスで「平田のお店調べ」プレゼン担当の生徒を8名ずつ選出する。
 - (オ) 7月5日(金) 13:00より、会議室で1年各クラス代表者に「平田のお店調べ」プレゼンの目的と活動内容説明を実施。取材可能な平田のお店一覧を提示する。
 - (カ) 7月10日(水) 13:00より、会議室にて取材店舗の抽選会ならびに発表順の抽選会を実施。
 - (キ) 7月16日(火)～25日(木) 3名以内に人数を絞って平田のお店の取材を行う。その後、プレゼン発表の内容をまとめる作業を行う。
 - (ク) 8月19日(月)～27日(火) パソコン教室にて、パワーポイントでプレゼン資料を作成する。

- (ケ) 8月23日(金) 6・7限 大学生によるプレゼン資料作成指導
- (コ) 8月27日(火) 17:00 「平田のお店調べ」プレゼン用データ提出べ切
- (サ) 8月28日(水) 15:00～16:00 リハーサル(体育館) ※1クラス15分
- (シ) 8月29日(木) 13:00～14:00 本番(文化館プラタナスホール)

6. 発表順番

4組 ⇒ 2組 ⇒ 3組 ⇒ 1組 ※1クラス7分以内

7. 発表内容 ～平田のお店～

- 1組 「ヘヤールーム リネン」・「洋菓子 メモリー」
- 2組 「お菓子の店 たま」・「持田醤油」
- 3組 「和菓子 木佐清月堂」・「ゆらり温泉」
- 4組 「Hほり江 クイーンズマリー」・「和菓子デコレーションケーキ 吾妻堂」

8. 次年度への申し送り

- (ア) 資料作成のためのパワーポイントの使用に不慣れな生徒が多い。そのため、「平田のお店調べ」プレゼン担当の生徒8名の中に、パワーポイントが扱える生徒を入れた方が良い。
- (イ) 原稿作成や、パワーポイントを用いた資料作成に時間がかかるため、平田のお店への取材活動は、7月中に終えた方が良い。また、事前に、プレゼン内容を明確に決めた上で取材する必要がある。
- (ウ) パワーポイントで資料を作成する際には、副担任の先生方に可能な限り助言を行っていただきたい。そのため、パソコン教室に集合していただく必要がある。

9. パワーポイントを用いた資料例



1年生 「平田ウイング」バスツアー

1. 目的 (1) 各地区の現状や取り組みを聞き、地域の中で為すべきことを考える。
(2) 寺院や景勝地を訪問し、地域資源のもつ価値を見いだすことを考える。
2. 日時 11月6日(水) 5・6・7限
3. 引率 1年生の正・副担任
4. 移動 大型バス2台、中型バス1台、小型バス2台(文科省予算から支出)

5. 訪問先

1年1組 大型バス1台 生徒38名 教員2名 島根大学6名	1年2組 中型バス1台 生徒38名 教員4名 平田CATV1名	1年3組 大型バス1台 生徒38名 教員2名 カリキュラムドクター	1年4組 小型バス2台 生徒38名 教員2名
13:20 学校発 14:00 伊野コミセン 一畑薬師	13:20 学校発 14:00 佐香コミセン 立石神社 坂浦港経由 一畑薬師	13:20 学校発 14:00 鰐淵コミセン 鰐淵寺 ※拝観料無料	13:20 学校発 14:00 北浜コミセン 風車 義勇の碑
16:10 学校着	16:10 学校着	16:10 学校着	16:10 学校着

6. 校内の実施体制

- (ア) 各コミセン・寺院への依頼文の作成・送付は、教務部で行う。
- (イ) 各コミセン・寺院との打ちはわせは、各クラス副担任にお願いしたい。
 - ① 9月上旬、1年副担任会において、この行事の趣旨や概要の共通理解を図る。
 - ② 10月中旬までに、各コミセン・寺院を訪問して内容の打ち合わせをする。
 - ③ 各クラス正担任への情報共有をする。
 - ④ 事前指導・事後指導の計画・立案・実施をする。
- (ウ) 当日の動きや内容の確認・共有は、1年副担任会および1年学年会でお願いしたい。

7. 担当者の動き

- (ア) 新規事業実施のため、5 / 17 (金) の職員会議にて趣旨・日時を提案
- (イ) 7 / 18 (木) 平田商工会議所にて打ち合わせ
 - ① 島根大学・細田教授も同席
 - ② 当日は、細田教授と研究室の学生も同行することになった
- (ウ) 7 / 22 (月) 平田地区コミセン・センター長会に出席 平田行政センター
 - ① 事業の趣旨、日時を説明
 - ② 協力依頼と、次回センター長会で原案を提示して審議してもらう約束をする
- (エ) 7 / 23 (火) 平田商工会議所での打ち合わせ、原案1を作成
- (オ) 8 / 2 (金) センター長代表 (佐香コミセン) を訪問、原案2を作成
- (カ) 8 / 19 (月) 平田地区コミセン・センター長会に出席 平田行政センター
 - ① 原案2を提示し、おおむね了承を得た
 - ② 今後の細かな打ち合わせは、1年副担任が連絡することを伝えた。
- (キ) 8月下旬 一畑薬師、鰐淵寺への電話での依頼 ⇒ 了承を得た
- (ク) 8月下旬 バスの予約 スサノオ観光とフラワー観光で見積もり
⇒ 見積もりの結果、スサノオ観光に決定
- (ケ) 8月下旬 4つのコミセンおよび2つの寺院への「依頼文」の発送
- (コ) 9 / 6 (金) 1年副担任会の実施 ⇒ 打ち合わせ、事前・事後学習の依頼
- (サ) 9 / 20 (金) 職員会議で提案
- (シ) 10月～直前 バス会社との時間・コースの詳細確認
※ 2019年度は直前に、道幅の関係で、バスを大型から中型に変更した
- (ス) 11月下旬 礼状の発送

8. 授業者の動き

- (ア) 9 / 6 (金) 1年副担任会の参加、行事の趣旨・内容、分担作業を把握
- (イ) 9月～10月 事前学習・事後学習の計画、実施
- (ウ) 10月中旬～下旬 各コミセンや寺院と打ち合わせ
- (エ) 平田地区の観光マップ (コミセンから譲渡されたもの) の配布
- (オ) Classi アンケート配信・実施
- (カ) アンケートのとりまとめ ⇒ 礼状に添える

9. 次年度への申し送り

- (ア) 他地区のコミセンへの訪問も検討する。
- (イ) 事前学習・事後学習を、総合学習の時間として計上する。
- (ウ) 取り組みの「ねらい」を明確化し、担当教員で共有する。

1年1組 平田ウィングバスツアー

1. 訪問先での実施内容

(ア)伊野コミュニティーセンター：「出雲市伊野地区のまちづくり」

・伊野ビジョン・ムービー『10年後の伊野を考える(伊野の挑戦)』視聴 (15分)

(1) 教育・子育て：伊野小学校と地域の協働、保護者の子育て支援、森・海の幼稚園

(2) 農林水産業：伊野いち、ちょんぼし伊野いち、加工場・交流広場、特産品開発

(3) 福祉・医療：困りごと支援のボランティア組織

(4) 防災・安全：FR(ファーストレスポonder)隊、原子力災害避難訓練

(5) 情報発信：伊野地区自治協会HP、伊野インスタグラム

(6) 交流人口・関係人口：国際ワークキャンプ、トレイルラン、伊野留学

・多久和祥司氏(伊野地区自治協会会長)講話：「地域の未来はだれがつくる」(35分)

「伊野の未来を創る戦略会議」で「10年後の伊野はこうなってほしい、そのためにどうすればよいか」というビジョン作りを進めている。大事にしたいことは住民一人ひとりの持ち味を発見し、互いにつながるといことです。

現在、人口1026人が2040年には800人台、高齢化率40.9%が予測され、少子化が一層進み、生産年齢人口である「担い手」があらゆる分野で不足する。地区町内行事の参加者が激減、町内での共同作業(草刈りなど)の人手が不足する現状がある。

今考えているのは、あなたにとって幸せの条件とは何かということである。人、物、住居、仕事、生きがい、環境などを考えると、「暮らすんだったら、伊野」を合い言葉に、子どもからお年寄りまで、住みやすく、笑顔で暮らせるまちのビジョン作成と取り組みを進めている。

1) 教育：2014年から「伊野ベーション」で子ども遊び作りを続けている。

両親が安心して働きに行けるように、伊野児童館を午後6時まで無料として充実させている。

2) 農林水産業：「いきがい農業」を提案しよう。猪、鹿など出るともう農業を止めたいと思う。認定農家3軒、自力水田農家50軒も高齢化後継者不足で減少に歯止めがかからない。「食を楽しむ」笑顔あふれる地域づくりを目指し、産直市、話題となる商品開発に取り組んでいる。草刈隊組織で農地を維持する活動が行われている

3) 命・安全・防災：高齢者のつながり

4) 交流人口・関係人口：ふるさと会員(他地区に住んでいる伊野出身者)が一口5000円寄付、伊野小学校で修学旅行費用助成として活用している。里山を楽しむトレイルランを実施している。

・参加生徒は、教室掲示した「まちづくりフォーラム」の資料から質問を用意して、熱心にメモを取りながら話を聴いた。小学校の統廃合問題など質問した。

(イ)一畑薬師

- ・参加者全員で、鉦に合わせて真言(念仏)を唱えることから始まった。

・説明

(20分)

薬師信仰の由来

一畑はもともと薬草(お茶)の畑で、昔は煎じ薬として高価なありがたいものであった。7万坪に及ぶ広大な寺内で栽培されていた。

大社から美保関までの42浦巡り(竹筒に潮を汲んで身を浄める)を行う信仰の篤い地域であり、目の薬師として各地からお参りの人が絶えなかった。

一畑電車は、大正3年出雲から一畑坂下まで線路を引き、現在も一畑口駅のスウィッチバック方式は当時の名残である。

一畑信仰は各地に広まり、直接参拝できない人のために「一畑燈籠」があちこちに置かれた。自然石を組み合わせたもので、人々は手を合わせ拜んだ。

2. ミッションプランナーやバス会社との打ち合わせ：10月19日(土)

(ア)一畑薬師：9：00～9：20 飯塚大幸住職

- ・歴史、由来、観光の観点からの説明を依頼した。

薬師信仰は聖徳太子の時代からの最も古い仏教信仰である。昔からの島根半島42浦の潮を汲み、身を浄める7浦巡りには、東京からも参加者がおり地元ケーブルテレビでも放送される。江戸時代末より全国から寺参りが盛んになり、信者や檀家に加え観光資源としても一畑薬師は地域での役割を果たしてきた。こういう内容で担当者が説明すると決めた。

- ・要望：時間設定に応じた説明を行うため、また当日急遽本堂を使用することになった場合の対応のためにも、詳細な時程を連絡してほしい。

(イ)伊野コミセン：10：00～11：30 錦織センター長 多久和自治協会会長

- ・1回の訪問学習で終わらない課題解決学習を期待されていたが、実際の暮らしの現実、困りごとの実態などの講話を依頼し、実施内容に記載の通り準備頂いた。

(ウ)一畑バス

- ・学校→伊野コミセン→一畑薬師→学校の行程表を作成し、Faxで送付し、発着や移動時間など修正してもらった。その後、伊野コミセンと一畑薬師に送付し再度確認した。

3. 次年度への申し送り

- (ア)打合せのための訪問以外に、11月3日(日)に開催された第41回伊野地区文化祭を見学した。幼稚園児から高齢者までが笑顔で様々な競技を楽しむ姿が見られた。他の地区と異なり、日本海・里山・田畑・宍道湖すべてをかかえる伊野の海産物や特産品からハーバリウムの出店まで10余りのテント下では、地区外の人とも談笑する交流を実際にみる事ができた。また「まちづくりフォーラム」の資料をセンター長からいただき、HPに掲載されていないことも分かった。

1年2組 平田ウィングバスツアー

1. 訪問先での実施内容

(ア) 佐香コミュニティセンター・立石神社

(佐香コミュニティセンター・服部センター長、ジオパークガイド・金折さん)

・佐香コミュニティセンター (13:40~14:10)

赤浦海岸 一畑薬師ご本尊出願の地。島根半島最高地点。四十二浦巡り結願の地でもある。

小伊津海岸 隆起した土地が波蝕、風食で残ったところ (洗濯岩)

・立石神社 (14:25~14:40)

赤浦海岸とともに出雲市の指定する17の地域観光スポットに選ばれている。島根半島の巨石信仰の中心。荘厳な雰囲気にもまれていた。入れ違いに関西方面からの観光客の方もみえていた。

(イ) 一畑薬師 (15:10~15:40)

・一畑はもともと薬草(お茶)の畑で、昔は煎じ薬として高価なありがたいものであった。7万坪に及ぶ広大な寺内で栽培されていた。

・大社から美保関までの42浦巡り(竹筒に潮を汲んで身を浄める)を行う信仰の篤い地域であり、目の薬師として各地からお参りの方が絶えなかった。

・一畑電車は、大正3年出雲から一畑坂下まで線路を引き、現在も一畑口駅のスウィッチバック方式は当時の名残である。

・一畑信仰は各地に広まり、直接参拝できない人のために「一畑燈籠」があちこちに置かれた。自然石を組み合わせたもので、人々は手を合わせ拜んだ。

2. ミッションプランナーやバス会社との打ち合わせ

(ア) 佐香コミュニティセンター・立石神社 (10/24 (木) 服部センター長)

・赤浦海岸、立石神社 年一回、「わがまちパワースポット探訪」というイベントを開催。CATV経由で関西方面にも紹介され、リピーター続出の人気を誇る。ジオパークガイド・金折さんと一緒に案内を務めているとのこと。

・「ふるさとマップ」を持って来てほしい。

・ルート決定 坂浦港 → 佐香コミュニティセンター → 立石神社

・移動時間が当初の予定よりかかるため、ルート変更

佐香コミュニティセンター → 立石神社

(イ) 一畑薬師 (10/19 (土) 飯塚大幸住職)

・歴史、由来、観光の観点からの説明を依頼した。

薬師信仰は聖徳太子の時代からの最も古い仏教信仰である。昔からの島根半島42浦の潮を汲み、身を浄める7浦巡りには、東京からも参加者がおり地元CT

でも放送される。江戸時代末より全国から寺参りが盛んになり、信者や檀家に加え観光資源としても一畑薬師は地域での役割を果たしてきた。こういう内容で担当者が説明すると決めた。

・要望：時間設定に応じた説明を行うため、また当日急遽本堂を使用することになった場合の対応のためにも、詳細な時程を連絡してほしい。

(ウ) スサノオ観光

・一畑薬師との打ち合わせ後、移動にかかる所要時間を確認。

・道幅が狭いため、バスを45人乗り中型に変更。移動にかかる時間についても当初予定より15分ほど余計に必要ということで、佐香コミセンでの予定も変更。

(エ) バスツアー終了後のClassiアンケート結果をお礼状と一緒に送付。あわせて全教員に配布。

3. 次年度への申し送り

(ア) 道路が狭く移動に結構時間がかかります。バス会社との打ち合わせを早めにしておけばよかったと感じました。

(イ) 事前準備をもっとしっかりやらせたかったです。打ち合わせで伺った内容を、前もって生徒に伝えておいてもよかったかと思います。

1年3組 平田ウィングバスツアー

1. 訪問先での実施内容

(ア) 鰐淵コミュニティセンター(11月6日)

- ・昼食後、借り上げバスで鰐淵コミュニティセンターに向かう。
- ・高橋センター長から地域の歴史、現状についてのお話を伺った。
- ・センター長からのお話を伺った後、生徒からの質疑応答を行った。

(イ) 鰐淵寺

- ・高橋センター長に同席いただき鰐淵寺の歴史についてお話を伺った。
- ・お話を伺いながら、ワークシートへの記入を行った。

2. ミッションプランナーやバス会社との打ち合わせ

(ア) 9月24日(火)14:00～16:00 鰐淵コミュニティセンターで事前打ち合わせ。

(イ) 10月後半、朝礼にて事前学習課題を配布。バスツアーの趣旨と、課題の内容について説明した。

(ウ) バスツアー終了後、Classi アンケート配信、入力。課題を回収した。

(エ) 生徒アンケートを集計、お礼状と一緒に送付。全教員にも活動内容周知のため配布。

3. 次年度への申し送り

(ア) 事前学習の時間があれば、見学に向う場所や名所について図書館から資料提供していただき、調べ学習を行った方がよい。

(イ) コミュニティセンターでの質疑応答を行う際には、積極的な質問ができるよう指導する。

(ウ) 事前打ち合わせの際には、生徒が質問しやすいような内容や、興味の持ちやすい内容をメモしておき、バス移動の時間などを使って情報提供を行うとよい。

1年4組 平田ウィングバスツアー

1. 訪問先での実施内容

(ア)北浜コミュニティセンター(11月6日) 5・6・7限

・昼食後、借り上げバスで北浜コミュニティセンターに向かう。

(道幅が狭いため、中型バス2台に分乗して向かう)

・渡部センター長から地域の歴史、現状についてのお話を伺った。

・センター長からのお話を伺った後、生徒からの質疑応答を行った。

(イ)風車(新出雲風力発電所)・風車公園散策

・渡部センター長に案内していただき風車の真下にある小さな休憩所兼展望台にて散策。

・道路を挟んだ山と頂点に向かって遊歩道があり、生徒の半数くらいは登って行き、日本海の絶景を眺めた。

(ウ)義勇碑(こちらも渡部センター長による先導)

・塩津浦漁港にて、地元の方による義勇碑の由来を伺う。

・碑の裏手にある隆起した岩は地学的に貴重なものであるという説明も受けた。

2. ミッションプランナーやバス会社との打ち合わせ

(ア)10月18日(金)14:00~15:30北浜コミュニティセンターで事前打ち合わせ。その後、当日のルートを回ってみて、時間的な検討をつけた。当日は雨で、離合もできないような道や、崖崩れのしそうな箇所があるため、実施日の好天を祈る気持ちになった。

(イ)センター長さんも今回初めての経験で、何を話して良いのか戸惑われていたため、事前に北浜の地図と、簡単にツアーの説明をした後、センター長さんや地域のことについて聞いてみたいことをアンケート形式で記入提出させた。それをまとめ、コミセンにFAX。

(ウ)バスツアー終了後、Classiアンケート配信、入力。

(エ)生徒アンケートを集計、お礼状と一緒に送付。全教員にも活動内容周知のため配布。

3. 次年度への申し送り

(ア)コミュニティセンターでは、積極的な質問ができるよう、見学に伺う場所や名所について、図書館から資料提供していただき、調べ学習を行えるとよい。もしくは、関係書籍が教室に置いてあると良い。

(イ)見学自体有意義であるので、後に続く学習にしていくよう考える必要あり。

(ウ)指導する。

2年生 地域協働学習 ガイダンス

1. 日時 4月15日(月) 6限
2. 場所 視聴覚教室
3. 内容
 - (ア) 地域協働学習主担当者あいさつ (2分)
 - (イ) カリキュラムドクターあいさつ (3分)
 - (ウ) 昨年度の活動映像の視聴 *平田CATV提供 (20分)
 - (エ) スライドによる説明 (15分)
 - ① ビジュアル資料の説明(事業のねらい、3年間の流れ、コンソーシアム)
 - ② 探究テーマ、班別探究活動の説明
 - ③ 今後の予定
 - (オ) 2年学年主任より一言 (5分)
 - (カ) 教室にてClassi 振り返りアンケート (残り時間+終礼時)
4. 事前準備
 - (ア) 平田CATVへの映像提供依頼 3月中旬 →DVD受取は実施日直前になった
 - (イ) スライド準備
 - (ウ) 視聴覚教室の準備 放送関係・ICT関係は、放送部部員および顧問に依頼
5. 次年度への申し送り
 - (ア) 生徒へのガイダンスの前に、授業者(2年副担任)やMC(平田商工会議所職員)へのガイダンスおよびキックオフミーティングを実施した方が良い。
 - (イ) 余裕があれば、3年生から2年生への引継ぎ時間をとることを検討して欲しい。

2年生 地域協働学習 フィールドワーク

1. 日時 4月23日(火) 6・7限

2. 場所・内容

2-1	2-2	2-3	2-4
地域ブランドの創出 ～出雲産あずきの普及～	多文化共生社会の推進 ～外国人が住みやすい街づくり～	ファン人口・交流人口の増加 ～木綿街道・本町商店街の活性化～	
14:15～ 移動 木綿街道交流館へ	2-2教室 14:20～14:40 MCからガイダンス	14:15～ 移動 木綿街道交流館研修棟へ 14:30ガイダンス	14:15～ 移動 ほんまちプラザへ 14:30～15:15 ガイダンス MC、YEG (有) ひらの屋社長講話
14:40～ MCからガイダンス	14:40～15:30 アバンセ Cop.の 管理者による講演	木綿街道 フィールドワーク *全員で動く *場所は当日	15:20～16:00 商店街フィールドワーク
14:45～ 講話①出雲農業普及部 ②風月堂 ③メモリー	・ブラジル国の説明 ・在出雲の現状、課題 <休憩10分>		① (有) 大島屋 ② かとう ③ (有) ひらの屋 ④ (有) 小村書店
15:30～15:50 グループディスカ ッション・振り返り	15:40～16:10		A班:①→②→③→④ B班:④→③→①→② C班:②→①→④→③
16:10までに帰校	振り返り	16:10までに帰校	16:00～16:10 アンケート記入

3. 事前準備

- (ア) 3月中旬 平田商工会議所ミッションコーディネーター(MC)に内容検討依頼
以後のMCとのやりとりは電子メールを中心に行った。
- (イ) 3/27(水) 出雲市役所・政策企画課で多文化共生の内容についての打ち合わせ
市役所職員との協議による大きな進展はなし。
- (ウ) 3月末、アバンセコーポレーションに派遣依頼→承諾を得る。
- (エ) 4月頭、出雲市役所・国際交流員(ブラジル人)の派遣伺い→日程が合わず断念。

4. 次年度への申し送り

- (ア) 3・4組のフィールドワークは良い形になった。1・2組についてはフィールドワ
ークではない形も含めて検討する必要がある。

2年生 地域協働学習 大学教員による講演会

1. 講演日時・題目・講師・会場

(ア) 5月20日(月) 5・6限 地域ブランドの創出(2年1組)
島根大学生物資源科学部 准教授 江角智也 氏
2年1組教室

(イ) 5月16日(木) 5・6限 多文化共生社会の推進(2年2組)
島根県立大学人間文化学部 准教授 増原善之 氏
2年2組教室

(ウ) 5月16日(木) 3・4限 ファン人口・交流人口の増加策(2年3・4組)
島根県立大学総合政策学部 教授 久保田典男 氏
*久保田氏のゼミナール生(3回生5名)も参加
プラタナス記念館2F

2. 謝金および旅費 文部科学省事業費より支出する。

3. 事前準備

- (ア) 3月上旬 講演講師依頼・日程調整
(島根県立大学の場合は、すべて浜田C地域連携課に連絡をとる)
- (イ) 4月上旬 兼業申請書の作成・大学への送付
- (ウ) 3月中旬～5月初旬 講師との講演内容についての情報交換(主に電子メール)
- (エ) 直前 配付資料の準備(電子メールでもらった資料を印刷)
- (オ) 前日 会場設営(プラタナス記念館2Fは、清掃担当教員に依頼する)
- (カ) 講演の司会進行
- (キ) Classi 振り返りアンケートの配信

4. 次年度への申し送り

- (ア) 江角氏と増原氏は、事前に直接お会いして、事業の概要・ねらいや講演いただきたいことを打ち合わせすることができた。久保田氏は、電話やメールでのやりとりのみとなってしまったが、できれば訪問して直接やりとりをした方がよい。
- (イ) 江角氏は、6月以降もミッションプランナーとしてご協力をいただいたが、増原氏や久保田氏には当日のみの関わりであった。企画したイベントにアドバイザー講師として来ていただくとか、成果発表前の事前発表を見ていただいてアドバイスをしてもらおうとか、年間計画を立てて講師依頼をすることを検討した方がよい。

班別探究活動 指導案作成関係

1. 学習指導案

月ごとに作成（6，7，9，10月分）

例1 く 6月 〉

2年1組 地域ブランドの創出 ～出雲産あずきの普及～

第1回 活動内容・計画作成

※事前準備

- ・フィールドワーク時のワークシートを生徒に返却し、どのような商品を開発したらよいかあらためて考えておくよう指示しておく
- ・各班の取り組み内容を説明し、希望調査をするなどして班分けをしておく

(1) 導入 3分

- 取り組み内容と班別探究活動の位置づけ・見通しを伝える
 - ・「平田プラタナスプラン」の Mission を確認する
 - ・班別探究学習は6～9月の13時間
 - ・鈴懸祭で新商品の試作品を提供する予定
 - ・基礎研究班はあずきの播種会を見学予定（全員で参加する可能性もある）
 - ・市内のイベントでの新商品販売、あずきの農場の観察や草取りなど、授業時間外で参加するものもある
- 本時の活動を知らせる
 - ①「新商品の方向性を決めよう」
 - ②「班ごとに活動内容を決め、活動計画を立てよう」

(2) 展開 45分

- ①新商品の方向性を決めさせる
フィールドワークのアンケートをもとに、方向性（スイーツ、雑貨、料理などおまかに）を決定
- ②各班に分かれて協議し、活動案・活動計画を計画表に記入、提出

(3) 次回の予告 2分

次回から班ごとに活動していくことを予告する

2年2組 多文化共生社会の推進

第1回 活動内容・計画作成

※事前準備…各班の取り組み内容を説明し、希望調査をするなどして班分けをしておく

(1) 導入 3分

- 取り組み内容と班別探究活動の位置づけ・見通しを伝える
 - ・「平田プラタナスプラン」の Mission を確認する
 - ・班別探究学習は6～9月の13時間
 - ・交流会当日は全員参加で実施

○本時の活動を知らせる

「班ごとに活動内容を決め、活動計画を立てよう」

(2) 展開 45分

各班に分かれて協議し、活動案・活動計画を計画表に記入、提出

(3) 次回の予告 2分

次回も引き続き班ごとに活動していくことを予告する

2年3組 ファン人口・交流人口の増加 ～木綿街道の活性化～

第1回 活動内容決め

※事前準備…各班の取り組み内容を説明し、希望調査をするなどして班分けをしておく

(1) 導入 3分

○取り組み内容と班別探究活動の位置づけ・見通しを伝える

- ・「平田プラタナスプラン」の Mission を確認する
- ・班別探究学習は6～9月の13時間
- ・駅サイトまつり当日は全員参加で実施

○本時の活動を知らせる

「班ごとに活動内容を決めよう」

(2) 展開 45分

各班に分かれて協議し、活動案を計画表に記入、提出

- ・駅サイト班 … 一畑電鉄担当者さんにイベントについて説明してもらい、協議に参加してもらう
- ・木綿街道班 … 木綿街道の特徴を挙げ、強み・弱みなどに分類し必要な取り組みをあぶり出す(KJ法)

(3) 次回の予告 2分

次回も引き続き班ごとに活動していくことを予告

2年4組 ファン人口・交流人口の増加 ～本町商店街の活性化～

第1回 活動内容決め

※事前準備…各班の取り組み内容を説明し、希望調査をするなどして班分けをしておく

(1) 導入 3分

○取り組み内容と班別探究活動の位置づけ・見通しを伝える

- ・「平田プラタナスプラン」の Mission を確認する
- ・班別探究学習は13時間
- ・平田まつり当日は全員参加で実施

○本時の活動を知らせる

「班ごとに活動内容を決めよう」

(2) 展開 45分

各班に分かれて協議し、活動案を計画表に記入、提出

<ul style="list-style-type: none"> ・平田YEGイベント班 … YEGの担当者さんにイベントについて説明してもらい、協議に参加してもらう ・本町商店街班 … 本町商店街の特徴を挙げ、強み・弱みなどに分類し必要な取組みをあぶり出す（KJ法） ・人生ゲーム班 … 2年協働学習のキャッチコピーを集めたワードをもとに作成する（人生ゲームの準備までまだ時間があるので） <p>(3) 次回の予告 2分 次回も引き続き班ごとに活動していくことを予告</p>

例2 〈 9月 〉

2年1組 地域ブランドの創出 ～出雲産あずきの普及～

	商品開発班	商品PR班	基礎研究班
8/30(金)	鈴懸祭2日目 クラス催し物で試作提供「あずきカフェ」		
第10・11回 9/24 (火) 6・7限	商品改良 鈴懸祭で提供した商品の振り返り・修正 ※田中豆腐店さんと協議?	PR活動 ①くらしよっぷ向け (スコーン、コロッケ) ②産業未来博向け (昨年度開発商品)	①農家の方のお話 ②灘分圃場で観察
第12・13回 9/26 (木) 2・3限		↓	○成分分析班 成分実験(江角先生) ○栽培環境班

2年2組 多文化共生社会の推進

	交流会班	異文化理解班	受け入れ体制班
第10回 9/5(木) 2限	交流会企画・準備 ※エスペランサさん 会場、時間帯、実施内容について詳細検討	発表準備/いずも未来博	アンケート集計
第11回 9/9(月) 2限	交流会企画・準備 前回の打ち合わせを受け、計画の修正・準備	発表準備/いずも未来博	①分析 ②提言を考える
第12回 9/19 (木) 2限	交流会企画・準備 ※エスペランサさん 必要な準備を確認する	発表準備/いずも未来博	発表資料作成

第13回 9/25 (水) 1限	交流会企画・準備	発表準備/いずも未来 博	発表資料作成
------------------------	----------	-----------------	--------

2年3組 ファン人口・交流人口の増加 ～木綿街道の活性化～

	一畑電車を活用した活性化班 (2班)	木綿街道活性化班(4班)	
第10回 9/6(金) 1限	企画案の整理(実現可能性等を 検討)		
第11・12回 9/11(水) 6・7限	企画の実行に向けて準備作業 ※フィールドワークも可能		
第13回 9/18(水) 6限	企画の実行に向けて準備作業		

2年4組 ファン人口・交流人口の増加 ～本町商店街の活性化～

	平田YEGとの企画班 (2班)	人生ゲーム・キ ャッチコピー班	本町商店街活性 化班 (3班)
第10回 9/5(木) 5限	平田YEGとの企画第2弾 例) スープカレー ライトアップ 等	次回のフィールドワークの意義を 考え、アンケート項目を作成する	
第11・12回 9/12(木) 5・6限		フィールドワーク ①人生ゲームのコマ作成のため、各店舗にヒアリング ②体験型観光マップ作成のため、各店舗にヒアリング	
第13回 9/19(木) 3限	▼	人生ゲームのコ マ作成	体験型観光マッ プ作成

2. 担当者の動き（令和元年度）

	地域協働学習担当者（教務担当者）・CD	MC・MP
4月	①CDと教務担当との顔合わせ ②MC、CD、教務担当の顔合わせ、打ち合わせ ③MCとの打ち合わせ（クラスごとに授業内容・計画を検討） ④③を受けて、教務担当・CDが班別探究活動全体計画作成作業 ※文書作成作業は教務担当が行った	・顔合わせ ・協議 ・ガイダンス出席 ・フィールドワーク計画、案内 ・MPの選定 ※MPと学校のパイプ役はMCが行った
5月	①班別探究活動年間計画完成（上旬） ②班別探究活動6月学習指導案作成作業 ③教務部会で①と②の検討 ④副担任会（5/28） 内容：全体計画、6月学習指導案検討 出席者：副担任、MC、CD、教務担当、学校司書、（MP） ※①～④の間に随時MC・MPと協議	・教務担当との協議 ・副担任会出席 （副担任とはフィールドワークで顔合わせしているが具体的な協議はこの時から） ・大学教員講演会出席
6月	①7月学習指導案作成作業 ②副担任会（6/21） 内容：7月学習指導案検討 ※随時MC・MPと協議	・副担任会出席 ・授業参加 ・教務担当、CDとの協議
7月	①2学期の班別探究活動の計画表作成 ※関係各所とおおまかな調整 ②副担任会（7/25 終業式） 内容：1学期の振り返り、2学期の予定（概要） ※班別探究学習が軌道に乗り、生徒からの企画案が出てきたので、これ以降の班別探究学習については、副担任が中心となりMCと直接やりとりして授業内容を決定する方法に変更 ③2学期の活動について関係各所と協議（夏期休業中）	・授業参加 ・教務担当、CDとの協議 ↓ 副担任と直接協議 ・副担任会出席 ・生徒の中間発表に対するコメント作成（実現可能性や要望をまとめて2学期の活動を提案）
8月	①副担任会（8/26） 内容：9月の学習指導案検討、地域イベントへの参加について ②地域イベントの申し込み、外部との打ち合わせ	・副担任会出席 ・授業参加 ・教務担当、CDとの協議

9月	①地域イベントの申し込み、準備、外部との打ち合わせ	・授業参加 ・教務担当、CDとの協議
10月	①副担任会（10/4） 内容：10月の学習指導案検討、地域イベントへの参加、地域協働フォーラム秋・しまね大交流会 ②地域イベント準備、見回り	・副担任会出席 ・授業参加 ・教務担当、CDとの協議 ・地域イベント支援
11月	①地域協働フォーラム秋の準備	・地域協働フォーラム秋出席 ・地域イベント支援

3. 次年度への申し送り

- (ア) 生徒の取り組みは、前年度の活動を踏襲するが、企画数については授業者の労力が増え過ぎないように、活動内容を絞る。
- (イ) 最初の副担任・MC・CDの打ち合わせは、フィールドワーク前に行い、地域協働学習の全体計画とねらいを早めに共有する。
- (ウ) 授業者の打ち合わせ。
・高校内授業者は週1回（MCは商工会議所内で打ち合わせ）
・クラスごとに、授業者・MC・MPの打ち合わせを月1回程度
※MCとの電子メールでのやりとりを減らす
- (エ) 教務担当と授業者の業務分担について。
・班別探究学習はクラス（班）ごとに動きが異なり、教務担当がすべてを把握することは難しい。初めに計画やねらいを共有した後は、授業者（副担任）とMCで連絡を密に取り合っ進めてもらう。授業者が主体的に関係者と連絡・調整を行っている活動の進み具合がよく、見通しをもって活動できた。
・教務担当は2年生地域協働学習の授業者を兼ねない方が望ましい。班別探究活動期間中には、他クラスの活動のサポートが難しい。
- (オ) 授業での指導は、原則として教員が主導し、MC・MP任せにしないよう、教員に対してMC・MPの位置づけを伝える。
- (カ) 地域協働フォーラム秋後のClassiでのアンケートは、フォーラム当日だけでなく地域協働学習全体を振り返ることのできる質問を加え、職員会で報告する。
- (キ) 報道資料作成は学校側で成し、商工会議所経由で届けてもらう。
- (ク) MPへの派遣依頼文書は、学校側で作成して送付する。
- (ケ) 授業場所は、班活動や調べ物がしやすいので、できるだけ図書館を使用する。

イベント参加・課外活動関係（2年生地域協働学習）

「くらしよっぷ」

1. イベント名 第7回 くらしよっぷ 主催：平田商工会議所女性部
2. ねらい 班別探究活動で取り組んでいる課題解決のための活動の場とする。これまで学習・準備してきたことを実践し、その効果を検証する。
3. 日時 令和元年10月5日（土）10：00～17：00（売り切れ次第終了）
※イベントは10月6日（日）まで
4. 会場 平田本陣記念館 出雲市平田町515
5. 参加者 2年1組の生徒（参加可能な生徒） 引率：1組副担任
2年2組の生徒（7名） 引率：2組正担任
6. 内容 2年1組…あずきの今年度の開発商品販売
「愛の好コーン」（スコーン）
「petit feliz」（コロッケ）（だいず村田中豆富店）
2年2組…鑑賞ホールにて幼児向け異文化紹介イベント（10：30～11：00）
7. 校内体制
(ア) 教務担当者が主催者との窓口となった。
(イ) 授業者はMC・MPと連絡を取り合って、授業で商品販売や発表の準備を進める。
8. 次年度への申し送り
(ア) 「2. ねらい」に対して適したイベントだった。次年度も必要があれば実践の場として適しており、参加させやすいと思う。
(イ) 1組は販売して終わりではなく、出雲産あずきのプロデュースとしてどうであったか振り返り・検証を十分に行う必要がある。

「多文化カフェ」

1. ねらい
①「平田プラタナスプラン」の2年2組のミッションである「多文化共生社会の推進～

外国人・日本人ともに住みやすいまちづくり～」の実現に向けて、地域に住む外国にルーツをもつ方々と実際に交流の機会をもつことで、多文化共生についてより現実的にとらえ、主体的に取り組む態度を育成する。

- ② 外国人・日本人がよりよく交流するために、これまで学習・準備してきたことを実践し、今後もどのような交流のあり方が可能かを探る。

2. 日時 令和元年10月5日(土) 14:00～16:00

3. 会場 今市コミュニティーセンター 大ホール

4. 参加者 2年2組の生徒 引率：2年2組正副担任
NPOエスペランサスタッフ

来場者は出雲市を中心とした地域に居住する外国人 40名程度(見込み)

5. 移動手段 必要があれば借り上げバス(平田高校・今市コミュニティーセンター間)
による移動を検討 ※令和元年度はバス手配なし 現地集合・解散

6. 共催 NPO法人エスペランサ 担当者：堀西雅亮 氏

※NPO法人エスペランサがこれまで開催しておられた「多文化カフェ」の場に、平田高校2年2組の生徒による企画を持ち込み、実践の場とさせてもらう

7. 内容 クイズ、ゲーム、カフェ等を通じた交流活動

8. その他 ・9/19(木) 総学の授業でエスペランサと最終打ち合わせ

・参加者募集 … チラシ案を平田高校生徒が作成 →エスペランサが印刷・配布、参加申し込み受付

9. 校内体制

NPOエスペランサさんに最初に教頭先生から協力依頼をしていただき、その後、授業者が企画・実施した。教務担当者と授業者が同じだったが、異なる場合は業務を分担できるとよい。当日は、正担任にも協力してもらった。

10. 次年度への申し送り

(ア) 生徒の事後アンケートを読むと、実際に交流することによってさまざまな気づきがあり、準備は大変だが実施してよかった。その後の活動への意欲の高まりを感じた。

(イ) 早い時期からNPOエスペランサさんや市役所などに協力を依頼するとよかった。

「市長との意見交換会」、「平田コミュニティーセンター長会」

1.ねらい

「平田プラタナスプラン」の2年2組のミッションである「多文化共生社会の推進～外国人・日本人ともに住みやすいまちづくり～」の実現にのため、平田地域に住む外国人・日本人がともに住みよいまちづくりのために必要なことについて、生徒が調査し、考えたことを出雲市長や平田地域のコミュニティーセンターに報告・提言を行う

2. 日時・会場・参加者

	平田コミュニティーセンター長会	市長との意見交換会
日時	令和元年10月21日(月) 10:00～10:30 ※2限公欠	令和元年10月23日(水) 10:40～11:10 ※2・3限公欠
会場	出雲市役所平田行政センター2階	出雲市役所本庁401会議室
参加者	2年2組生徒 6名	2年2組生徒 7名
引率者	2年2組 副担任	

3. 移動方法 両日ともに、1限終了後、ジャンボタクシー1台で移動
アタゴタクシー(0853-62-3400)

4. 発表までの流れ

(1) 調査

- ・平田地域の企業で働く外国人労働者に関する講義(商工会議所MCによる)
- ・平田地域在住の企業に勤務している外国人(おもに技能実習生)と事業者へのアンケートを実施
- ・出雲市在住の外国人に関するデータ収集 など

(2) 分析

(3) 提言・報告 パワーポイントを使用

5. 校内体制

(ア) コミセンのセンター長会への参加については、令和元年度は初めに教頭先生から佐香コミセンのセンター長さんに依頼してもらい、その後は授業担当者(兼教務担当者)が企画・実施した。

(イ) 市長との意見交換会は、CDの金築さん経由で市役所に依頼した。

6. 次年度への申し送り

- (ア) コミセンのセンター長さんや市長さんは、児童生徒の発表を聞き慣れておられるので、発表練習は入念に。質疑応答にも柔軟に対応できる力が求められる。発表内容も、理論だけでなく、実践やそれに基づいた分析など深まりのあるものが求められる。準備には十分な時間が必要。
- (イ) 生徒にとって大変貴重な経験で、センター長さんや市長さんから直接多文化共生の現状について説明していただいたり、やりとりしたりすること自体が学びの場となり成長がみられた。
- (ウ) 令和元年度は、教務担当者と授業者が同じだったが、異なる場合は業務を分担できるとよい。

「いずも産業未来博」

1. イベント名

いずも産業未来博覧会 2019

主催：いずも産業未来博実行委員会・NPO法人21世紀出雲産業支援センター
共催：出雲市

2.ねらい 班別探究活動で取り組んでいる課題解決のための活動の場とする。これまで学習・準備してきたことを実践し、その効果を検証する。

3.日時 令和元年11月2日(土)、3日(日)の2日間 10:00~16:00

4.会場 出雲ドーム

5.参加者

当日参加：2年1組の生徒 引率：1組正副担任、教務部地域協働学習担当
準備参加：2年2組の生徒 引率：当日参加はないため、なし

6.移動手段

借り上げバス(またはジャンボタクシー)による移動を検討中
※令和元年度はバス手配なし 現地集合・解散

7.内容

2年1組 … あずきの開発商品販売
※販売するのは昨年度の開発商品

「出西生姜とあずきのパウンドケーキ」(雲州メモリー)

「雲州丸」(風月堂)

上記の業者から商品を預かり、平田高校の生徒が販売を行う

2年2組 … 外国人来場者向けの案内表示作成(やさしい日本語版、ポルトガル語版)

8. 校内体制

(ア) 教務担当者が主催者、MP(風月堂・メモリー)との窓口となり、出展手続きやMPへの出品依頼を行った。

(イ) 授業者はMC・MPと連絡を取り合って、授業で商品販売や発表の準備を進める。

9. 次年度への申し送り

(ア) 「2. ねらい」に対して適したイベントだった。次年度も必要があれば実践の場として適しており、参加させやすいと思う。

(イ) 1組は販売して終わりではなく、出雲産あずきのプロデュースとしてどうであったか振り返り・検証を十分に行う必要がある。2組は活動の効果を主催者に確認したり、会場へ足を運んで自分で確認できるとよい。

「平田まつり」

1. ねらい 4組のミッションに対する企画の実践の場とし、その効果を検証する

2. 日時 令和元年7月27日(土)

3. 会場 本町商店街

4. 実施内容 おばけやしき、ステージイベント(井手上漠さんトークショー)

5. 校内体制

(ア) 授業者(副担任)がMC・MP(商工会議所青年部)と直接連絡を取り合って準備を進めた。

(イ) 郊外での準備やイベント当日は、担任・教務担当も引率や活動の付き添いを行った。

6. 次年度への申し送り

(ア) 授業者がMC・MPとの主たる窓口となったが、教務担当と分担できるとよい。

(イ) 複数の企画を同時期に進行させる場合、担任・学年付きの先生の協力が必要。

「雲州平田まちあそび企画」

1. ねらい 3、4組のミッションに対する企画の実践の場とし、その効果を検証する
2. 日時 令和元年10月20日(日)
3. 会場 本町商店街・木綿街道・雲州平田駅周辺
4. 実施内容
 - ・出雲農林高校移動動物園でのアンケート活動(愛宕山動物園のPRに向けて)
 - ・お茶会(本石橋邸)
 - ・リアル版人生ゲームのコマ作成
5. 校内体制
 - (ア) 授業者(副担任)がMC・MP(商工会議所青年部)と直接連絡を取り合って準備を進めた。
6. 次年度への申し送り
 - (ア) 授業者がMC・MPとの主たる窓口となったが、教務担当と分担できるとよい。
 - (イ) 複数の企画を同時期に進行させる場合、担任・学年付きの先生の協力が必要。

班別探究活動 2年1組

1. ミッションコーディネーター、ミッションプランナーとの打ち合わせ、連絡
(ア) MC：商工会議所 小村さん MP：だいず村とうふ店 田中さん
(イ) 学園祭準備期間（7月～8月）は商品開発協力を数回来校。
(ウ) くらしょっぷ、産業未来博準備期間（9月～10月）も商品改良、PR方法に協力、助言のため、数回来校。

2. 各班の活動内容

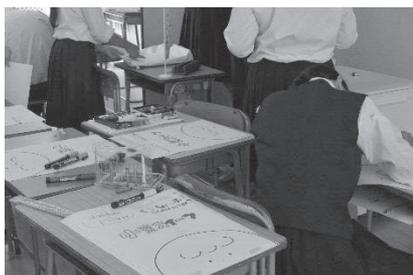
1班・2班 【商品開発班】

- ・6月～7月 → 学園祭展示に向けて、「あずき商品」の考案、商品の試作。
- ・夏休み中も数回登校してグループごとに試作を行った。
- ・9月～10月 → くらしょっぷ、産業未来博に向けて、学園祭提供商品の改良。



3班・4班 【商品PR班】

- ・6月～7月 → 学園祭展示に向けて、PRの掲示物等の準備。
- ・9月～10月 → くらしょっぷ、産業未来博展示に向けて、PRの掲示物等の準備。



5班・6班 【基礎研究班】

- ・ 6月～9月 → あずきの湿害対策の研究、実験。
- ・ 灌漑システム見学。
- ・ 7月：あずき播種。
- ・ 12月：あずき収穫。



3. 次年度への申し送り

- (ア) 次年度も「あずき」にするのか？
- (イ) くらしょっぷ、産業未来博など土日に生徒を駆り出すことが多い。教員もしかりである。参加生徒の確保は容易ではない。
- (ウ) P R班は開発班が作った商品をどうP Rするかを考えていくので、P R班は商品開発班に含めても良いかもしれない。
例えば、開発P R班と称して4班と基礎研究班を2班とするなど。

班別探究活動 2年2組

1. 生徒の活動

	交流会班（1班）	異文化理解班（3班）	受け入れ体制班（2班）
6月	・計画表作成 ・交流会の目的、対象、内容の検討 ・準備リスト作成	・ブラジルの文化調べ ・計画表作成 ・対象、場所、内容の検討 ・役割分担	出雲市全体ではなく、平田在住の外国人についての調査に変更 ・情報収集
7月	・役割分担 ・予算書作成	・予算書作成 ・準備	MC 日下さんの講義、質疑 外国人労働者アンケート作成、書籍、インターネット
9月	・ポスター作成、配布 ・クイズ作成	・小学生班：7/22、10/11 くら小学童クラブで実施	・考察・発表準備
10月	・打ち合わせ ・10/5 グローバルカフェ開催	・幼児班：10/5 くらしょっぷ、10/7 平田保育所で実施	・10/21 平田地域のコミセンセンター長会 ・10/23 市長との意見交換会
夏季休業中	ボランティア活動（参加は任意） ・多文化こども教室、日本語教室（NPO エスペランサ） ・日本語教室（ひかわ de 日本語）		
10月 11月	ポスター発表準備		

2. 担当者の動き

- (ア) 5月 県立大学増原先生に授業計画についてアドバイスをいただく
- (イ) 6月 班別探究活動1回目の前に班分け（生徒に希望調査）
- (ウ) 7月
 - ・NPO法人エスペランサさんに2組の活動全体への協力依頼
 - ・交流会班 : エスペランサさんと協議し交流会開催の協力を依頼
 - 異文化理解班 : 異文化を紹介する活動の発表先探し、依頼
 - 受け入れ体制班: 外国労働者アンケートの実施
 - ・MCに依頼（協力して下さる企業選定・交渉・依頼）
 - ・生徒が作成したアンケートの翻訳先探しと依頼
 - ・発送作業
 - ・夏季休業中のボランティア活動 実施先への依頼、参加者募集
- (エ) 8月 外国人労働者アンケート回答翻訳依頼
- (オ) 9月 各種行事への参加について職員会提案（くらしょっぷ、グローバルカフェ、市長との懇談会、コミセンセンター長会）
- (カ) 10月 各種行事の生徒引率

3. 次年度への申し送り

- (ア) 早い時期にエスペランサさんや出雲市役所といった多文化共生社会の推進活動をしておられる機関に相談すべきだった。班別探究活動が始まるまでに授業者が具体的な見通しを持たず、何をしたいか分からない生徒に対して適切な助言ができなかった。
- (イ) 班ごとにそれぞれの活動を行ったので、6通りの活動があり、多忙で一つひとつの活動に適切な助言をすることが難しかった。活動の種類を絞ったほうがよい。
- (ウ) 夏休みのボランティアに自主的に参加する生徒が多くおり、意識の高まりを感じた。
- (エ) MCとの打ち合わせ、役割分担を綿密・明確に。

班別探究活動 2年3組

1. 各班の活動状況

1班 ・プロジェクト B・H～平田と一畑電車の活性化～	2班 ・一畑電車オリジナルクッキー
3班 ・木綿街道の活性化は地域との交流から～昔の遊びで平田の輪を広げよう～	4班 ・縁切れるんじゃ!! 縁結べるんじゃ!! 宇美じんじゃ!!!
5班 ・来てごしない平田 ～縁結び1人旅～	6班 ・木綿街道をPRするには??

2. ミッションコーディネーター、ミッションプランナーとの打ち合わせ、連絡

MCの坂本様とは授業前後に連絡を取り合い、情報の共有を図った。さらに、坂本様には各班の企画実現のため各事業所の方々との調整をしていただくことによって各班の活動を円滑に進めることに繋がった。

学校だけでは到底できないような企画を実現できたのも坂本様の功績によるものであった。

3. 次年度への申し送り

- ・作成したインスタのアカウント(2-3で木綿街道関係が2つ、ツイッターは1つ)については、アカウントの譲渡や削除をしないと乱立していく可能性がある。
- ・各地域で実施した事業は、地域とのトラブル等を引き継いだ上で可能な限り同じ継続して欲しい。(一回だけで終わると地域の心証も悪いのではないか)→本当は発表の際に、申し送りも意識して結果を通じた「考察」(どうすればより良くなったか、事業をした上で以降の展開をどうしていきたいか)について掘り下げて欲しかった。(次年度探究活動をする上で、年度を越した事業の継続・課題へのアプローチは意識してもよいかもしれない。)

MC側

- ・PDCAを意識して全体の軸がぶれないように寄り添う(但し柔軟に対応して、様々な窓口となる)

地域側

- ・協力頂ける方たちの意識づけ(「平田高校が無くなった平田地域を想像してみる」等シヨッキングな内容のワークショップなどを事前に開いて真剣に協働を考えるきっかけを作るなど)

高校側

- ・役割・主体の明確化
- ・主体的に地域とかかわる（MC はあくまで窓口、生徒より先に顔の見える関係を作る）

生徒側

- ・自由な発想(自分が実行する前提でやりたいこと・楽しいことを見つけて欲しい！正答は無い)
- ・スケジュール管理(締切の意識が薄いため要注意)
- ・外部の方と接する際に、「平田高校生」(組織の1人)として見られている自覚
- ・次年度も今年度と同じような学習にするのであれば、各クラス6班の活性化案をクラス内発表会後に2~3案くらいにまとめないと進捗の管理が難しい。(発案は生徒一人一人にってもらう方法もある。)
- ・「探究活動」の実施主体を明確にすべきである。(各団体が主体的に関わることはもちろんだが、核の部分と役割分担をはっきりさせる必要がある。)
- ・活動前段の部分(生徒が地域に出る前)に協力頂く地域の方と高校の先生方の関係を構築できるとその後の協力がスムーズに得られるように思う。(平田商工会議所が間に入り「協力してほしい」というだけでは地域側にも主体性が生まれないように感じた。長期的に一緒にやっていきたいという熱意を地域の人に伝えていくのは学校と会議所共にやっていく必要がある。)
- ・今年のように「失敗をすることも経験」として、成果(物)にこだわらず指導して頂けると支援する方向性が見えやすくありがたい。
- ・生徒に「答え」を探すのではなく、自分の主張をしてもらうための仕掛け作りは必要だと感じた。
- ・「地域に入って・協働して」という題目を掲げるならば、「生徒が自主的に関わる」ことは絶対条件のように思います。ここ2年間の蓄積で生徒たちは「平田地域」というフィールド自体を知らないという事実は判明しているため、1年時に地域との関係作り(お互い顔の見える関係になる)、2年時に今回のような活性化策を実施する、といった長期スパンで計画せねば題目に沿った事業実施は難しいように思います。
- ・個人的には最終的な活性化案も、地域を知った上であれば、「地域をフィールドにやってみたいこと(自己実現)」位な緩い形で十分ではないかと思っています。(「考える」「主張する」「他人を巻き込み検討する」ことが大切)
- ・地域の主張に従う・従わないではなく、「話し合い」ができる関係を作ることが最優先ではないかと思っています。(理想は茶飲み話ができるご近所さんくらいの身近さの構築)←「地域をコンサルティングする」のではなく「地域と共に歩む」ことが人材育成につながると理解しています。

班別探究活動 2年4組

1. 各班の活動内容

1班（平田YEGとの企画班） ・平田まつりでのお化け屋敷開催	2班（平田YEGとの企画班） ・平田まつりでのメインステージイベント開催
3班（人生ゲーム班） ・平田まちあそびのリアル版人生ゲームのストーリー、マス考案 ・キャッチコピー考案	4班（本町商店街活性化班） ・活性化策の企画立案 ・観光マップ作成（5班と協働）
5班（本町商店街活性化班） ・活性化策の企画立案 ・観光マップ作成（4班と協働）	6班（本町商店街活性化班） ・活性化策の企画立案 ・動物とのふれあい体験実施

2. ミッションコーディネーター、ミッションプランナーとの打ち合わせ、連絡

- (ア) 7月上旬 お化け屋敷会場の下見
- (イ) 7月上旬 平田まつり当日の人数調査
- (ウ) 7月中旬 平田まつりメインステージイベント打ち合わせ
- (エ) 夏期休暇中 2学期以降の企画実行に関する意見交換
- (オ) 9月上旬 平田まちあそびでの動物ふれあい体験についての打ち合わせ
- (カ) 10月上旬 平田まちあそび当日の人数調査
- (キ) 10月中旬 観光マップのための写真撮影の打ち合わせ
- (ク) その他、毎授業前後に電子メールで細かく MCさんと打ち合わせ・振り返りを行った。

3. 次年度への申し送り

- (ア) 授業の班分けをする際、土日とイベントが重なることもあるので、年間スケジュール等を考慮した上で選択させるべきである。
⇒メインで活動していた生徒が、部活動の大会等で当日不在になることがあった。
- (イ) イベントに向けた授業の際、イベント時期と授業の割り当てをもう少し考えるべきだった。
⇒手持ち無沙汰で授業を無駄にしてしまうことがあったので MPさんも交えて授業スケジュールを考えると良いのではないかと。

- (ウ) 2 学期以降から授業に参加いただいた事業所の方にしわ寄せがってしまった。
⇒途中参加だと主旨等が理解できず、生徒とも打ち解けられないため、活動当初から授業に入りたかったという意見をいただいた。
⇒MP さんも含め、関係するであろう事業所を一堂に会して、地域協働学習の全体説明を行い、共通認識を持った方がよい。
- (エ) 生徒間で温度差がある。
⇒来年も同じ MP さんをお願いすることがあれば、高校生が主旨説明をしたりアポイントメントをとったりすると、自主性が出るのではないか。
- (オ) 生徒内で各班のリーダー、書記、タイムキーパー、発表係等を決めておくと、授業の進捗がスムーズなのではないか。
- (カ) MP さんに授業に参加していただく際、授業の感想・気づき等を MP さんにフィードバックできれば、次回の授業の質の向上、MP さん方の今後の事業展開に役立つのではないか。
- (キ) 発表練習の時間を授業の中でもう少し確保できると良い。
- (ク) たくさんのイベントに携われることは高校生にとっては非常に良いことではあるが、クラスの中で時期によって忙しい班とそうでない班が出てきてしまうことがあった。特に平田まつりの企画に取り組んだ班は、2 学期以降にあまりすることが明確化できず、授業者も生徒も困った。

2年生 島根県立大学 学生ゼミナールへの参加

1. 目的 2019年7月19日に締結した島根県立大学との連携協定に基づき、学生同士が学び合う場面をつくり互いに研鑽を積むことで、地域社会を担う人材の育成を目指す。
2. 日時 11月6日(水) 終日
3. 引率 2年生の正・副担任
4. 移動 大型バス4台(文科省予算から支出)
5. 内容
7:30~10:00 平田高校出発→浜田C到着
10:40~12:10 2回生ゼミを見学
昼休憩、学内散策
13:10~14:40 3回生ゼミで地域協働学習の発表
*3回生から意見をもらう
15:00~17:30 浜田C出発→平田高校到着
6. 校内の実施体制
 - (ア) 日程調整、大型バスの予約(旧・担当者)
 - (イ) 浜田キャンパス・地域連携課との連絡・調整(進路指導部担当者)
 - 高校生の参加人数、発表グループ数の報告
 - 参加させてもらうゼミの名称、担当教員名、場所の確認
 - 依頼文の作成・送付
 - その他、必要なこと(バスの休憩場所の確認)
 - (ウ) 当日の動きや内容の確認・共有(2年副担任会および2年学年会)
7. 旧・担当者(文科省事業担当)の動き
 - (ア) 前年度2/19(火)に浜田キャンパスにて、高大連携方法および連携協定締結について、打ち合わせ。
 - (イ) 4月に浜田キャンパスと調整し、日程を11/6(水)に決定した。
 - (ウ) 新規事業実施のため、5/17(金)の職員会議にて趣旨・日時を提案。
 - (エ) 7月に連携協定を締結し、大学関係者にこの取り組みについて説明をした。
 - (オ) 9/20(金)の職員会議で、主担当の変更および学年会へへのお願いを示した。

8. 進路指導部担当者の動き

- (ア) メールによる担当者の確認、学長宛依頼文書送付
- (イ) メールによる当日の本校生徒、学生の動きの確認、引率教員との打ち合わせ
- (ウ) 実施後の礼状、生徒の感想文の送付

9. 授業者の動き

- (ア) 6月 班別探究活動の班分け決定 →この班で11月の発表を行う
- (イ) 10月 プレゼン資料作成(およそ5h)

10. 次年度への申し送り

- (ア) 浜田キャンパスは遠方のため、出発時間が勤務時間より1時間早く、帰着時間も30分遅くなる。改善方法は、校内および高大で検討する必要がある。
- (イ) ゼミ(特に地域協働学習との関連が深い分野のゼミ)の見学は有意義である。また、学生からのアドバイスはとても参考になった。
- (ウ) 昼休憩にキャンパスを自由に散策でき学生のゼミ以外の場面を見学できたことも良かったので、厳しい時間設定ではあるが、そういった時間は残したい。
- (エ) 今の出発時間ならば、朝の欠席連絡の電話番が必要である。
- (オ) 事業実施後のホームページ掲載の役割分担を追加する。
- (カ) 学生ゼミのあとに総合の時間がとれず、そのまま地域協働フォーラムでの発表になってしまった。声が小さいことや、原稿を見ながら喋っていることなどが指摘されたが、改善を指導する時間がなかった。
- (キ) 総合の授業では、資料の作成に時間を費やし、発表の練習や指導・助言を行う時間がとれなかった。しかし、限られた時間の中で、発表練習まで含めて総合の時間を捻出するのは難しい。

しまね大交流会

1. 日時 11月16日(土) 11:00～16:30
2. 会場 松江くにびきメッセ 大展示場、多目的ホール、小ホール
3. 移動 島根県教育委員会の借り上げバス(出雲商業高校の生徒と同乗)
4. 内容 ①と②が、本校生徒が参加する部分である。

大展示場	多目的ホール	小ホール
11:00～12:00 出展者交流会	11:00～12:20 ① 高校生向けセミナー	
13:00～16:30 ③ 大交流会	14:00～15:00 ② 高大センバツ ローカルアクション展	15:00～15:50 ④ 大人向けセミナー

5. 参加者 生徒20名、校長、教頭、地域協働事業担当教員2名、保護者の参加は無し
 - (ア)②のプレゼン 2年生 班別探究活動の代表4班(各クラス1班)
 - *代表班・参加者は、2年副担任会および2年学年会にて決定した
 - (イ)①、②、③に参加を希望する本校の生徒・教職員(9/27～10/7)
 - *生徒に対しては、Classiで出欠をとった
 - *教職員に対しては、校内独自様式の紙で出欠をとった
 - (ウ)①、②、③、④に参加を希望する本校の保護者(～10/25)
 - *チラシ、および主催者作成の保護者宛文書を配布した
6. 当日の様子
 - (ア)午前の高中生向けセミナーは、20グループに分かれ、それぞれのグループで大人たちの話を2・3回聞く「座談会」であった。内容は良かったが、松江市内の高校生が学年単位で来ていたため、本校生徒は少数派で居づらかったと思われる。
 - (イ)午後の発表では、松江東高校が48班出ている中で、本校は4班の発表だったが、聴講者からはいずれも好評をいただいた。
7. 次年度への申し送り
 - (ア)1年生にも参加させるとよい。研修旅行新聞の出来が良い班など。
 - (イ)引率者を学年部から出してもらうよう依頼をする。

埼玉県「学校地域 Win-Win プロジェクトフォーラム」

1. 主催 埼玉県教育委員会
2. 日時 令和2年1月15日(水)、1月16日(木)
3. 会場 埼玉県県民健康センター(さいたま市浦和区仲町3丁目5番地1号)
4. 宿泊 浦和ワシントンホテル(さいたま市浦和区高砂2丁目1番地19号)
5. 行程 1/15(水) 7:00 出雲空港集合(現地集合)
出雲空港 7:55 → 羽田空港 9:15 JAL
羽田 → 浦和駅(鉄道)
浦和駅 → 会場(徒歩15分) 12:00頃到着
13:00~17:00 フォーラム参加
1/16(木) 浦和駅 → 北浦和駅(鉄道)
9:40~10:30 埼玉県立浦和高等学校で発表・交流
北浦和駅 → 羽田(鉄道)
羽田空港14:00 → 出雲空港15:30 JAL
6. 内容 (1) 平田高校の地域協働学習の取り組みを発表する。
(2) 他校・他地区の実践事例を聞く。他校の生徒との交流をする。
7. 引率 2年副担任1名、1年副担任1名
8. 参加生徒 2年生4名 *各クラス1名
(1) 人選は、引率者が2年学年部で協議し、11月末までに決定した。
(2) 人選にあたっては、12月から1月にかけて発表資料の作成作業ができる人、2月のしまね探究フェスタに参加できる生徒を優先した
9. 費用 昼食代のみ各自で負担、交通費・宿泊費(1泊2食)は文科事業費より支出
10. 発表資料
(1) コンソーシアム会議用に教員が作成したパワーポイントを基に、少しアレンジをして発表用パワーポイントを作成した。
(2) このパワーポイントは、しまね探究フェスタ、および次年度の中学校訪問とオープンスクールで活用する。

1 1. 事前準備

- (1) 10月上旬、埼玉県教育センターから2名が来校。話の中で、埼玉県での標記フォーラムへの参加を打診される。→前向きに検討
- (2) 10月上旬～下旬 文科省事業費の変更申請、および旅行会社・事務部との折衝を行った。
- (3) 11月から埼玉県教育委員会の指導主事と連絡調整を行う。特に、2日目について、高校生が発表・交流できる企画を依頼する。→11月末に決定
- (4) 11月末～12月にかけて、島根県教育委員会からも標記フォーラムについてさまざまな連絡・調査があった。特に、生徒の発表資料については、期限を延長してもらおうよう申し入れをした。
- (5) 12月9日、参加生徒4名(+1名)と引率者の事前学習会を実施。地域協働事業の全体像やねらいについて説明し、発表資料の作成を依頼した。
→参加生徒は、2日に1回以上集まって、資料作成を行った。
- (6) 12月25日、生徒が作成した発表資料と学校紹介資料を、埼玉県教育委員会および埼玉県立浦和高等学校に送付した。

1 2. 当日のようす

- (1) フォーラムには埼玉県内の高校生、埼玉県教育長をはじめ、教育委員会職員、学校教員など200名以上が参加、探究学習の意義や、実際学習に取り組んでいる生徒の取り組み、学習指導に関わる教員間での意見交換を行った。本校生徒も積極的に話し合いに参加し、参加者全員に対し意見を発表する場面も多く見られた。本校でのこれまでの取り組みが大きく評価されたと感じた。
- (2) 埼玉県立浦和高等学校訪問では、本校生徒4名によるプレゼンテーションの後浦和高等学校生徒8名との質疑応答が行われた。司会進行もすべて浦和高等学校生徒によるもので、質疑応答の30分では、本校の取り組みに対する建設的な意見がやまなかった。本校の取り組みを参考とし、今後の探究活動に取り組んでいきたいという浦和高等学校生の意気込みも感じることでできる大変有意義な時間であった。

1 3. 次年度への申し送り

- (1) 次年度以降は旅行会社とのやりとりに、最初から事務部にも入ってもらった方がよい。旅行券の予約内容や書類作成の注意点に助言がもらえる。
- (2) 高校訪問がある場合は、お土産の準備を事前にしておくとよい。

しまね探究フェスタ 兼 全国マイプロジェクトアワード島根 summit

1. 主催 一般財団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム
島根県教育委員会 教育指導課 地域教育推進室
2. 日時 令和2年2月8日(土)
3. 会場 くにびきメッセ 国際会議場(松江市学園南1-2-1)
4. 日程 2/8(土) 10:00~10:45 開会行事、審査員等紹介
11:00~14:05 予選プレゼンテーション
14:10~14:55 予選審査、結果発表
14:55~16:15 決勝プレゼンテーション
16:15~17:25 決勝審査、結果発表
17:30 閉会行事
5. 内容 (1) 平田高校の地域協働学習の取り組みを発表する。(2年生チーム)
(2) 自分が興味関心のある事柄を研究発表する。(1~3年生希望者)
6. 参加生徒
(1) 【学校部門】2年生プロジェクトチーム4名
(2) 【個人・グループ部門】3年生6名 計3チーム
7. 引率 2年学年部1名、3年学年部1名
8. 費用 交通費は主催者から支給された。
9. 事前準備
(1) 11月に2年学年部教員による指名で、プロジェクトチームを編成した。
(2) 12月3日(水) 探究フェスタのチラシを全学年に配布した。参加は希望制だが、必ずクラス担任に相談した上で申し込みをすることを伝達した。
(3) 2年生プロジェクトチームは【学校部門】で、その他は【個人・グループ部門】でエントリーさせた。
(4) エントリーの際には、引率者情報(氏名・メールアドレス等)を入力する必要がある。

- (5) 行事当日の模擬試験については、後日受験ができるように進路指導部(学年部)で配慮をしてもらった。
- (6) 2年生プロジェクトチームは、放課後1～2時間程度で集まって作業をした。
- (7) 3年生は、センター試験終了後からの約3週間で準備をした。主にパソコン教室で作業をした。パソコン教室と図書館の空き状況一覧表を3年学年部で作成して、各クラスに掲示した。

10. 当日のようす

- (1) 島根県内の高校生が様々な分野のプレゼンテーションを行った。予選プレゼンテーションでは学校部門、個人・グループ部門合わせて52チームが出場した。それを8ブースに分け、各ブースから1チームが午後の決勝プレゼンテーションへ進出する。各ブースの審査員は2名で、島根県内の企業の方や教育魅力化コーディネーター、大学教授等様々な方による審査であった。本校生徒も堂々とこれまでの活動内容を発表した。残念ながら予選を通過することはできなかった。
- (2) 決勝プレゼンテーションでは、午前の予選プレゼンテーションを通過した8チームが出場した。学校部門、個人・グループ部門それぞれ4チームである。その中から2チームずつが全国サミットへの出場権を得る。学校部門の審査員は3名であった。
- (3) プレゼンテーション以外にも様々なワークがあり、生徒にとって非常に学びの多いイベントであった。高校生同士はもちろん、県内の教育関係者や島根県出身の大学生、地元企業に勤務する方、大学教授等幅広い方との交流会が行われた。本校の生徒も積極的に参加している様子だった。

11. 次年度への申し送り

- (1) プロジェクトチームの引率者、および個人・グループ部門で参加希望があった場合の引率者について、学年部との打ち合わせが必要である。
- (2) 引率者と同様に、参加生徒への事前指導をする教員を決めておく必要がある。今年度は、プロジェクトチームは埼玉フォーラムの引率者が、3年生については地域協働事業担当者が指導を行った。今後、エントリー数が増えていく場合には、学年部と相談していく必要がある。
- (3) 3年生のエントリーは、高校3年間での学びを振り返りつつ、将来的な地元での活動をイメージさせる上で、非常に意味のあるものだった。例えば、文Ⅱ・理系クラスで12月上旬までで進路が決定したものについては、この行事へのエントリーを促すような動きがあってもよいと考える。

平田商工会議所×平田高等学校 企画
大学生向け「平田まちづくりワークショップ」

地域活性化について、大学生と社会人、大学生と高校生が協働して取り組むという新しい学びのスタイルに取り組む。特に、平田高校出身の学生には、出身校の現状や地元の良さを再確認してもらう機会にする。

1. 日時 令和元年8月23日(金) 9:00~16:00
2. 場所 午前:平田商工会議所 午後:平田高校
3. 参加者 大学生8名(うち、本校卒業生6名、他校卒業生2名)
 - ・ 島根県立大学・総合政策学部・総合政策学科(浜田) 4回生 1名
 - ・ 島根県立大学・看護栄養学部・看護学科(出雲) 3回生 1名
 - ・ 島根県立大学・総合政策学部・総合政策学科(浜田) 3回生 3名
 - ・ 島根県立大学・人間文化学部・地域文化学科(松江) 2回生 2名
 - ・ 島根大学・総合理工学部・数理科学科(松江) 3回生 1名平田商工会議所・平田青年会議所などから10名程度
4. 協力 細田 智久 氏(島根大学総合理工学部建築デザイン学科 教授)
5. タイムテーブル
 - 9:00 平田商工会議所2F大会議室集合
 - 9:10~ 9:30 (1) 平田未来ビジョンについての説明(平田商工会議所職員)
(2) 平田高校との協働事業についての説明(平田高校教員)
(3) フィールドワークについての説明(島根大学・細田氏)
 - 9:30~10:40 3班に分かれてフィールドワーク
 - (1) 平田行政センター周辺【複合施設をつくろう企画】
 - (2) ミツトリヒトギ【企業・創業しよう企画】
 - (3) 雲州平田駅周辺【道の駅をつくろう企画】
 - 10:40~11:30 各班でまとめ
 - 11:30~12:00 発表・講評
 - <昼休憩・移動>
 - 13:20~14:10 (1) 平田高校にて、担当教員との打ち合わせ
(2) 午前中のワークショップの報告準備

- 14:20～15:10 (1) 平田高校1年生プレゼン「地元企業調べ」を聴講
(2) 平田高校2年生プレゼン「地域協働学習成果報告」を聴講
(3) 1・2年生プレゼンに対する指導助言
(4) 高校生に向けて、午前中のワークショップの報告
- 15:20～16:00 (1) 1・2年生プレゼンに対する指導助言(つづき)
(2) 振り返りアンケート記入、解散

6. 事前準備 大学生には、以下のものを一読してきてもらう。

- (1) 平田未来ビジョン(平田商工会議所HPにも掲載)
(2) 平田プラタナスプランビジュアル資料(平田高校HPにも掲載)

7. 提出物 当日、平田高校の担当教員に渡してもらう。

- (1) 口座振替申出書(県様式1)
(2) 通帳の表紙・表紙裏のコピー

8. その他 (1) けがや事故に備えた旅行保険1人500円をかけた。

※令和元年度は損保ジャパンの平田地区の担当者をお願いした。

- (2) 昼食は用意せず、近くの飲食店等を利用してもらった。
(3) 午後の3時間分の謝金と大学から高校までの交通費を支給した。

9. 担当者の動き

- (1) 4月:平田商工会議所での打ち合わせ 実施日の決定
(2) 5月:大学生の募集開始(島根県立大学・浜田C・地域連携課にも依頼)
(3) 7月上旬:平田商工会議所での打ち合わせ 内容の決定
(4) 7月下旬:参加学生決定、以後は電子メール等でやりとりをした
島根県立大学からの参加学生は、浜田C・地域連携課に報告した
(5) 8月:平田商工会議所での打ち合わせ 当日の詳細確認

10. 次年度への申し送り

- (1) 大学生への声かけは、当初2・3回生に絞っていたが、なかなか集まらなかった。1回生や4回生にも声を掛けたほうが良い。
- (2) 島根県立大学の学生への声かけは、各キャンパスの事務部から発信をしてもらったが、うまくいかない場面が多く見られた。本校独自で卒業生とのネットワークを作っておくことを考える必要がある。
- (3) 当初は島根県立大学の学生のみを協力を依頼していたが、集まりが悪かったため後から島根大学の学生に声かけをした。始めから島根大学生にも声をかけた方が良い。また、人数の都合で他校の卒業生にも参加してもらったが、できるだけ本校卒業生が望ましい。

地域と高校生の未来を語る会

1. ねらい 地域でご活躍の方々と語り合うことで、自分自身の興味関心の幅を広げたり、進路意識や社会貢献意識を醸成したりすることをねらいとしている。3学期の個人探究活動の導入ワークとして位置づけている。
2. 日時・内容 12月24日(火) 12:35～14:25 (4・5限)
3. 会場 第1体育館
4. 対象 1・2年生全員 *防寒着着用可(12/23に朝礼で指示)
5. 協力 ミッションプランナー(以下、MP) 計35名
 - (1) 平田ロータリークラブ 12名
 - (2) 平田ライオンズクラブ 7名
 - (3) 平田商工会議所関係 13名(当日欠席対応+3名)
6. MP事前学習会 12月1日(月) 12:30～平田高校で実施 約30名参加
7. 事前指導
 - (1) 期末試験あけの12/4(水)のSHRで、行事の予告を行う。
 - (2) 12/4(水)のSHRで800字詰め原稿用紙を配布し、自分のことを3分間語るための未来予想図作文を提出することを伝える。
 - (3) 12/16(月)に提出させ、副担任が内容を確認してから返却する。

1・2年生への指示(抜粋)

<未来予想図に書いて欲しい内容>

 - ・ 今、興味関心があること、やってみたいと思うこと
 - ・ なりたい職業、大学や専門学校で学びたいこと
 - ・ 何がしたいか分からず困っていること、迷っていること、悩んでいること

<注意事項>

 - ・ 最低600字以上書くこと。
8. 班編制 各クラス副担任が作成する。
 - (1) 各クラス9～11人1組の「4班」を作る。グループ名は「〇年□組1～4班」。
 - (2) 12/23(月)の朝礼時に、各クラスで班編制を発表する。

9. 役割分担

- (1) 事前打ち合わせ・事前学習会、生徒名札、MP 受付簿・名札準備 (教務部)
- (2) 1・2年副担任会の実施、内容の周知・協議 (教務部)
- (3) 当日：MP 受付 (業務アシスタント)
- (4) 当日：4・5限の巡回、MP の質問等対応 (1・2年副担任と学年付)

	1-1	1-2	1-3	1-4	2-1	2-2	2-3	2-4
点呼	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
5・6限	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇		〇〇	
巡回	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

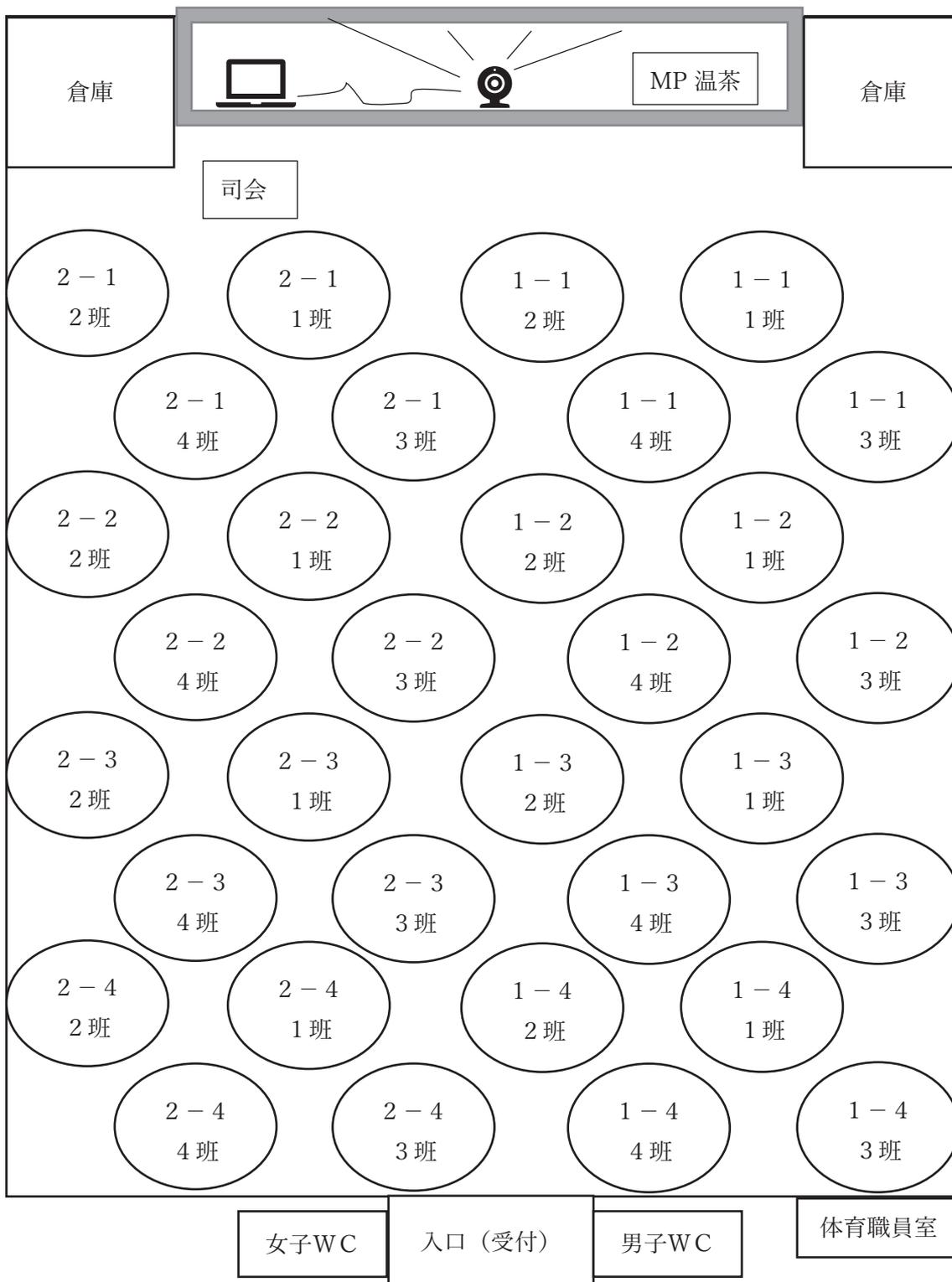
※該当の先生で相談をして、適宜休憩をとってください

- (5) マスコミ関係対応 (教頭)
- (6) 会場準備 (体育科、1-4生徒、1-4正副担任、担当) ヒートガン：体育科
- (7) 会場片付け (3年副担任、3年生) * 3年学年集会後
- (8) 司会進行 (教務部)
- (9) MP への温茶の提供 (PTA 職員、業務アシスタント)
- (10) 写真撮影・ホームページ掲載 (図書研修部)

10. 時程、実施内容

8:40~ 8:50 朝礼	
8:55~ 9:45 1限 9:50~10:45 2限 10:55~11:45 3限	1-4会場準備
11:45~12:00 清掃 12:00~12:30 昼休憩 12:30~12:35 移動	※1・2年正担任 保護者面談準備 各クラス4班に分ける×8クラス=32グループ
12:35~13:25 4限 <途中10分休憩> 13:35~14:25 5限	① 校長あいさつ (5分) ② アイスブレイク (5分) ③ MP 自己紹介、仕事・社会貢献の話 (15分) ④ 未来予想図発表、MP コメント (3分発表、2分コメント)×(人数) ⑤ 時間が余れば、フリートーク
14:35~15:25 6限	各教室で振り返り、探究テーマの検討 (副担任) 3年生学年集会 (体育館) のち 会場片付け
15:25~ 終礼 15:40~16:30 3年補習	1・2年副担任

11. 会場図



- ・ 1班につき椅子を12脚 (12×32=384脚) 円形に並べる
- ・ 司会席にもマイク2本

個人探究活動 1年生

1. 学校の実施体制

- (ア) 12月半ば、副担任会を実施。授業の全体像の把握、目的の確認を行った。
- (イ) 12月24日、地域の高校生と未来を語る会のための「未来予想図」を課題として準備。現在考えている進路や、興味のあること、迷っていることなどを600字程度でまとめた。その後、副担任で回収。生徒の現在考えていることなどを一覧表にまとめた。
- (ウ) (イ) で作成した一覧表をもとに学校司書と授業についての打ち合わせを行った。どのような問いを立てると生徒が授業に参加しやすいのか、そのための資料にはどのようなものが有効であるか、また授業の進め方について意見交換を行った。
- (エ) 12月26日、1年生副担任会を実施した。今後の授業の進め方や、どのような問いを立てればよいか、といった内容について意見交換を行った。
- (オ) 1月14日 授業第1回目、12月の地域と高校生の未来を語る会後に作成したワークシートをもとに探究学習をスタートした。

2. 来年度への申し送り

- (ア) 授業についてかなり時数が限られているため、1年生の生徒にとってどのような問いが身近で、その後の活動の資料集めやまとめに取り組みやすいかを考える必要がある。
- (イ) 副担任が担当することもあり、担任との十分な情報交換が必要である。特に進路選択が十分に進んでいない生徒達が立てやすい問いは何か、2年生の探究活動とのつながりを考える上で、学年を追うごとに内容を深めていくことができるような問いがいいのではないかとの意見が出た。
- (ウ) 資料探しを行う際には、問いを立てる時点である程度提供できそうな資料を図書館で準備していただいた方が学習を進めやすいと感じた。

個人探究活動 2年生

1. 打ち合わせ, 授業者の準備等

- (1) 2学期末試験期間中に1, 2年生合同での副担任会を実施。個人探究活動のねらいや進め方について確認。
- (2) 〈地域と高校生の未来を語る会〉に向けて, 600字程度で「未来予想図作文」を書いてくるよう指示。
- (3) 冬休み期間中に2年生副担任会を実施。学校司書も交え, ワークシート等の使用教材の検討を行った。また, 授業スケジュールを大まかに確認した。
- (4) 「未来予想図作文」や授業を踏まえ, 生徒の興味関心のある事柄をリスト化し, 学校司書へ連絡。生徒へ資料提供がスムーズにできるように。

2. 次年度への申し送り

- (1) 全体的に授業時数が少ない。特に資料調べが1時間では終わらない。
- (2) 2学期までのところで問い設定までできると, 3学期にもう少しゆとりをもてるのではないか。
- (3) 担任と副担任がもっと連携する体制を作れるとよかった。
⇒担任が知っている進路情報から問い設定に生かせる。

地域協働フォーラム 2019・秋

1. 日時 11月13日(水) 5・6・7限 ※午前4限を45分短縮で行う。

2. 参加生徒 1・2・3年生

3. 内容

(1) 2年生地域協働学習 班別探究活動の成果発表

2-1	地域ブランドの創出 ～出雲産あずきの普及～
2-2	多文化共生社会の推進 ～外国人が住みやすい街づくり～
2-3	ファン人口・交流人口の増加策 ～木綿街道の活性化～
2-4	ファン人口・交流人口の増加策 ～本町商店街の活性化～

(2) 基調講演 「いつか帰る君たちのために ～母川回帰」

講師 コミュニティデザイナー 山崎 亮 (やまざき りょう) 氏

4. 当日の動き

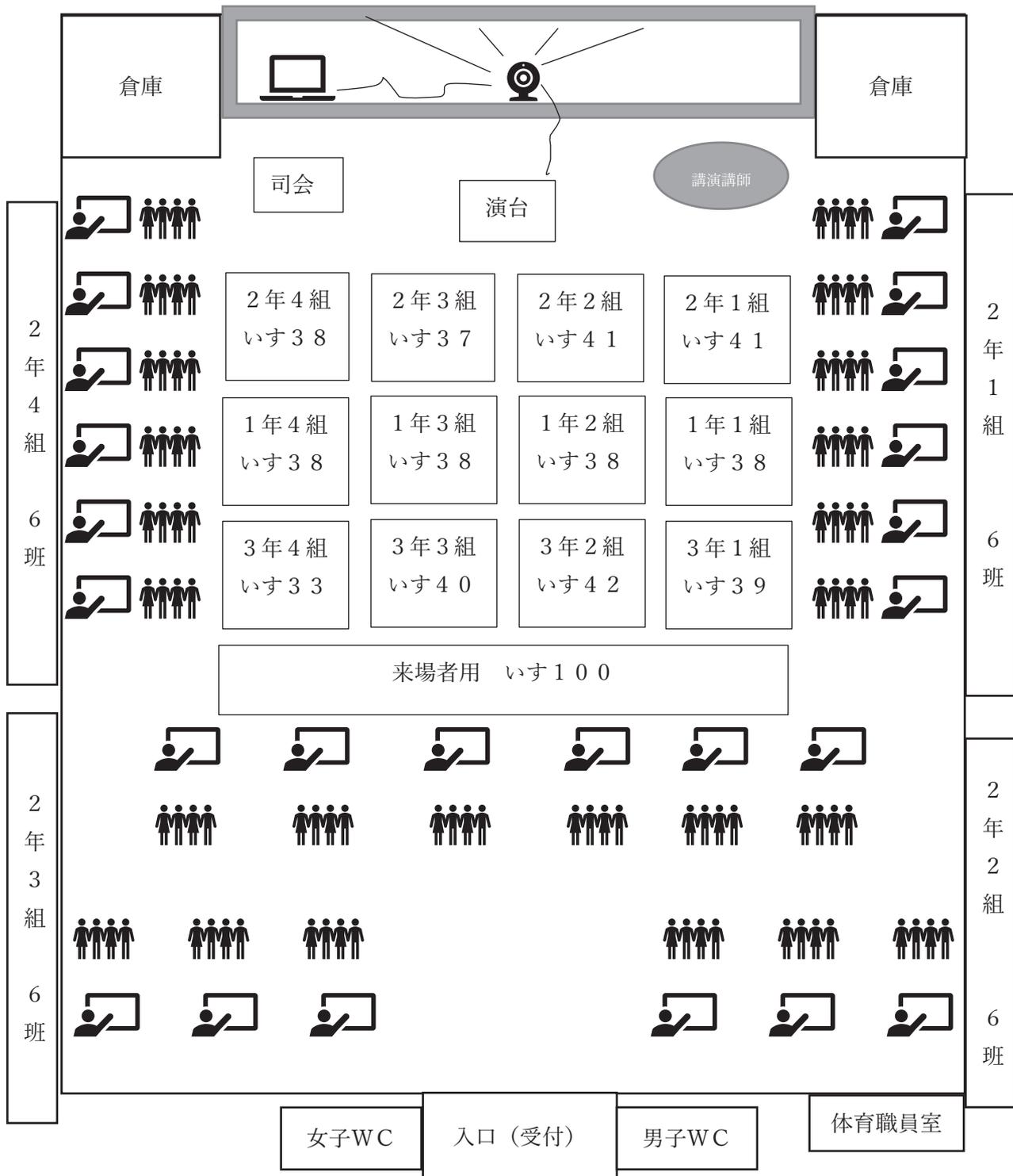
時程	動き
8:40～ 8:50 朝礼	
8:55～ 9:40 1限 9:50～10:35 2限 10:45～11:30 3限 11:40～12:25 4限	・1年1クラス 体育館シート引き、椅子並べ ・1年2クラス パネル運搬・配置、椅子整列
12:25～13:00 昼休憩	※2年生は早めに移動し、発表資料をパネルに貼る
13:00～13:15 13:20～13:25 (5) 13:30～14:10 (40) (15分休憩)	2年生は発表準備、1・3年生パネル閲覧 開会行事、2年生発表準備→1・3年生移動 2年生発表 3回発表(発表・質疑10分、移動5分)
14:25～14:30 14:30～15:30 (60) 15:30～15:40 15:40～16:10 (30)	講演講師紹介 基調講演会 山崎 亮 氏 質疑応答 片付け ・2年生 パネル運搬 ・1、3年生 いす・机・シート 片付け
16:10～16:25 16:25～16:30	清掃 ※体育館清掃担当 シート片付け続き 終礼 (Classi アンケート入力) ※男女バスケ、女バレー シート片付け続き

第2回コンソーシアム会議・運営指導委員会 16:00～17:00 プラタナス2F

5. 教員の役割分担

番号	業務内容	担当
1	全体統括、外部の窓口、マスコミ対応	教頭
2	案内文の作成・稟議・送付または配布（9月中） (1) 平田高校コンソーシアム (2) 近隣の小学校・中学校・高校 (3) 平田高校保護者	教務部、業務アシスタント
3	来場者のとりまとめ (1) 受付簿の作成 (2) 来場者数連絡（総務、生徒指導）	教務部
4	準備物 (1) 生徒の発表タイトルとりまとめ (2) 1・3年生の聴講ブース割り振り (3) プログラム作成・印刷 (4) 講演会の演題 縦書き・垂れ	教務部
5	司会・進行	教務
6	振り返りアンケート（Classi） 学年ごとに実施	教務
7	会場準備 (1) 当日3・4限の準備指導、片付け指導 (2) 準備物 演台、マイク プロジェクタ、HDMIケーブル、延長コード 移動式ホワイトボード ホワイトボードマーカー（極太、黒・赤） プレゼン資料を貼るための展示パネル、画鋏 来場者受付のいす・机・案内表示（1体の入口） 来場者用スリッパ、下足入れ袋、傘立て	総務部 <会場準備> 3限 体育科 4限 総務部 <会場片付け>
8	講演講師、および運営指導委員・実行委員関係 (1) 講演講師、宿泊・食事・旅費関係の庶務 (2) 講演講師の花束、おしぼり、カフェオレ準備 (3) 運営指導委員・実行委員のお茶・旅費関係の庶務 (4) 御礼・花束受け渡し指導（2年生） (5) 当日の来場者受付対応	・教頭、業務アシスタント ・教頭、業務アシスタント ・教頭、業務アシスタント ・2年学年部 ・進路指導部
9	(1) 体育館とその周辺、管理棟1Fの美化 (2) 周辺トイレの案内表示	保健部
10	駐車場 (1) 事前の教職員駐車指示（2体前に詰めること） (2) 当日の駐車場整理（校内、愛宕山公園、プール）	生徒指導部
11	写真撮影 ホームページへの情報掲載	図書研修部

6. 会場図



- ・ 展示パネル24組
- ・ いす731脚 (生徒発表時 7脚×24 = 168脚 1年のみ着座、3年は後ろに立つ)
(講演会生徒席463脚 来場者用およそ100脚)

7. 先生方へのお願い

文部科学省事業への理解を深めるための教員研修として、全員参加とする。

8. 作業チェックリスト

<準備>

- 案内文・チラシの作成、講演講師の依頼（3ヶ月前）【担当者・教頭】
- 案内文・チラシの送付（2ヶ月前）※関係機関には会議の案内文も同封【担当者・教頭】
- 受付簿の作成、および総務部と生指部への来場者数連絡【教務部】
- 生徒の発表タイトルとりまとめ【教務部】
- 1・3年生の聴講ブース割り振り【教務部】
- プログラム作成・印刷【教務部】
- 講演会の演題を含めた以下の4つ垂れ幕 縦書き・ゴシック体【教務部】
- 司会進行の確認、タイマー用タブレット・変換コネクタの準備【教務部】
- 地域協働事業の紹介スライド（パワーポイント）作成【教務部】
- 振り返りアンケート（Classi） 学年毎に配信【教務部】
- いすの配置確認【総務担当者、教務担当者】
- 会場準備関係【総務部】
 - 展示パネル24枚、足48本の確認
 - 画鋏（1班につき2個×8枚）×24班＝400個
 - 移動式ホワイトボードの確認
 - ホワイトボードマーカー（極太、黒・赤）の準備
 - 来場者受付および来場者席の案内表示作成
 - 来場者用スリッパ、下足入れ袋、傘立ての確認
- 講演講師の花束注文【教頭、業務アシスタント】
- おしぼり・カフェオレ準備【教頭、業務アシスタント】
- 講演講師への御礼・花束受け渡し生徒の指導【2年学年部】
- 当日の来場者受付（1体前） 分担【進路指導部】
- 体育館とその周辺、管理棟1Fの美化 計画【保健部】
- 周辺トイレの案内表示 分担【保健部】
- 事前の教職員駐車の指示（2体前に詰めること）【生徒指導部、朝礼原稿に記載】
- 駐車場整理（校内、愛宕山公園、プール） 分担【生徒指導部】
- 写真撮影 分担【図書研修部】
- ホームページへの情報掲載 分担【図書研修部】
- 大型プロジェクタの使用準備【図書研修部】
- 放送設備点検【放送部顧問】

1. 当日の動き

- 午前中
- マスクミ対応【教頭】
 - 講演講師接待（昼食など）【校長、教頭】
 - 垂れ幕掲示【教務部、事務部】
 - プログラムを受付に置く【教務部】
 - タイマー用タブレットを接続【教務部】
 - 放送設備準備【放送部顧問】

花束運搬 【業務アシスタント】

3限 会場準備 【体育科教員、1年1組生徒と正・副担任】

シート敷き、いすの準備

4限 会場準備 【総務部員、1年3・4組生徒と正・副担任】

- (1) いすの準備 (つづき)
- (2) 展示パネル24枚、足48本の運搬・設置
- (3) 画鋏 (1班につき2個×8枚) × 24班 = 400個
- (4) 演台、マイク4本、マイクスタンド2本 (演台、司会進行席)
- (5) 大型プロジェクタ、HDMIケーブル、延長コード
- (6) 移動式ホワイトボード
- (7) ホワイトボードマーカー (極太、黒・赤)
- (8) 来場者受付のいす・机・案内表示 (1体の入口)
- (9) 来場者用スリッパ、下足入れ袋、傘立て

昼休憩ごろ 駐車場整理 (校内、愛宕山公園、プール) 【生徒指導部】

来場者受付 (1体入口) 【進路指導部】

13:00～ 開場

- 司会・進行 【教務部】
- 12:55の予鈴のあと、チャイムOFF 【教務部】
- 写真撮影・記録 【図書研修部】

13:20～ 開会行事

あいさつ 【校長】

13:30～14:10 2年生による地域協働学習成果発表会

タイマー操作 【教務部】

14:25～15:40 山崎亮 (やまざき・りょう) 氏による基調講演

- 講師誘導、講師紹介 【教頭】
- 質疑応答のマイクをもって走る人 【教務部】
- 花束贈呈 【2年生 さん、 さん】

15:50～ 片付け

- 全体指示 【総務部】
- 時程・清掃・3年補習の指示 ※時間が押した場合
【教務部、保健部、進路指導部】

※新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため、2/28（金）に中止を決定。

1. 日時 3月10日（火）5・6・7限 ※午前4限を45分短縮で行う。

2. 参加生徒 1・2年生

3. 内容

(1) 1・2年生 個人探究活動の成果発表

(2) 基調講演 「夢をカタチに～地方の伝統を未来に」

講師 (株)和える 代表取締役 矢島 里佳 氏

4. 当日の動き

時程	動き
8:40～ 8:50 朝礼	
8:55～ 9:40 1限 9:50～10:35 2限 10:45～11:30 3限 11:40～12:25 4限	・1年1クラス 体育館シート引き、椅子並べ ・1年2クラス パネル運搬・配置、椅子整列 (壮行式・報告会) グループ発表事前指導
12:25～13:00 昼休憩	
13:00～13:15 13:20～13:25 (5) 13:30～14:10 (40) (15分休憩) 14:25～14:30 14:30～15:30 (60) 15:30～15:40 15:40～16:10 (30)	入場しクラス毎に着席・点呼、自席で発表練習 開会行事 グループ発表 *学年・組バラバラの6人1組の48グループ *1人5分発表・質疑+2分準備 ×最大6回 講演講師紹介 基調講演会 矢島 里佳 氏 質疑応答 片付け ・譜面台運搬 ・いす・机・シート 片付け
16:10～16:25 16:25～16:30	清掃 ※体育館清掃担当 シート片付け続き 終礼 (Classi アンケート入力) ※男女バスケ、女バレー シート片付け続き

第3回コンソーシアム会議・運営指導委員会 16:00～17:00 プラタナス2F

5. 教員の役割分担 ※教務部多忙期のため、負担軽減を図った

番号	業務内容	担当
1	全体統括、外部の窓口、マスコミ対応	教頭
2	案内文の作成・送付・掲載（1月17日まで） (1) チラシの作成 (2) 学校HP、ポータルサイトへの掲載 (3) 保護者、コンソーシアム、学校関係等への案内 (4) コンソ会議、運営指導委員会の案内（同封）	・担当、業務アシスタント ・担当、業務アシスタント ・担当、業務アシスタント ・教頭、業務アシスタント
3	来場者のとりまとめ (1) 受付簿の作成 (2) 来場者数連絡（総務、生徒指導、進路指導）	・担当、業務アシスタント ・担当、業務アシスタント
4	準備物 (1) 生徒の発表タイトルとりまとめ 3/3(火)まで (2) 校務支援S「総合学習の入力」 3/12(水)まで (3) 生徒の発表グループ作成 3/3(火)まで (4) プログラム作成・印刷 (5) 演題 縦書き・垂れ	・1・2年副担任 ・1・2年副担任 ・担当、業務アシスタント ・担当、業務アシスタント ・担当、業務アシスタント
5	司会・進行、タイマー準備・操作など	教務部員
6	振り返りアンケート（Classi） 学年ごとに実施	教務部員
7	会場準備 (1) 当日3・4限の準備指導、片付け指導 (2) 準備物 演台、マイク、レーザーポインタ（進路） プロジェクタ、HDMIケーブル、延長コード 移動式ホワイトボード、ヒートガン、ストーブ ホワイトボードマーカー（極太、黒・赤） 来場者受付のいす・机・案内表示（1体の入口） 来場者用スリッパ、下足入れ袋、傘立て	総務部員 <会場準備> 3限 体育科 4限 総務部 <会場片付け> 総務部
8	講演講師、および運営指導委員・実行委員関係 (1) 講演講師、宿泊・食事・旅費関係の庶務 (2) 講演講師の花束、飲料・おしぼりなど準備 (3) 御礼・花束受け渡し指導（2年生2名） (4) コンソ会議、運指委員会のお茶・旅費関係の庶務	・教頭、業務アシスタント ・教頭、業務アシスタント ・2年学年部 ・教頭、業務アシスタント
9	当日の来場者受付 ※13：40まで	進路指導部員
10	(1) 体育館とその周辺、管理棟1Fの美化 (2) 周辺トイレの案内表示	保健部員
11	駐車場 (1) 事前の教職員駐車の手配（2体前に詰めること） (2) 当日の駐車場整理（校内、愛宕山公園、プール）	生徒指導部員 ※13：25まで
12	写真撮影、ホームページへの情報掲載	図書研修部員

3年生 志望理由書の作成

1. 実施状況

回	月 日	内容	授業者
1	4月 第3週	① 課題の設定「テーマ設定」	副担任
2	4月 第4週	② 情報の収集「根拠・事例を調べる」	副担任
3	5月 第2週	③ 〃	副担任
4	5月 第3週	④ 志望理由書作成（800字）	副担任
5	5月 第4週	⑤ 志望理由書作成 ※適宜面談	副担任
6	6月 第1週	⑥ 志望理由書作成 ※適宜面談	副担任
7	6月 第2週	⑦ 志望理由書作成 ※適宜面談	副担任
8	7月 第1週	志望理由書発表会（1組は実施）	副・正担任
9	7月 第1週	中学生に向けてのプレゼン準備	副担任
10	7月 第2週		
11	7月 第2週		
12 13	7月16日6・7限	平田中・向陽中での発表会 50分 (1) 地域協働学習の発表（生徒会） (2) 志望理由書（進路）の発表（全員）	副・正担任

※副担任の裁量で、時間数を増やしたクラスもある。

2. 事前準備（志望理由書関係）

- ① 3月中に、担当者が学習指導案（略案）・ワークシート・評価表などを作成した。
- ② 4月4日 拡大学年會にて、指導案を提示。概要を説明。
- ③ 4月・5月・6月には副担任会を実施し、指導案や指導内容の確認・変更をした。
- ④ 「総合」と「副担任会」を時間割に入れてもらう変更連絡表を、教務に提出した。

3. 指導案

第1回 課題の設定「問いを立てる」
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの配布 テーマ設定 : ○○○をすれば、◇◇◇になると思う（社会がもっと良くなる方向） 副担任「○○○には、すすみたい進路のできる【自分オリジナルの斬新な取り組み】を書きましょう。また、◇◇◇には誰がどのように豊かになるのかを書きましょう。また、どうしてこうなるかという根拠や参考にした事例を探しましょう。」
第2回、第3回（図書館）情報の収集「根拠・事例を調べる」
<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記入、調べ学習のつづき ・副担任は、個人面談等を行い、テーマ設定・絞り込みが適切にできているかを確認する。

第4回～第6回 整理・分析「志望理由書の作成」

・800字原稿用紙を配布して、志望理由書の作成、情報収集

・副担任は、志望理由書の進捗管理 + 読み方指導

第7回 クラス発表会 副担任・正担任で協力して実施する

___人1組で行う。 ◆副担任◆発表の班分け表・座席表を作り、生徒に提示しておく

(1) 導入 (5分)

・発表の仕方についての説明

(2) 展開 (40分)

・ ___分プレゼン、 ___分で残りの人が順番に質問をする。評価票の記入。

(3) まとめ (5分)

・簡単な講評

・評価票はキャリアファイルに入れさせる。

志望理由書タイトル一覧表を作り、中学校での発表会の班分けの参考とする。

第8回～第11回 3年間のまとめ、中学生向けプレゼン準備

まとめ・表現「発表資料の作成」

副担任「6月に作成した志望理由書を、中学生に分かりやすく伝えるために【プレゼン発表資料】を作ってください。また、プレゼン発表資料には自分自身の平田高校の3年間を振り返る内容も入れるようにしてください。中学生にとって、平田高校が楽しく自分自身が成長できる場所だということが伝わるような発表にしていきましょう。」

・プレゼン資料の作成、A3用紙4～5枚、発表は5分

第12～15回 平田中学校・向陽中学校での発表会

・小グループを作って、個人発表

・6分でプレゼンと質疑応答を行う。

4. 評価基準 (試行として実施)

A：十分に満足できる	B：満足できる	C：努力を要する
「課題の設定」と「整理・分析」が適切であり、複数の情報源から内容を考察している。	「課題の設定」と「整理・分析」が適切である。内容の考察について情報源が不足している。	「課題の設定」と「整理・分析」が適切でなく、内容の広がりが少ない。

5. 反省点

- ① 志望理由書のクラス発表会はなくてもよい。資料作りに時間を充てた方がよい。
- ② 内容を深めるために、副・正担任が協力して、生徒との面談をこまめに行う。
- ③ 中学生から質問が出てきやすくなる発表内容にしていく (具体性)。

3年生 地元中学校でのキャリア学習成果発表会

1. ねらい (1) 中学生・高校生の地域貢献意識・進路意識の高揚につなげる
(2) 将来的に平田地域で活躍する人材を育成するための仕組みをつくる
(3) 地元中学校から本校への進学者の割合を増やす
2. 日程 7月16日(火) 6・7限
3. 場所 平田中学校 (時間は15:00~15:50)、徒歩で移動
向陽中学校 (時間は15:10~16:00)、大型バスで移動
※大型バスの借上げは、文部科学省事業予算から支出する。
4. 内容
(ア) 平田高校2年次に取り組んだ「地域協働学習」の概要発表
*代表生徒による全体発表(15分程度) パワーポイント
<移動5分>
(イ) 志望理由書を元にした個人探究の成果発表(地域貢献につなげる進路選択)
 - ① 中学生7~8人、高校生5人 のようなグループを作って発表
 - ② ひとり6分発表・質疑×5人=30分
5. 文科省事業担当者の動き
(ア) 1月中旬~下旬、校長同士での当事業についての確認
(イ) 2月中旬~下旬、両中学校担当者への当事業説明、中学校内での協議開始
(ウ) 3月下旬、中学校での行事实施了承、日程調整に入る。
(エ) 4月中旬に日程のみを決定。時程は、両中学校からの要望が異なり、再度調整。
(オ) 両校管理職で調整してもらい、5月中旬に時程も決まる。1時限のみで実施。
6. 総務部担当者の動き
(ア) 5月中:大型バス1台の予約(サンフラワー観光見積もり済)
(イ) 地域協働学習の発表資料準備指導(3年生4人、部活動未加入生徒を中心に)
5/20(月)~5/29(水)
(ウ) 6月中:両中学校担当者との打ち合わせ
(エ) 6月末まで:中学・高校の保護者宛て文書作成・配布、コンソーシアム宛て文書
(オ) 野球抽選、柔道部の動向を把握後、両中学校への割り振り、発表グループの作成
(カ) 7月上旬:副担任への連絡、総合学習の「発表準備」の段取り

7. 次年度への申し送り

(ア) 日程・時程調整は、前年度の3学期中（本校の行事予定が決まるまで）にする。

(イ) 取り組みの「ねらい」が分かるような資料を作成し、中学校で配布してもらう。

～地域人材育成循環システム～

(ウ) 地域協働学習の発表では、単なる活動報告ではなく、取り組みの「ねらい」が中学生に伝わるような発表資料をつくる。次年度は、プロジェクトチームが埼玉フォーラム・探究フェスタ用に作った発表資料を転用する。

(エ) 6月下旬～7月上旬に、3年学年部全員での直前打ち合わせ会を設定する。

(オ) 当日の司会進行は、高校の担当教員が担当した方がよい。中学生の様子も見ながら、生徒の説明で足りないところを補足していく方がよい。

(カ) 各自の発表が終わったところではなく、時間を決めて全グループが終わったところで拍手をするよう指導する。

(キ) 当日の発声が大きくできるよう、準備段階でのリハーサルでしっかり指導する。

(ク) 志望理由書から、発表までのスケジュール調整をしておくこと。発表資料の作成は意外と時間がかかる。

3年生 特別講座「地域探究」

3年学年部の主催により、理系および文Ⅱ系の進路決定者のうち、専門学校進学者と就職者を対象として、標記講座を実施した。

1. 目的 卒業間際に地元との関わりを意識した活動をすることにより、将来的な地元への定着（Uターン）意識や社会貢献意識の高揚を図る。
2. 日程 1月21日（火）～31日（金）9日間 1限から6限まで
3. 受講者 3年1・2・3組 専門学校進学者および就職者（7名）
4. 授業案作成 カリキュラムドクター 金築千晴氏
5. 活動場所 各教室、特別教室、図書館、パソコン教室、校外など
6. 実施の流れ
 - (ア)進路指導部・特別講座担当者は、1月15日（水）までに受講生徒の氏名・進路先の一覧表をカリキュラムドクターに提示した。
 - (イ)1月17日（金）に受講者に対して、講座の概要と事前課題を説明した。事前課題は、将来の展望等をまとめた作文（未来予想図）とした。
 - (ウ)1月21日（火）1限にガイダンスおよび事前課題を元にヒアリングを行った。
 - (エ)1月22日（水）以降は、パソコン教室と図書館で活動をした。校外での活動はしなかった。
 - (オ)1月31日（金）3・4限にパソコン教室で発表会を行った。
7. 次年度への申し送り
 - (ア)講座を計画したのが1月に入ってからだったため、十分な準備ができず、学習内容としては不十分であった。特に、校外での活動を計画できるとよかった。
 - (イ)内容をカリキュラムドクターに任せている部分が多くあった。地域での活動は総合的な探究の時間との関わりが大きいので、3年副担任が講座の担当者として生徒に関わり、生徒の活動の幅が広がるような補佐ができるとよい。
 - (ウ)進路が決定している生徒にとっては、通常の講座よりもやりがいをもって取り組めるものであった。通常のカリキュラムにはない講座であるが、次年度以降も計画してほしい。

3年生図書館活用・学習支援

中学校3年生に向けた平田高校生3年生による地域協働学習発表会
～発表会に向けて 図書館での学習支援・ワークシート～

① 志望理由書 before after

『カンザキメソッドで決める！志望理由書のルール 大学入試』神崎史彦／著 文英堂 参照

志望理由書をイメージできない生徒が多かったため、上記の本から平高生が進路先として
選びがちな看護・経済等7学部分の志望理由書の before after プリントを作成。実物投影
機で撮しながら留意ポイントを説明したり、事前に学習したワークシートでどんな根拠や事
例が必要だったのか示した(配布せず)。

※ 希望者にはプリントを提供

② プレゼン白紙シート

志望理由書をそのまま読むプレゼンになることが予想されたので、発表内容を可視化し
論理的に発表できるようにシートを配布

③ 発表会に向けて

【別紙 1】

中学生に向けてプレゼンをする意義を見いだせないまま最終準備に入っている生徒が多く見られ、発
表そのもののあり方にその曖昧さが反映されそうだったので、プレゼン直前の時間に配布、確認した。
タイミングとしてもっとふさわしい時機があったと思う。

図書館での授業の様子

「なぜ中学生に向けて自分の志望理由を伝えなくてはならないか」を疑問視する声は
終始聞こえてきた。プレゼンする意義をきちんと認識させる必要はあると感じている。

実際には各進路先が提示するテーマ設定や書式があるので、総学の時間に書き上げ
た志望理由書がそのまま使うことは困難だと思われる。むしろ「○○○すれば、◇◇◇
になると思う」のワークシートが有効なはずだが、生徒が最もこずった課題でもあった。
「高校卒業後にやりたいこと」だけでなく、自分が進みたい分野の抱える課題・将来性
等、窓口をひろげると、もう少し取り組みやすく事例も集めやすかったかもしれない。

中学校3年生に向けた平田高校生3年生による地域協働学習発表会

1. 経過・ねらい

1年生の名古屋研修旅行や2年生の地域課題解決学習などで学んだことを活かして、すすみたい進路でどのようなことができるのか、社会に出たときに何がしたいのかを具体化していき、志望理由書を作成しました。



その作り上げた志望理由書や平田高校でやってきた活動をまとめて、未来の平田高校生になる中学生に伝えることで、皆さんが高校で学んだことを受け継いでいきます。

2. 自分の財産

日々の勉強	名古屋研修	探究学習
部活動	地域課題解決学習	ビブリオバトル
生徒会活動	・・・	・・・
学校外での活動		
・・・		

3. プレゼンテーション

発表者と聞き手のコミュニケーションです。

相手の反応を見ながら話しましょう。

⇨ アイコンタクト

身振り手振り

明るい表情

間の取り方

気軽に質問し合ったり、意見交換できる距離感で向き合っているはずです。

グループ全員が聞こえる声の音量を調節しましょう。

⇨ (発表時にマスクは外す)

原稿の準備は常体文でも、中学生に向けては敬体文で語りかけることをおすすめします。

重要ポイントは繰り返すのもOKです。

発表原稿に、紛らわしい同音異義語、難読語、発音しにくい言葉はないですか？

⇨ 聞き手にわかりやすい言い換えの工夫等考慮しましょう。

ゆっくり、ゆったり話す。

4. 当日の位置関係

ステージ

発表者



中学生

高校生

〈全クラス〉 マンダラート(全クラス対象)

総体の図書館で2クラス同時展開の時間に、各クラスのテーマに沿って実施

〈 1 組〉 あずきブックトーク

【別紙 2】

昨年から受入ってきた「あずき」に関わる本を、平高の研究テーマに沿って紹介
実は図書館的には「あずき」が農作物、料理、健康と捉え方によって複数の分類になるので
あずきファイルで、そこもあわせて説明し資料を探す際の注意ポイントを示した

あずきファイル

上記ブックトークでもとりあげたが、書籍としては「あずき」に関するものがそれほど多くは
ないので、あずきに関係する団体のHPからプリントアウトした資料をファイル化した

例) **公益財団日本豆協会**

豆の栄養成分

健康作りに果たす豆の役割

栽培方法

等

豆類振興事業 調査研究 成果概要

豆類時報

あずき資源の活用と食育活動

千歳高校BBCとJA道央青年部千歳ブロックによる

「小豆富芋千コロケ」の共同開発事業について 等

〈 2 組〉 多文化共生関連書籍購入 ブラジル理解を中心に

ブラジル・カルチャー図鑑

ブラジルのごはん

体験取材！世界の国ぐに 6 ブラジル

熱帯の多人種主義社会 ブラジル文化讃歌

ブラジルを知るための 56 章

ブラジル雑学事典

現代ブラジル事典

ブラジルのごはん

世界のともだち ブラジル

〈3・4組〉 まちづくりを提案する際の参考に先行事例紹介

『ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる』 山崎満広／著 学芸出版社

あずき ブックトーク						
◆	あずきの定番おやつ・・・・・・・・					
		『あんこのおやつ』				596
		あんこ				
		おはぎ				
		どらやき				
		桜餅				
		ぜんざい				
		大福、きんつば、ようかん、氷金時				
◆	江角先生お薦め・・・・・・・・					
		『アスキの絵本』				
		民話	歴史	生育	製品	616
◆	あずきを知ろう・・・・・・・・					
		『小豆の力』				
		栄養性	機能性			498
◆	あずきの力をビジュアルに知ろう・・・・・・・・					
		『煮あずきパワー』				
		煮あずき効果20				498
		栄養素				
		料理レシピ				
		『あずき水ダイエット』				
		あずき水				498
		冷たいスイーツ				
◆	販売戦略					
		『日本の色』				675
		『最強のネーミング』				674
◆	平田高校オリジナルファイル					
◆	文化としてのあんこ・あずき					
		『和菓子』				596
		季節感	民俗	名前		
		色	芸術			

探究学習

興味関心のある「学問」について探求し、学ぶことのおもしろさを体感する
 大学での研究や学部・学科のイメージをつかむ

自分の知識 + 新しい情報 → 学習成果

情報編集力

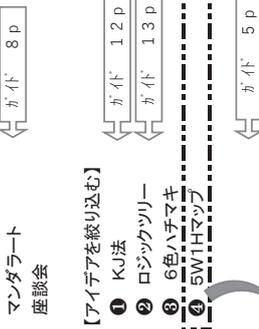
[1]

課題の設定

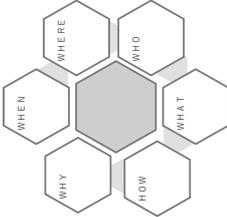
知っていること・知りたいこと
 学んだこと・学びたいこと
 不確かなこと
 疑問に思ふこと
 最近のニュースから
 見聞きしたこと

「問い」を立てる

【キーワードから発想を広げる】



④ 5W1Hマップ

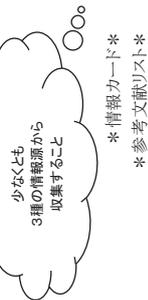


⑤ 6色ハチマキ

白：客観的事実	統計・データ
赤：感情	あるがままの感情を表現
黒：ネガティブ	マイナス面
黄：ポジティブ	プラス面
緑：クリエイティブ	創造的な視点
青：戦略	考え方を考える(まとめ)

[2]

情報の収集

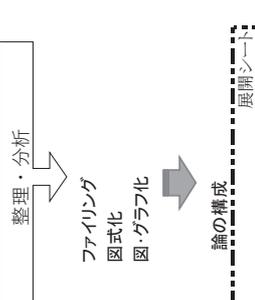


引用について・・・著作権

- ◆ 必要な範囲であること
- ◆ 正統な量であること 引用文<自分の論
- ◆ 著作者の意図を変えないこと
- ◆ 著作物を変形しないこと 漢字、句読点

[3]

プレゼン資料



理解
 自分の言葉で表現
 自分らしい展開
 自分なりの提案



- ◆ 言葉、事柄
- ◆ 事実 (事例、データ)
- ◆ 記述
- ◆ インターネット情報 → * 別紙*
- ◆ 現地調査
- ◆ カードの利用
- ◆ 引用
- ◆ 要約
- ◆ 簡条書き
- ◆ 最新情報
- ◆ 新聞
- ◆ ニュースサイト
- ◆ 事実の確認・基本情報
- ◆ 百科事典
- ◆ 最近の動向
- ◆ 雑誌・一般・学術・専門
- ◆ 書籍でじっくり
- ◆ 入門書
- ◆ 統計書
- ◆ 年鑑
- ◆ 論文(データベース化もあり)
- ◇ 図書館で
- ◇ レファレンスサービスを

2010年	4月	初版	第1刷発行
	11月		第2刷発行
2015年	6月	改訂版	発行

- ◆ 情報の選別
- ◆ 判断の立場
- ◆ 不足した情報の補充
- ◆ 必要か余分か
- ◆ 新しさ

- ◎タイトル : 自分の主張を簡潔に表現
- ◎基本知識 : 問題の背景 動機
- ◎根拠 : 裏づけ① ② その関係性
- ◎結論 : 自分の目標 提案 解決策

- URL検索
- キーワード検索
- AND検索
- NOT検索
- △ www.hirata-h.ed.jp/
- g o 政府関係組織
- a c 大学関係組織
- c o 企業・営利団体
- ad ネットワーク管理組織
- ne ネットワークサービス
- or その他

◎相手にわかってもらえるように

口頭

- 正しく
- 漢字の読み
- 英語の発音
- 耳で聞いてわかりやすく
- 言葉の言い換え
- 語尾の使い分け
- 調べたこと
- 考えたこと
- 結論として導き出すこと

質問

- 具体例
- 数値的根拠
- 自分の体験をふまえて
- 書き残す
- 改善点の検証

「教科主任会」教科横断的な取り組み

1. 教科主任会での協議

(1)文部科学省事業に係る各教科・科目の研究授業について

(5月8日教務部会、9日運営委員会、17日職員会議で提案、21日教科主任会)
従来から行っている校内での各教科の研究授業を、この事業での研究授業として、以下のように実施することを確認した。

- (ア)研究授業を総合的な学習（探究）の時間と横断的な取り組みになるようにすること。
- (イ)国語科、地歴・公民科、数学科、理科、英語科は年2回の実施。保健体育科、芸術科・家庭科は年1回。1回目は9月から11月、2回目は12月から2月の実施。
- (ウ)準備として教育センターの要請訪問を利用して教科内研修を行い、実施前に教案の審議、実施後に合評会を行う。
- (エ)キャリア教育推進委員会で実施内容の報告を行う。

総合的な学習（探究）の時間と横断的な取り組みになるようにすることに対して、「どのようにしたらよいかわからない。」「難しい。」という意見が多く出た

(2)研究授業の留意点の変更（9月4日教務部会、12日運営委員会、20日職員会議で提案）

- (ア)総合的な学習（探究）の時間と横断的な取り組みになるようにすることが難しいということで、育成したい能力の部分での取り組みもありということに変更した。例えば、質問能力の育成とか、意見をまとめる能力の育成とかが考えられた。
- (イ)キャリア教育推進委員会で実施内容の報告を行うこととした。実を取り、教科主任会での報告とした。

(3)2回目は、実施日を指定。（教科主任会11月19日、12月12日運営委員会、18日職員会議で提案）

- (ア)2回目は、2月4日または5日のいずれかに実施する。

(4)地域協働事業成果報告書の作成について依頼（12月10日教科主任会）

2. 研究授業について

1回目

国語科 10月31日 2年2組 古典B「『出雲風土記』に見える古代平田」

外部より8名が来校

地歴・公民科 12月9日 2年2組 世界史A「ブラジルの歴史」

数学科 1月8日 3年4組 数学Ⅱ「数学的思考、『単位換算』『順列・組合せ・確率』」

理科 1月14日 2年1組「酸・塩基とその反応」

英語科 11月11日 2年4組 コミュニケーション英語Ⅱ「Lesson7 The Power of Color」

芸術科 12月9日 1年2組・3組 音楽Ⅰ「校歌に親しみをもって歌おう」

2 回目

国語科 1月15日 3年4組 国語表現「会話・議論・発表」

地歴・公民科 2月5日 2年3組 日本史B「中・近世の雲州平田の流通」

外部より5名来校

数学科 2月4日 2年2組 数学Ⅱ「微分法・積分法」

外部より1名来校

理科 2月5日 2年1組 生物「地域で感じた『生物学』」

外部より3名来校

保健体育科 2月4日 1年1組 保健「交通社会における運転者の資質」

英語科 2月5日 1年1組 コミュニケーション英語Ⅰ

「Lesson“Food Miles”『食料輸入 or 地産地消』」外部より2名来校

1回目の国語科と2回目の地歴・公民科、数学科、理科、英語科、保健体育科の研究授業については、コンソーシアム、県立学校、県内の私立高校、出雲市内の小中学校・中学校、松江市内の中学校等に案内状を送付。1回目の国語科の研究授業に13名の外部からの参観者があった。2回目には二日間間に11名の外部からの参観者があった。

3. 今年度の反省・次年度に向けての取り組み

(1)実施期間が守られなかったので、次年度は今年度の第2回のように実施日を指定する。

外部へ案内を出すのが、何度も案内が来ると受け取る方も煩さになるため、案内をまとめて出す。

(2)各教科で指導案の事前の審議が行われていないこと、合評会を効果的に行うことのために、ポートフォリオ表などを活用について全体研修を行うことを考える。

(3)教科主任会での報告日を指定しておく。

教科 「国語科」の教科横断的な取り組み

国語科では、平田高校が標榜する地域学習、教科横断学習に関連して、平田地域の古代歴史について、生徒の知識を深めることを目標として公開授業を行った。具体的には、古代の平田に関して記述した出雲国風土記の該当部分を古文（2年生）の時間で解釈した。この授業には、外部からも多数の見学者が来校され、授業後いただいた感想もおおむね良好なものであった。

以下、令和2年10月31日（木）に行った国語科公開授業（授業者：柳井）の報告を行う。

I 公開授業テーマ「出雲国風土記」に見える古代平田

II 内容 ①出雲国風土記の「楯縫郡」の冒頭部を（既習の古典文法を駆使して）読む。

②古代平田の地勢についても考える。（8世紀ごろ平田の町域は海中にあった）

III 対象生徒・集団 2年生（男子15名、女子26名）

IV 科目名 古典B（単位数：3）

V 使用題材 出雲国風土記（日本古典文学大系2・岩波出版社・昭和32年刊）p166,167

（1）題材名

出雲国風土記「楯縫郡条」（冒頭部分）

（2）題材の目標

平田の地は、かつて「楯縫（たてぬい）」と呼ばれていた。その記述は古く、8世紀「出雲国風土記」に遡る。「楯縫」の名の由来を知り、習熟しつつある古文文法で解釈していくことを目指す。

VI 指導に当たって

（1）生徒観

授業公開クラスは、文語文法、古文単語の知識等、着実に身に付けつつある。授業態度も良好で、指名による返答も必ず返ってくる。2年生になって『伊勢物語』、『源氏物語』と読み進み、助動詞や敬語に関する知識も少しずつ習得してきた。

初めて読む、古代（8世紀）の文章であるが、既習の文語文法の知識を駆使して、本文の趣旨を読み解いていくことを期待したい。

（2）題材観

出雲国風土記は、和銅6年（713年）元明天皇により編纂が命じられ、天平5年（733年）、聖武天皇に奏上されたと伝わる。

全国各地に残る風土記の中で、ほぼ完本が残るのが出雲国風土記である。その記述は漢文体でなされており、それを古文に書き下したものは、基本的な古典文法に通じていれば、比較的容易に読むことができる。

その出雲国風土記によれば、平田の地は、古代から（明治中期まで）「楯縫」（たてぬい）と呼ばれていた。本時の題材には、その「楯縫」の名前の由来が書かれており、郷土平田に関する歴史的記述に、生徒達は興味を持つと思われる。

(3) 指導観

第1に平田の地が古代、何と呼ばれ、どのような由来でそう呼ばれるようになったかを読み解き、知識としても定着させたい。第2に今まで習熟した古典文法が、古典の原文を読む時、活用できることを理解させたい。第3に、古代の平田の地がいかなる環境にあったかにも思いを馳せさせたい。総合学習においても、郷土平田について学習し、地元の方々や海外の方々との交流する機会もあるが、その時、歴史、地理、地勢の知識等によって、より郷土に関する話題が広がっていくような知識も得て欲しいと願っている。

VII 準備・資料等

- ①出雲風土記楯縫条冒頭プリント（裏面に古代平田の地図、島根県教育委員会解説）
- ②核心古文単語（尚文出版） ③体系古典文法（数研出版） ④古文ノート（以上生徒）
- ⑤説明用画像（数枚） ⑥「解説出雲国風土記」島根県古代文化センター
- ⑦「風土記」日本古典文学大系（岩波出版社） ⑧国語大辞典（小学館）

VIII以上のようなことを、学習指導案とし、授業を行った。以下のような感想を得た。（国語科教員の感想の抜粋）

- ・ICTが巧みに利用され、板書もわかりやすく良かった。
- ・「たてぬい」の由来がよく分かった。 ・資料が豊富でよく調べられていた。
- ・教材開発にかかる熱量を感じた。 ・文法学習のスピード感が良い。
- ・説明語尾が聞き取りにくい時があった。 ・説明が早口で生徒が追いつけない場面があった。

おわりに

以上のように、「出雲国風土記を（古典文法を駆使して）読むことで平田の古代の歴史を知る」という目標はおおむね実現できたように思う。出雲国風土記を教材として活用していくことは、国語科に限らず、他教科でも実践できるように思われる。

教科「地歴公民」による教科横断的な取り組み

1. 主な取り組み

2年生の地域協働学習と関連した研究授業と授業研究の実施（年2回）

2. 研究授業

世界史A（2年生）

- ・単元：特設主題「ブラジルの歴史」
- ・目標：ブラジル国家形成の概要とブラジル人が多様な人々から成り立っていることを把握させる

2年生地域協働学習のテーマのひとつである「多文化共生社会の推進～外国人日本人ともに住みやすいまちづくり～」と関連した授業を行った。地域協働学習で取り組んだブラジル人との交流活動や日本人への啓発活動の取り組みを振り返ると、生徒の、歴史的事実と異なる認識や、「ブラジル人」と「日本人」という単一民族国家的なとらえ方が気になった。そのため、ブラジルの国家の成り立ちやブラジル人の多様な構成を意識させる教材を取り上げ、多文化共生実現に向けたさまざまな実践の基盤を確かにすることをねらいとした。生徒は、ボサノヴァを聴いたり、様々な資料から考察したりしながらブラジルの歴史を学び、振り返りとして「ブラジル人とは何か」という問いに考えを記入した。

日本史B（2年生）

- ・単元：特設主題「中世近世の雲州平田の流通と産業」
- ・目標：
 - ・斐伊川下流域の新田開発にともない、木綿の生産が始まり基幹産業になったことを理解させる
 - ・郷土史から中世（近世初頭）の農業・商工業の発展の全体像を把握させる。

2年生地域協働学習のテーマのひとつである「ファン人口・交流人口の増加～木綿街道の活性化～」に関連した授業を行った。生徒たちは、地域協働学習で木綿街道のフィールドワークを行い平田の歴史を学ぶことからスタートしたが、木綿のことについて取り上げた内容が少なく、雲州平田のことを調べてはいるが日本史Bの通史につながっている意識が低いという点をこの授業で補完することをねらいとした。生徒は、平田高校周辺の写真や新旧の地図を見ながら、地域協働学習と日本史B、そして郷土史と教科書の内容をつなげて学習することができた。

3. 次年度への申し送り

- (ア) 今年度は地域協働学習の終了後に研究授業を行ったが、必要に応じてより効果的な時期に研究授業を実施する。
- (イ) 地歴公民科の研究授業では、地域協働学習と直結した特設主題を設定しやすいため、地域協働学習の授業者である副担任の先生方にも授業を参観していただき、授業研究にも参加していただけるとよい。
- (ウ) 地域協働学習で取り組んだテーマをリンクさせるだけでなく、地域協働学習の写真を活用したことで、より教科横断的な学習のねらいが伝わってよかった。

教科「数学」による教科横断的な取り組み

1. 主な取り組み

- ・ 2年生「あずき」研究に係る数理的考察。
- ・ 2年生「平田まちあそび」イベント企画に係る数理的考察。

2. 研究授業

(ア) 1回目

- ・ 「面積」「体積」の「単位換算」を理解、修得。
- ・ 「順列」「組合せ」「確率」を利用した考察のまとめ、表現、発表。

<p>体積の単位</p> <p>・ ml(ミリリットル) dl(デシリットル) l(リットル) kl(キロリットル) cm(立方センチメートル) m(立方メートル)</p> <p>この6つの関係は？</p> <p><input type="text"/> ml <input type="text"/> dl <input type="text"/> l <input type="text"/> kl <input type="text"/> m</p>	<p>30</p>	<p>最初の3けたの数字の作り方は全部で何通りありますか？</p> <p>10通り × 9通り × 8通り = 720通り</p> <p>3 4 1</p> <p>15</p>
---	------------------	--



(イ) 2回目

- ・ 身の回りの事象に微分の考えが応用できることを認識する。
- ・ 情報を基に自分の考えを表現したり他者の意見を取り入れ協働し、課題解決を図る。

最もお得なのはどのあずき缶？

・ 様々な形の缶であるが、すべて表面積は同じ。

3. 次年度への申し送り

- ・ より幅広いテーマを取り入れる。

教科「理科」による教科横断的な取り組み

1. 主な取り組み

地域協働学習において活用できる、実験やデータ処理の技能の向上、他者と対話しながら物事を進めていく力、地域の課題や状況に科学的な眼を向ける意識の育成を目標とした研究授業と授業研究の実施（年2回）

2. 研究授業

化学基礎（2年生）

- ・ 単元：酸・塩基とその反応
- ・ 目標：酸と塩基の反応について、実験・観察などを通して化学反応に関する基本的な概念や法則を理解させるとともに、それらを日常生活や社会と関連付けて考察できるようにする。

2年生地域協働学習のテーマのひとつである「出雲産アズキの普及」の学習の中で、生徒はアズキに含まれるポリフェノールの定量とデンプン分離を行った。このように、地域協働学習においても化学実験の技能が必要なことがあり、本授業の中和滴定の実験を通して、その技能の向上することを目的の一つとして取り組んだ。

また、3～4人のグループで実験を行うことで、実験を手順に従って正確に行い、実験データを得てデータ処理を行う、という一連の作業を、生徒たちは対話によって進めていた。地域協働学習においても、学習の進め方や課題解決の方法を生徒同士で対話することが大変重要であり、その力を養う授業ともなっていたと思われる。実験途中で失敗した場合、次はどうすればうまく進められるかをグループ内で話し合わせると良かったという反省もあった。

生物基礎（2年生）

- ・ 単元：第4部 生物の多様性と生態系
- ・ 目標：
 - ・ 授業等で学習したことと身の周りの日常の風景とを結びつける視点を持つ。
 - ・ 自分が感じたことを他者へ伝えられるよう工夫をした発表ができる。
 - ・ 他の生徒の発表を聴いて多様な見方を知り、引き続き、学習事項と自然事象とを結びつけようとする意識を持つ。

普段の授業においても、「学習事項と自然事象を結びつけることの大切さ」について話をしているが、地域協働学習においても、科学的な視点で地域を見る、という姿

勢が、地域の課題発見や問題解決につながる糸口になり得ると考える。生徒自身が地域の風景の中に学習事項を見いだした瞬間を写真に撮影し、それを互いに発表することで、その姿勢を育て、発表においては、他者に伝わるように写真や言葉を工夫する技能を習得した。

生徒たちは大変意欲的に取り組み、撮影した写真を説明するだけにとどまらず、写真を見て生まれた新たな疑問について調べ発表に織り込むことや、自分の学習した知識をもとに写真の状況の推測を行うなど、授業者の予想を越えた取り組みを見せた。

3. 次年度への申し送り

(ア) 地域協働学習の計画や進行状況を確認しながら、教科の授業において地域協働学習で活用できる力の育成や学習テーマの発展的な内容を取り扱うなど、地域協働学習と教科の連携を密にしていきたい。

(イ) 生徒に、研究授業と地域協働学習の連動を意識させることができるとよかった。

教科「保健体育」による教科横断的な取り組み

1. 主な取り組み

- (ア) 出雲署管内（平田周辺）での交通事故の発生状況について現状を把握するために、出雲署に連絡をして連携を行った。
- ・ 出雲署管内での交通事故の発生状況について、どこでどのような交通事故が発生しているかについて、情報提供を依頼した。
 - ・ 出雲署管内でも特に、平田高校のある平田地域周辺について詳細を知るために平田広域交番の担当者に連絡をして情報共有をはかった。
 - ・ 全体的な発生状況の把握のみではなく、気になる交通事故などについては、追加の情報提供を依頼し、より詳細な発生状況を把握した。
- (イ) 出雲署管内（平田周辺）での交通安全上、注意すべき箇所を把握し、個人やグループでどのような危険が予測されるかを考察し、発表した。
- ・ 出雲署管内（平田周辺）で比較的交通事故が多く発生している箇所へ直接出向き、危険を予測しやすい角度の写真を撮影した。そして、パワーポイントを使用してその危険箇所の写真を生徒に見せることにより、生徒はより身近に危険箇所があることを実感することができた。
 - ・ グループでのディスカッションなどを多く取り入れ、様々な角度や切り口でどのような危険が予測できるかを考察した。
 - ・ グループで考察し、まとめた内容を2～3分程度の時間制限を設定し、プレゼン形式で発表する機会を設けた。その結果、人前での発表などを苦手としていた生徒もしっかり発表することができるようになった。
- (ウ) 島根県内での死亡事故に関する傾向と、出雲署管内での交通事故に関する発生状況や傾向を比較し、考察する。
- ・ 島根県内での事故の発生状況を島根県警からの発表をもとに動向を把握する。
 - ・ 出雲署管内での過去3年間死亡事故について調べ、発生状況や傾向について考察する。
 - ・ 2019年の島根県内での死亡事故についての最終的な結果の発表が島根県警からあったのを受け、それまで取り組んできた出雲署管内での死亡事故の傾向と島根県内での死亡事故の傾向を比較し、「歩行者・高齢者・夜間」という三つのキーワードが共通することに気づくことができた。

2. 研究授業

(ア) 1回目

- ・ 交通安全というテーマで高校の立地する地域の交通事故について取り上げた。その中で、通学路で特に注意を必要とし、平田広域交番からも特に気をつけるように要望のあった交差点などを取り上げ、平田広域交番との連携をはかった。
- ・ 地域の交通安全について考える機会にしたかったので、事前に地域の道路の危険箇所を写真で撮影し、教材として使用した。このことによって、ディスカッションの場面では普段よりも活発に意見をかわす姿が見られた。

3. 次年度への申し送り

- (ア) 今回の取組では警察署との情報共有の主な手段は電話だったが、実際に警察署などに出向いて話を聞いたりするともっと違った情報や、学校と警察署とのコラボ企画など、出来ることが広がっていく。
- (イ) 今回の取組では危険箇所の把握や、死亡事故の傾向を考察するところまで行った。今後は更に地域との繋がりを強め、地域に貢献するために危険箇所や死亡事故の発生の回避について地域と共にできることを考えていくと、より学習に深まりがでる。
- (ウ) 次の機会には警察のみではなく、地域の交通安全協会や地域の住民との意見交換や合同での活動を入れていくと、平田高校での取組や成果が地域にも普及していくと考える。

教科「芸術」による教科横断的な取り組み

1. 主な取り組み

(ア) 図書館と連携した研究授業の実施（音楽）

2. 研究授業

(ア) 12月前半、平田高校校歌を教材として取り上げた研究授業を行った。

(イ) 授業では、学校司書から資料提供していただいた平田高校校歌の歴史についての資料と、残された3曲の校歌の楽譜を用いた。内容は、これまでの平田高校の変遷、また、その都度作曲された校歌の音楽的な特徴を学びながら、現在の校歌をどのように工夫すればよりよい音楽表現をすることができるのか、といったものだった。

(ウ) 生徒の感想から、「校歌に対して親しみを持つことができた」等の肯定的な意見も見られたことから、今後も行っていくと良いと感じた。

3. 次年度への申し送り

(ア) 他教科との横断的な指導を行うことが今後も可能であれば実施するとよい。

教科「英語」による教科横断的な取り組み

1. 生徒に身につけさせたい力

- 自立した学習ができ、積極的に言語習得に取り組む姿勢
- コミュニケーション手段として将来も役立つ英語力
- 英語学習を通して物事を多面的、批判的に見る力
- 地域協働学習をきっかけとしてより積極的に英語で発表する力

2. 研究授業について

(1) 教科で取り組んできたこと

1年生

Lesson 9 Food Miles: Where Does Our Food Come From?

- ・「フードマイルズ」の考え方に関心を持ち、意欲的に聞いたり読んだりする。
- ・「フードマイルズ」について聞いたり読んだりしたことを理解したり、概要や要点をとらえたりする。
- ・食材の産地や輸送距離に関して、英語で表現することができる。

2年生

Lesson 7 The Power of Color

- ・色の視覚的効果と心理的効果に関心を持ち、意欲的に聞いたり読んだりすることができる。
- ・色の視覚的効果と心理的効果について聞いたり読んだりしたことを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。
- ・うまく言えないことがあっても、学んだ表現を用いて、自分が提案することについて発表することができる。

(2) 内容及び授業後の協議内容

1年生 Lesson 9 Food Miles: Where Does Our Food Come From?

- ・ワークシート(プリント)が多すぎ、生徒の理解・練習も時間的には不十分であわただしい。
- ・Lesson 9 に入って、本時は3時間目で本文全体通読に1時間、参考英文(やや難しい)の概要読み取りに1時間と、生徒の実態(1年生)を考慮するとかなり難しい。
- ・日本語の指示、例えば2つの文章の比較を行う場合も、先に Lesson 9 の特定箇所を示し、それと内容的に同じ部分を参考英文で探すように生徒に指示する方が生徒には分かり易い。
- ・Lesson 9 の単語を最初に1時間かけて生徒に解説する方が本校の今の生徒には分かり易く、取り組みやすいのでは。
- ・「研究授業」であり、「地域協働・教科横断的」の授業内容など、事前協議を科内でもっと徹底して行うべきだった。
- ・目標英文の音読練習をしっかり行った後、各自の表現練習(筆記、音読とも)を行うとよい。

2年生 Lesson 7 The Power of Color

- ・ウォームアップのリスニングについては、スピードをもう少し遅くすると、さらに効果的になったのではないか。
- ・グループ発表を経てのプレゼン発表者については、評価表を下に選出するほうがよい。
- ・地域協働学習のキャッチコピーポスターを材料にしたのは非常によかった。

3. 次年度に向けての取り組み

- 自立した学習ができ、積極的に言語習得に取り組む姿勢を育成する
- コミュニケーション手段として将来も役立つ英語力を育てる
- 英語学習を通して物事を多面的、批判的に見る力を養う
- 地域協働学習をきっかけとしてより積極的に英語で発表する力を育成する
- アクティブラーニング、ICT機器のさらなる活用の研究

教科「家庭」による教科横断的な取り組み

1 家庭科での取り組み

本校では普通教科「家庭」の科目として「家庭基礎」を履修する。この科目の目標は、以下の通りである。

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりより社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。(後略)

これをふまえ今年度実施した2つの取り組みを報告する。

2 今年度の取り組み

1) 高校生を対象とした食育授業

島根県教育庁保健体育課健康づくり推進室主催で島根県立大学看護栄養学部健康栄養学科による授業を実施した。



(1)目的 ・朝食をテーマに食生活の重要性について学ぶ。

・バランスのとれた朝食摂取への理解を深め、実践につなげる。

(2)授業実施者について

島根県立大学健康栄養学科より中畑典子氏と川谷真由美氏。大学生4名。

(3)授業内容

指導内容	資料、機器等
1. 学習課題の確認 (5分) 朝食のとり方の振り返り Q1. 毎日朝食を食べますか? Q2. 自分の朝食に近い食事内容はどれですか? ※食事写真を数パターンあげて○をする	朝食記入用紙 パソコン プロジェクター スクリーン
2. 講義 (15分)	別添資料
3. グループワーク (15分) 5~6人のグループで話し合う ①朝食に関わる課題、問題点 ②実践できること ※県立大学の学生が進行等行う	食の学習ノート 記録用紙等
4. 発表 (10分)	
5. 学習の振り返り (5分) 本時の学習で考えたこと、今後実践できそうなことを ワークシートに記入する	ワークシート

(4)学習活動の様子

グループワークの様子



2) ホームプロジェクト

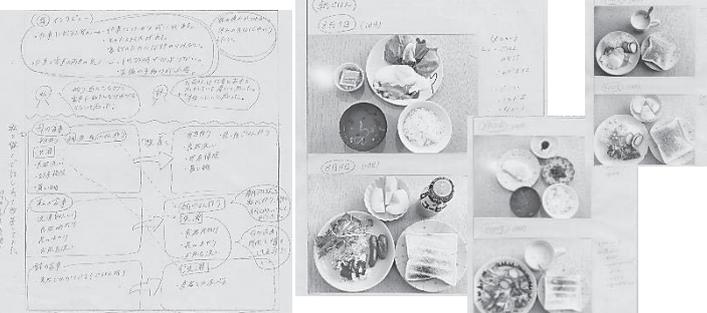
(1)内容

ホームプロジェクトは「家庭基礎」の内容D「ホームプロジェクトと学校家庭クラブ」に位置づけられる。自己の家庭生活の中から課題を見だし、課題解決を目指して主体的に計画を立てて実践する問題解決的な学習活動である。

(2)本年度の取り組み

夏季休業中と冬季休業中の課題として年2回取り組んだ。レポートは全員が提出した。各クラスではペア発表と代表者のクラス発表を、文化祭では校内選考により9作品の掲示発表を行った。

(3)作品例

テーマと概要	レポートの様子
<p>「冷蔵庫の整理整頓」</p> <p>母の困りごとをテーマにした。記録写真を撮り、冷蔵庫に収められた食材を徹底的に調査。不要なもの等を確認し、使いやすい冷蔵庫に改善した。</p>	
<p>「玄関を明るくしよう」</p> <p>出かける時、帰ってきた時に気持ちの良い玄関にしたいというのがテーマ設定の理由。掃除後、玄関を飾るアイデアを複数出し、実践し、玄関の印象を改善した。</p>	
<p>「家事分担をみなおし、母の家事負担を減らす」</p> <p>母の1日の過ごし方を調べ、自由な時間が少ないことに気付いた。家族間で話し合い、家事を分担。朝ご飯作りを継続して行った。</p>	

3 次年度に向けての取り組み

学んだことを実践につなげることで、主体的に家庭や地域の生活を創造する力を育てたい。ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の活用について、さらに工夫する。

教科「情報」による教科横断的な取り組み

1. 主な取り組み

(ア) 研修旅行まとめ新聞の作成

- ・ 9月 山陰中央新報社 NIE 担当者による講演会（2 h）
※NIE 担当者への連絡調整は、今年度は研修旅行担当者にしていただいた。
- ・ 10月中旬～下旬 研修旅行まとめ新聞の作成（5 h）
※発表は、1年生副担任による総合的な探究の時間で実施した。

(イ) パソコンの基本操作の習得

- ・ 5～6月 ワードの操作方法
- ・ 7月 パワーポイントの操作方法
- ・ 12月～2月 エクセルの操作方法

(ウ) クラウド型学習支援システム Classi の初期指導

- ・ 4月 最初の授業で、生徒用 BenesseID の配布とパスワードの設定、アプリのダウンロード、学習記録の入力方法
- ・ 7月 ポートフォリオに関する生徒向け研修
- ・ 10月 Classi コンテンツボックスの利用マニュアル配布
研修旅行中に個人のスマホで撮影した写真を、パソコンで利用するためのアップロード・ダウンロードの方法

2. 研究授業

(ア) 実施していない。

3. 次年度への申し送り

- (ア) 山陰中央新報社 NIE 担当者とのやりとりは、教科内の取り組みの一部であるから、情報科で担当したほうがよい。
- (イ) 研修旅行まとめ新聞を、手書きで作るのか、ワードやパワーポイントで作るのか、教科内でしっかりと検討しておいたほうがよい。どちらにも一長一短がある。
- (ウ) 新聞の発表会も含めて、情報の授業が使えるかを検討する。

コンソーシアム会議、運営指導委員会

1. 第1回コンソーシアム会議

(ア) 5月14日(火) 14:00～16:00 プラタナス記念館2階

(イ) 内容

- ① 学校長あいさつ(10分)
- ② 参加者自己紹介(20分)
- ③ 地域協働事業全体の説明(25分) ④の前に10分休憩
- ④ 2年生地域協働学習の説明(20分)
- ⑤ 質疑応答(35分)

(ウ) いただいた意見

- ① あずきの圃場で排水改革工事を6月に行う。作付け後の排水の具合等を調査していく予定だが、2-1基礎研究班にも協力してもらいたい。
- ② 外国人との交流は、平田青年会議所やコミュニティーセンター、出雲市役所でも協力ができることがある。声を掛けて欲しい。
- ③ 平田ロータリークラブでは、要請があれば協力できる。ぜひ声をかけて欲しい。
- ④ 美術部や書道部などの文化部に、地域での文化系行事に参加して欲しい。

2. 第1回運営指導委員会

(ア) 7月30日(火) 14:00～16:00 応接室

(イ) 内容

- ① 学校長あいさつ(10分)
- ② 参加者自己紹介(10分)
- ③ 地域協働事業全体の説明(15分)
- ④ 2年生地域協働学習の説明(15分)
- ⑤ 質疑応答

(ウ) いただいた意見

- ① 事業の成果を、数値などの指標で「見える化」できるようにしておくこと。
- ② 1年生のバスツアーなどの目的やねらいを明確にすること。
- ③ 名古屋研修旅行とのつながりのある内容にすること。

3. 第2回コンソーシアム会議 兼 第2回運営指導委員会

(ア) 11月13日(水) 16:00～17:00 プラタナス記念館2階

(イ) 内容

- ① 校長挨拶(10分)
- ② 地域協働事業 中間報告(15分)

③ 運営指導委員からの講評（15分）

④ 質疑応答（20分）

(ウ) いただいた意見

① バスツアーの「ねらい」を明確にし、教員間で共有してもらいたい。

② 生徒は「平田地域」を市街地だけだと思い込んでいる。山間部や海岸部についての理解をすすめて欲しい。人口などのデータ収集の際も気をつける。

③ 発表の音が小さく聞き取りにくい。もっと大きな声でプレゼンをしてほしい。

④ 平田の市街地にある「空き家」1軒を、生徒の活動の場として活用してもらいたい。活用方法を高校側で検討して欲しい。

(エ) コンソーシアム懇親会 18:00～20:00 ゆらり 30名参加

4. 第3回コンソーシアム会議 兼 第3回運営指導委員会

※新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため、2/28（金）に中止を決定。

(ア) 予定日 3月10日（火）16:00～17:00 プラタナス記念館2階

(イ) 予定内容

① 校長挨拶（10分）

② 地域協働事業 最終報告 および 次年度計画（15分）

③ 運営指導委員からの講評（15分）

④ 質疑応答（20分）

5. 事前準備

(ア) 2ヶ月前 案内文の作成・稟議・発送

※第3回は、地域協働フォーラムの案内に同封した。

(イ) 2週間前 出欠回答のべ切、参加者一覧表の作成

(ウ) 直前 担当者打ち合わせ会議、茶湯等の手配

(エ) 前日 会場準備

6. 次年度への引き継ぎ

(ア) 第2回は地域協働フォーラムと同日に会議を開催したので、生徒の成長した姿をみていただき好評であった。

(イ) 第2回の案内文送付のときに、地域協働フォーラムの案内と別々に郵送したため、いくつかの団体で混乱が起きた。案内の送付は、まとめてした方がよい。

(ウ) 懇親会を設定する場合は、金額や時間など参加しやすい状況を考える必要がある。

編集後記

この成果報告書は文部科学省事業として国に報告するために作成したものではあるが、単なる事業記録集ではなく、今年度事業の成果と課題について掲載する内容を厳選し、その要点をまとめたものである。そこには、今後もこの事業を継続し、発展させていくための指針として、後を引き継いでいく者が実際に活用することを願い、作成が進められた意図がある。

この報告書はこれまで取組を支えていただいたコンソーシアム参加団体やミッションコーディネーター・ミッションプランナー、近隣の小・中学校や県内の高校、PTAや卒業生会役員、学校評議員などの学校関係者の方々にお届けすることになっているが、われわれ教職員も一人一冊ずつ、受け取る予定となっている。

誰よりも平田高校の教職員一人ひとりが、この報告書の作成に力を注いだ方々の思いを受け止め、次年度への取り組みに意欲をかき立てられることを期待している。そのことこそが、われわれが進めている「プラタナスプラン」の構築による地域人材育成の循環システムづくりと同様、この事業推進の好循環と質の向上を生み出していくものと考えからである。

今年度の事業推進には多くの困難がともなった。高校3年間を見通した調和のとれたカリキュラムづくりをめざすため、昨年度より取り組んだ地域課題解決学習をベースに、これまで校内の各分掌や学年で個別に企画されていたキャリア教育や研修を「プラタナスプラン」のもとに組み直し、さらに新規の事業も加わった。しかし、その分、年度当初は何をどうしてよいのか、どこから何を始めてよいのか、当惑し、不安に駆られた声が此処彼処で聞かれた。

ところが、夏以降は少しずつ、前向きに新しいことに挑戦する姿がわれわれ教職員の中に見え始めた。そのことがまた周囲の勇気ある人に伝播し、明るい笑顔で活動に取り組む多くの仲間を生み出すことにつながっていった。そこには、何よりも探究活動に取り組む生徒たちのやる気と行動を目の当たりにし、この事業推進が生徒たちの主体性の向上にしっかりと結びついているという実感が、われわれ教職員の心に湧き上がってきたことがある。「生徒が動けば先生も動く」という教職員の本質を再認識できた一年であった。次年度も、さらなる成果の獲得をめざして、この事業が進んでいくことを願っている。

最後に、本事業推進を全面的に支えていただいたコンソーシアム参加団体の皆様、取組の様子を機会あるごとに参観いただき貴重なご意見をいただいた運営指導委員の皆様、文科事業の管理機関として伴走いただいた県教育委員会、とりわけ親身になって直接ご指導いただいた教育指導課の皆様にご心より感謝申し上げます。また、年度末の繁忙期に快く印刷業務を引き受けていただいた土江明文社様にもお礼申し上げます。